

原子炉の状態 月例レポート 2025年11月

概要 東京電力の発表によると、[11月26日](#)現在、福島第一原子力発電所では、原子炉格納容器(以下、PCV)空調機戻り空気温度が、1号機:[23.8°C](#)(前月27.2°C)、2号機:[29.4°C](#)(前月33.0°C)、3号機ではマイクロドローン調査準備のため戻り側温度計は外されているため供給側温度で[23.4°C](#)(前月27.8°C)であり、原子炉格納容器の放射性物質(Xe-135 [参照](#))濃度も、1号機A系: 1.28×10^{-3} Bq/cm³(前月末 1.28×10^{-3} Bq/cm³)、2号機A系:[検出限界値【 \$1.2 \times 10^{-1}\$ Bq/cm³】以下](#)(前月末も同じ)、3号機A系:[検出限界値【 \$1.8 \times 10^{-1}\$ Bq/cm³】以下](#)(前月末も同じ)と、有意な変動は見られていません([5ページ参照](#))。

筆者注： PCVのXe-135濃度を測定しているガス放射線モニタは、1号機は半導体検出器、2・3号機はシンチレーション検出器となっています。
機種の違いの詳細および理由は分かりません

目次の次、3~4ページに<、0 過酷事故の前と後との福島第一原発の原子炉を中心とした状況の異同模式図>を配置しています。全体的な状況をお読み取りください。

その次の5~6ページには、[11月のイチエフ廃炉作業全般における主な取り組みと状況](#)を示しています。直近の個別の取り組みをお読み取りください。5ページではイチエフ構内の平面画像に主な取り組み事項を配置しています。6ページは各事項の簡単な解説です。ページ間では各ボックス冒頭の<T1><R2>等の記号で照合してください。[青地のボックス](#)は今月東京電力が月例の「廃炉・汚染水・処理水対策の概要」において、主な取り組みとして示したもののうち実際に行われた作業、[灰色地のボックス](#)は計画・準備・試験・報告等、[黄色地のボックス](#)は筆者が東京電力が毎日発表する「プラント関連パラメータ」等をチェックした際抱いた疑問等、筆者の判断によるものです。いずれのボックスも原資料があるものはそのハイパーリンクを埋めてあります。

[11月のイチエフ内のインシデント・事故情報](#)は、[79ページ](#)をご覧ください。

巻末に、52新聞社と共同通信による[47Newsの原発問題のニュース・速報サイト](#)の記事を、[イチエフに関する報道【廃炉作業】](#)、主として福島県浜通りの状況についての[イチエフ事故の後始末](#)、原子力発電・核施設をめぐる動きに分けてクリッピングしています。

目次

0 過酷事故前後の福島第一原子力発電所の状況の異同模式図	…3
1 主な取り組み(更新)	…5
2 プラント関連パラメータ	…7
3 原子炉内の温度(更新)	…8
4 原子炉建屋から放出された放射性物質による外部汚染の程度(更新)	…9
5 その他の指標(更新)	…11
6 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止試験) (1)～(3) 概要	…12
(4) 第Ⅰ期(2020年5月まで)	…15
(5) 第Ⅱ期(2020年8月まで)	…35
(6) 第Ⅲ期(現在)の一部 ⑥ 2号機TE-2-3-69Rの謎	…38 …45
(7) 循環注水冷却スケジュール(更新)	…50
7 原子炉格納容器ガス管理設備	…51
8 東京電力が発表してきた原子炉の状態を表すデータの信頼性について	…74
9 原子炉建屋から新たに放出された放射性物質量の評価についての考察	…76
10 東京電力が発表したイチエフ内のインシデント・事故情報(更新)	…81
11 イチエフに関する報道(更新)	…82

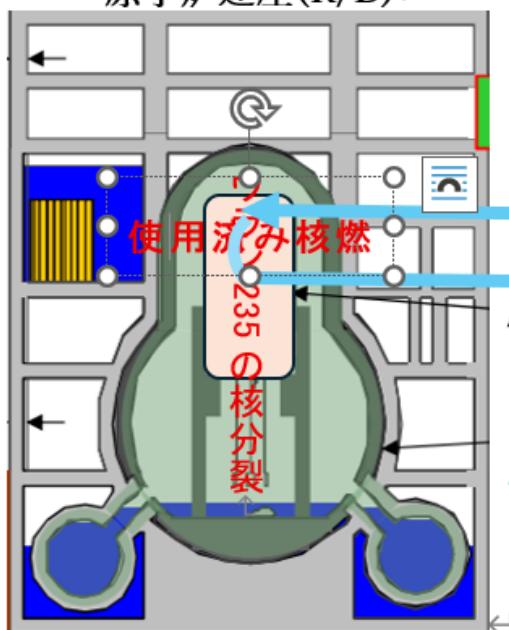
<おさらい> 過酷事故前後の福島第一原子力発電所の状況の異同模式図

「燃料デブリ」の取り出し・「処理水」の海洋放出などはメディアでご覧になったことはあっても、「Sr(ストロンチウム)吸着塔」、「HIC(高性能容器)」、「ゼオライト土嚢」など、また、地下水・雨水が原子炉建屋に入り核汚染水となり、ALPS(多核種除去装置)などを経て海洋放出されている流れについて、それが何でありどうなっているのか、さらに、福島第一原発のリスク、廃炉作業の中でどういう位置を占めるのか、筆者にとっても分かりにくいものがあります。

そこで今回、2011年3月の過酷事故の前と後との福島第一原発の原子炉周辺のもっとも基本的な状況を視覚的に比較することで、事故の全体像、現在の福島第一原発のリスク、廃炉作業の状況を少しでも分かりやすいものにしようと試みました。

(事故前の原子炉と発電機)

原子炉建屋(R/B)



原子炉圧力容器(RPV)

原子炉格納容器(PCV)

左の画像は事故前の福島第一原発の原子炉を取り巻く状況です。

ご覧の通り。事故前は原子炉内でのウラン235の核分裂による熱の発生により、原子炉(原子炉圧力容器)と発電機の間で水(水蒸気)が交換される閉じたサイクルでした。

そして次ページの画像が。事故後の福島第一原発の原子炉周辺の状況です。

(次ページに続く)

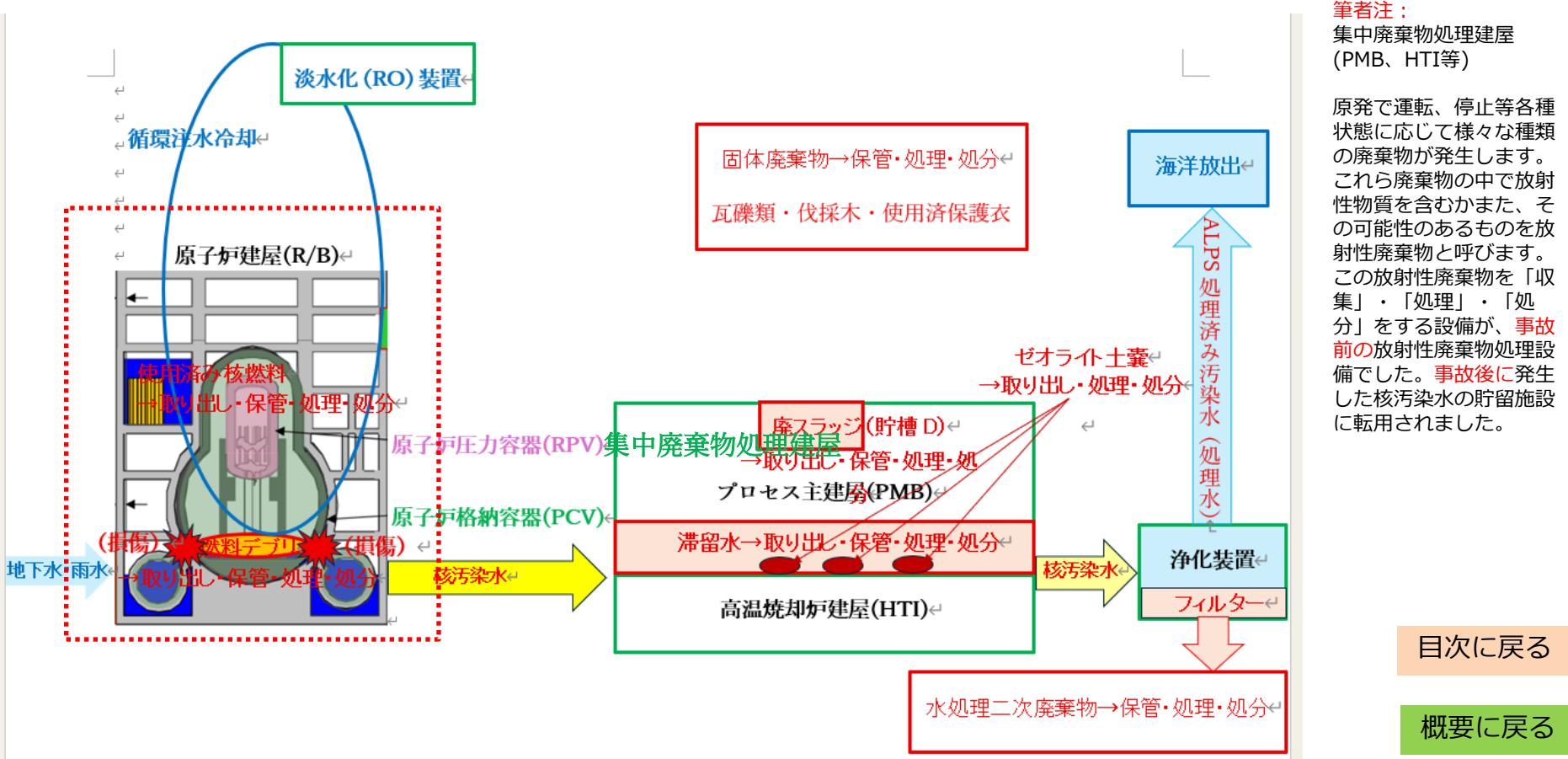
目次に戻る

概要に戻る

下の事故の後の福島第一原発の原子炉を取り巻く状況についての画像をご覧ください。

事故の前の、原子炉と発電機だけの閉じたサイクルが解け、放射性物質の一部が海洋など福島第一原発の外の環境に開かれてしまっています。さらに廃炉に向かっては、今後もっと様々な放射性廃棄物が広く福島第一原発の外部の環境にまで開かれて行かざるを得ません。最終的な処分にいたっては何も決まっていないも同然です。そういう意味では福島第一原発の事故は収束したどころではなく、現在も進展しているというべきかもしれません。現在福島第一原発に存在する放射能の総量については[5~7ページ](#)をご覧ください。

本「原子炉の状態レポート」では、主として下図左の赤色点線部分を取り扱います。



1 主な取り組みと状況(更新)

〈T1〉使用済み核燃料プール対策(1号機)
使用済み核燃料取り出しに向けた工事の進捗状況

〈T2〉核燃料デブリの取り出し準備(3号機)
PCV内部気中部調査(マイクロドローン調査)

〈T3〉核燃料デブリの取り出し準備(1・3号機)
1,3号機 原子炉建屋内のドローン調査について



<T1> 1号機使用済み核燃料取り出しに向けた工事の進捗状況

1号機において今後予定される、原子炉建屋5階オペレーティングフロア(以下、オペフロ)にある使用済み核燃料プールからの使用済み核燃料の取り出し時に、放射性物質の環境への飛散を抑制するための大型原子炉建屋カバーの設置作業のうち、2025年10月12日にボックスリングの設置が完了。11月7日には可動屋根全6ブロック中、1ブロック目が設置されました。オペフロのガレキ撤去は、大型カバー完成後に実施されますが、東京電力は、上部架構やボックスリングが完成し、オペフロ上のダスト飛散リスクが低減されたことを踏まえ、ガレキ撤去の準備作業としてオペフロ北側にガレキ処理用の作業構台や重機を置くための床面調査を、12月以降行うとしています。床面調査に先立ち、ガレキ移動等の作業を行いますが、ダスト飛散防止の観点から大型カバー壁内の把持・切断・集積に留めます。大型カバーの壁は高さ(25m)従来の防風フェンス(4m)に対し、防風性が向上しており、オペフロ内の風は抑制された状態となります。調査中に、オペフロダストモニタの警報が発報した際は作業を速やかに中断し散水を行い、大型カバー可動屋根設置後は、散水に加え可動屋根を閉塞するとしています。

<T2> 3号機原子炉格納容器(以下、PCV) 内部気中部調査(マイクロドローン調査)

3号機では、今後の堆積物調査や燃料デブリ取り出し横アクセスで重要となるX-6ペネトレーション(PCVの貫通孔。以下、X-6ペネ)周辺やペデスタル(PCV底部で原子炉圧力容器を支えているドーナツ状の土台)内の情報収集のため、X-53ペネからマイクロドローン(130×120×40mm)をPCV内部に挿入し、PCV内部で飛行させて調査することが計画されています。調査では、X-6ペネ他のPCVの貫通孔の状態やペデスタル内部をマイクロドローンのカメラで確認するとともに、点群データを取得し、3Dモデル構築も目指されています。東京電力によると、調査に必要となるPCVの水位低下作業は10月17日に完了。また、マイクロドローンをPCV内部に送り込む装置の現場設置も11月27日に完了したそうです。調査は12月初週に開始し12月に完了する見込みとされました。が、福島民友新聞記事等によると、12月4日、マイクロドローンをPCV内部に送り込む装置をX-53ペネに挿入したところ、途中で動かなくなつたそうです。原因は不明で調査開始のめどは立っていないとのことです。

<T3> 1,3号機 原子炉建屋内のドローン調査

原子炉建屋内は、事故の影響により高線量化したことなどから、一部エリアでは調査が十分行えていない状況です。この状態を開けるため、東京電力は、1,3号機原子炉建屋内の調査を小型ドローン(199×194×58mm)により実施する計画を明らかにしました。
※3号機PCV内部ドローン調査とは別のことです。
1号機については、水素滞留のリスクがあるIC(A)(非常用復水器)のMO弁(3A)、計装ラインの一次弁を調査対象とし、水素ページの検討を行うため、弁の状態等を目視で確認するそうです。
3号機については、燃料デブリ取り出しに向けてX-6ペネ周辺の線量影響の大きい計装ラック類の撤去が必要となった場合、配管のPCVバウンダリ(PCV内部の放射能を外部に漏らさないための障壁)の構築、配管の閉止措置を考慮する必要があるため計装ラック類に繋がっているラインの一次弁の状態等を目視で確認するそうです。
12月上旬より実施予定でとのことです。

<T4> 2号機燃料デブリサンプル(1回目)の分析結果について(続報)

2号機の1回目の核燃料デブリ(以下、デブリ)の試験的取り出し作業により採取されたデブリサンプルの分析について、以下は、主にNFD(日本核燃料開発(株))のTEM分析(筆者注:薄く加工した試料に電子線を照射し、透過または回折した電子を観察することで、試料の微細構造や結晶状態をナノメートルオーダーで詳細に調べる分析手法)から得られたサンプルの生成過程の推定の続報だそうです。
組成分析の結果(既報)は、主要な元素に占めるFe(鉄)+Cr(クロム)+Ni(ニッケル)の組成が、炉心下部構造物まで含めた平均組成とほぼ一致していることから、主に圧力容器内の構造材と燃料が溶融混合し生成したと推定されます。また、ウラン濃縮度が炉心の平均値に近いことから、溶融・混合の過程で均された可能性があり(既報)、今後も知見を集めることで、取り出し時の安全対策・臨界防止対策や保管方法の検討時に活用できる可能性があるとのことです。

TEM分析で見られた結晶構造や組成から、今回の燃料デブリの生成過程を推定したところ、少なくとも1900°C以上の高温で溶融したと推定しています。その後、固液混合の状態を経て、ペデスタル下部に移行していく過程で約1350°C近傍で凝固したと推定しています。また流動性のある固液混合の状態を経ていることから、サンプル採取箇所の近傍にも同様の燃料デブリが存在する可能性があります。
今回の結果とこれまでの検討を組み合わせ、事故がどのように進展したかの推定を進め、燃料デブリ分布等の炉内状況の把握に努め、燃料デブリ取り出し工法や内部調査の検討等に活用する予定です。

2 プラント関連パラメータ

(更新)

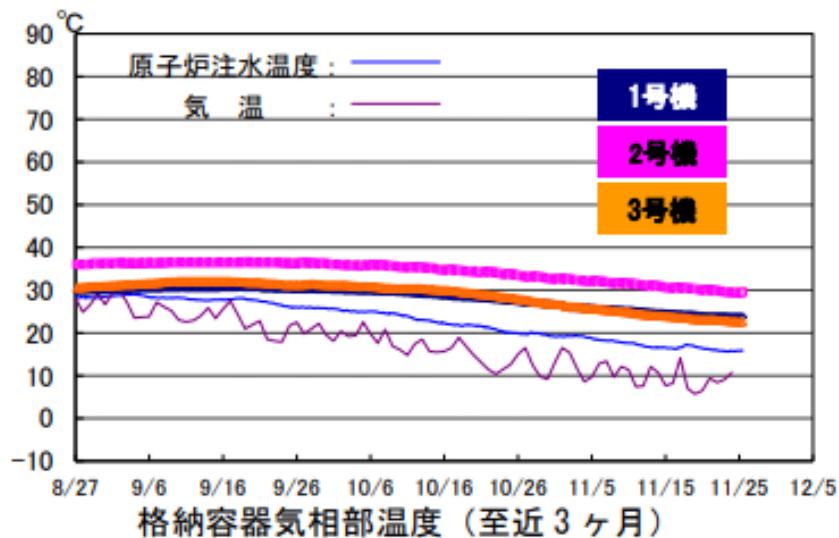
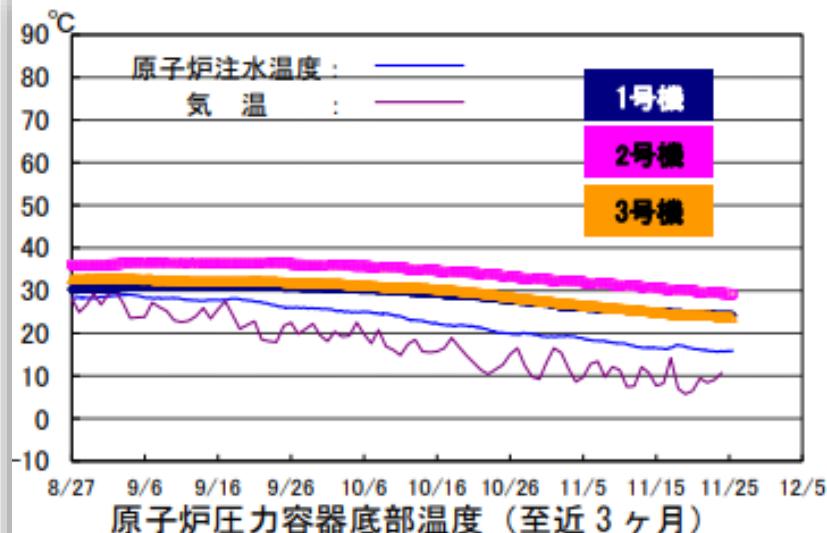
号機	1号機		2号機		3号機	
	10月29日	11月26日	10月29日	11月26日	10月29日	11月26日
原子炉注水状況	給水系 : 1.4m³/h CS系 : 0.0m³/h (10/29 11:00 現在)	給水系 : 0.0m³/h CS系 : 1.4m³/h (11/26 11:00 現在)	給水系 : -m³/h ※6 CS系 : 1.4m³/h (10/29 11:00 現在)	給水系 : -m³/h ※6 CS系 : 1.5m³/h (11/26 11:00 現在)	給水系 : 1.7m³/h CS系 : 1.9m³/h (10/29 11:00 現在)	給水系 : 1.7m³/h CS系 : 1.7m³/h (11/26 11:00 現在)
原子炉圧力容器底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1) : 27.3°C VESSEL ABOVE SKIRT JOINT (TE-263-69H1) : 23.7°C VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2) : 27.2°C (10/29 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1) : 24.1°C VESSEL ABOVE SKIRT JOINT (TE-263-69H1) : 21.9°C VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2) : 23.9°C (11/26 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3) : 32.8°C RPV Temperature (TE-2-3-69R) : 31.6°C (10/29 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3) : 29.1°C RPV Temperature (TE-2-3-69R) : 28.0°C (11/26 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM ABOVE SKIRT JOT (TE-2-3-69F1) : 27.7°C VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H1) : 28.2°C (10/29 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM ABOVE SKIRT JOT (TE-2-3-69F1) : 23.5°C VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H1) : 23.8°C (11/26 11:00 現在)
原子炉格納容器内温度	HMH-12A RETURN AIR (TE-1625A) : 27.2°C HMH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F) : 27.1°C (10/29 11:00 現在)	HMH-12A RETURN AIR (TE-1625A) : 23.8°C HMH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F) : 23.8°C (11/26 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B) : 33.0°C SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2-16B (TE-16-114G#1) : 32.8°C (10/29 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B) : 29.4°C SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2-16B (TE-16-114G#1) : 29.3°C (11/26 11:00 現在)	PCV Temperature (TE-16-002) : -°C ※7 SUPPLY AIR D/W COOLER (TE-16-114F#1) : 27.8°C (10/29 11:00 現在)	PCV Temperature (TE-16-002) : -°C ※7 SUPPLY AIR D/W COOLER (TE-16-114F#1) : 23.4°C (11/26 11:00 現在)
原子炉格納容器圧力	0.10kPa g (10/29 11:00 現在)	0.10kPa g (11/26 11:00 現在)	3.40kPa g (10/29 11:00 現在)	3.86kPa g (11/26 11:00 現在)	0.53kPa g (10/29 11:00 現在)	0.53kPa g (11/26 11:00 現在)
空素封入流量 ※1	RPV (RVH-A) : -Nm³/h RPV (RVH-B) : 16.85Nm³/h (JP-A) : 15.15Nm³/h (JP-B) : -Nm³/h PCV : -Nm³/h ※2 (10/29 11:00 現在)	RPV (RVH-A) : -Nm³/h RPV (RVH-B) : 17.11Nm³/h (JP-A) : 15.27Nm³/h (JP-B) : -Nm³/h PCV : -Nm³/h ※2 (11/26 11:00 現在)	RPV-A : 6.29Nm³/h RPV-B : 6.29Nm³/h (JP-B) : -Nm³/h PCV : -Nm³/h ※2 (10/29 11:00 現在)	RPV-A : 6.40Nm³/h RPV-B : 6.41Nm³/h PCV : -Nm³/h ※2 (11/26 11:00 現在)	RPV-A : 6.89Nm³/h RPV-B : 6.81Nm³/h PCV : 8.73Nm³/h (10/29 11:00 現在)	RPV-A : 6.97Nm³/h RPV-B : 6.92Nm³/h PCV : 8.79Nm³/h (11/26 11:00 現在)
原子炉格納容器水素濃度 ※3	A系: 0.00vol% B系: 0.00vol% (10/29 11:00 現在)	A系: 0.00vol% B系: 0.00vol% (11/26 11:00 現在)	A系: 0.07vol% B系: 0.06vol% (10/29 11:00 現在)	A系: 0.10vol% B系: 0.09vol% (11/26 11:00 現在)	A系: 0.13vol% B系: 0.11vol% (10/29 11:00 現在)	A系: 0.08vol% B系: 0.07vol% (11/26 11:00 現在)
原子炉格納容器放射能濃度 (Xe135)	A系: 1.28E-03Ba/cm³ B系: 1.49E-03Ba/cm³ (10/29 11:00 現在)	A系: 1.28E-03Ba/cm³ B系: 9.17E-04Ba/cm³ (11/26 11:00 現在)	A系: ND(1.2E-01Ba/cm³以下) B系: ND(1.2E-01Ba/cm³以下) (10/29 11:00 現在)	A系: ND(1.1E-01Ba/cm³以下) B系: ND(1.2E-01Ba/cm³以下) (11/26 11:00 現在)	A系: ND(1.8E-01Ba/cm³以下) B系: ND(1.8E-01Ba/cm³以下) (10/29 11:00 現在)	A系: ND(1.8E-01Ba/cm³以下) B系: ND(1.8E-01Ba/cm³以下) (11/26 11:00 現在)
使用済燃料プール水温度	24.9°C (10/29 11:00 現在)	22.8°C (11/26 11:00 現在)	23.8°C (10/29 11:00 現在)	21.6°C (11/26 11:00 現在)	-°C ※5 (10/29 11:00 現在)	-°C ※5 (11/26 11:00 現在)
FPC スマーケタリ水位	4.89m (10/29 11:00 現在)	4.73m (11/26 11:00 現在)	2.88m (10/29 11:00 現在)	2.56m (11/26 11:00 現在)	4.12m (10/29 11:00 現在)	3.36m ※8 (11/13 5:00 現在)
号機	4号機		5号機		6号機	
	10月29日	11月26日	10月29日	11月26日	10月29日	11月26日
使用済燃料プール水温度	-°C ※4 (10/29 11:00 現在)	-°C ※4 (11/26 11:00 現在)	23.5°C (10/29 11:00 現在)	20.2°C (11/26 11:00 現在)	20.1°C (10/29 11:00 現在)	16.0°C (11/26 11:00 現在)
FPC スマーケタリ水位	4.47m (10/29 11:00 現在)	4.44m (11/26 11:00 現在)	2.99m (10/29 11:00 現在)	5.48m (11/26 11:00 現在)	2.63m (10/29 11:00 現在)	2.68m (11/26 11:00 現在)

※1: 使用状態の温度・圧力で流量補正した値を記載する。
 ※2: 空素封入停止中。
 ※3: 指示値がマイナスの場合は0.00vol%と記載する。(水素濃度が極めて低い場合は、計器精度によりマイナス表示される場合があるため)
 ※4: 4号機は使用済燃料の取り出しが完了しており、温度監視は不要。
 ※5: 5号機は使用済燃料の取り出しが完了しており、温度監視は不要。
 ※6: 2号機復水貯蔵タンク原子炉注水設備定例点検に伴う炉注水源切替のため、データが欠損。
 ※7: マイクロドローンによるPCV内部気中部調査の準備ステップとして温度計を取り外したため、データが欠損。
 ※8: 4号機使用済燃料プール冷却設備定例点検に伴う使用済燃料プール一次系ポンプ全停のため、2025年11月13日 5:00現在の値を記載。

3 原子炉内の温度

(更新)

東京電力によると、注水冷却を継続することにより、原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、号機や温度計の位置によって異なるものの、下に引用したグラフのとおり推移しています。

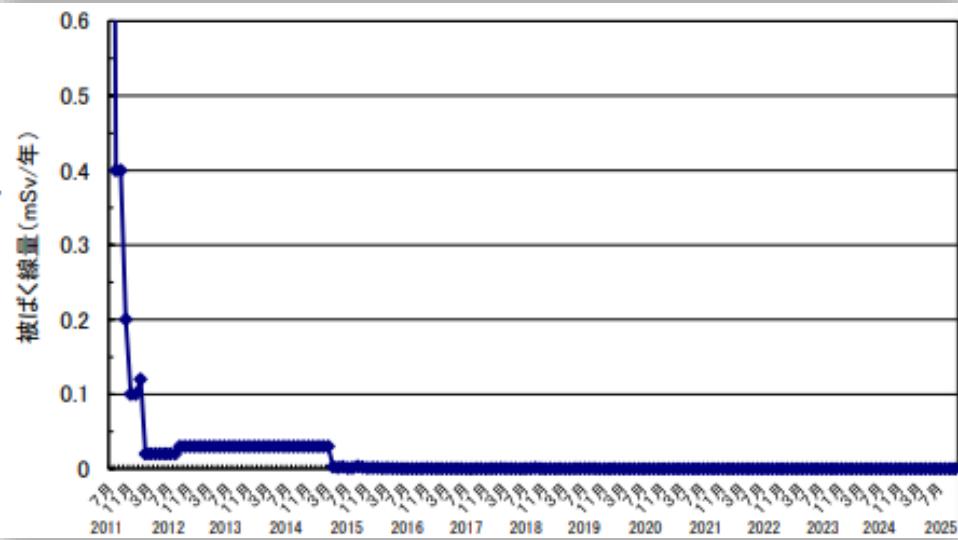


※1 トレンドグラフは複数点計測している温度データの内、一部のデータを例示
※2 設備の保守点検作業等により、データが欠測する場合あり

4 (1) 原子炉建屋から放出された放射性物質による外部汚染の程度 (更新)

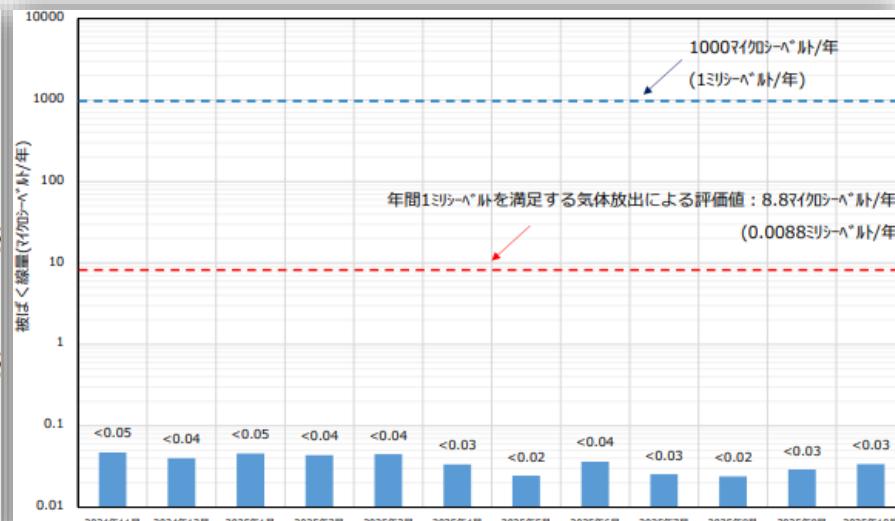
東京電力によると、[2025年10月](#)における1~4号機原子炉建屋からの追加的放出線量の算定値は、 $1.6 \times 10^4 \text{ Bq/h}$ 未満(前月 $1.3 \times 10^4 \text{ Bq/h}$ 未満)と放出管理の目標値($5.5 \times 10^6 \text{ Bq/h}$)を下回っています。そして、この算定値による敷地境界における空気中放射性物質濃度は、Cs-134: $5.8 \times 10^{-12} \text{ Bq/cm}^3$ (前月 $5.8 \times 10^{-12} \text{ Bq/cm}^3$)、Cs-137: $1.2 \times 10^{-11} \text{ Bq/cm}^3$ (前月 $8.9 \times 10^{-12} \text{ Bq/cm}^3$)であり、当該値が1年間継続した場合、敷地境界における被ばく線量は、[年間 \$3.0 \times 10^{-5} \text{ mSv}\$ 未満](#)(前月 $3.0 \times 10^{-5} \text{ mSv}$ 未満)であり、管理目標値年間1 mSvを満足する気体放出による評価値 $8.8 \times 10^{-3} \text{ mSv}$ より十分小さいと推定しています。

1~4号機原子炉建屋からの放射性物質(セシウム)の放出による敷地境界における年間被ばく線量評価
(トレンドグラフ)



1~6号機原子炉建屋からの放射性物質(セシウム)の放出による敷地境界における被ばく線量評価の年間推移

※ 筆者注: こちらは対数グラフです



出典：2025年11月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第144回）資料「廃炉・汚染水・処理水対策の概要」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2025/11/11/2-1.pdf>
 2025年11月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第144回）資料「1~4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2025年10月）」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2025/11/11/3-6-3.pdf>

概要に戻る

2 (2) 「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果」の変更について

東京電力は、2019年11月、1~4号機原子炉建屋からの放射性物質の追加的放出量の評価方法、および評価結果のグラフの記述内容を変更しました。東京電力による変更点、および変更の理由は以下の通りです。

- ・放出による敷地境界の空气中放射性物質濃度(単位:Bq/時) ⇒ 敷地境界の被ばく線量(単位: μ Sv/年)

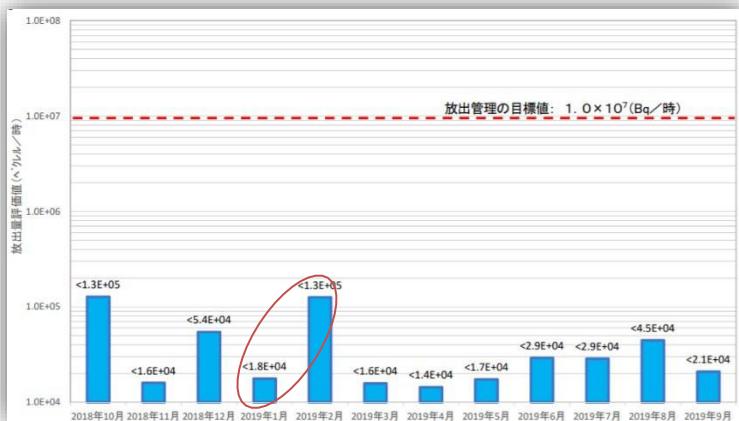
(理由)一般公衆が放出の影響を理解しやすくなる。

- ・被ばく線量評価の計算手法:5、6号機の寄与(年間稼働率80%の運転時の推定放出量で評価したもの)を一律加算する⇒測定結果を元にした被ばく線量を評価する。

(理由)これまで被ばく線量は、1～4号機追加的放出量の被ばく線量評価に、5、6号機からの影響を一定値(運転時の想定放出量から評価:約0.17 μ Sv/年)加算していた。この方法によると、最近では5、6号機の割合が大きく(約80 %)、1～4号機の放出による影響がわかりにくくなっていた。実態により近づけるため、5、6号機も測定結果を元にした被ばく線量を評価し、検出された場合は、1～4号機による被ばく線量評価に加算することとする。

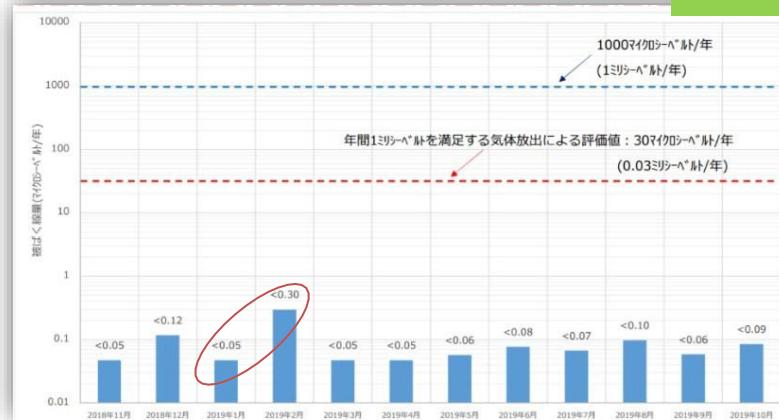
下左はこれまでの評価方法および記述内容による2018年10月からのグラフ、下右が新たな方法による2018年11月からの評価のグラフです。

1-6号原子炉建屋からの放出量評価、2019年9月までの評価方法で、その直近12か月分



※筆者注:いずれも対数グラフ。
1-4号原子炉建屋からの被ばく線量評価、2019年10月改訂
の評価方法で、その直近12か月分

概要に戻る



出典：2019年11月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第72回） 資料「「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果」の変更について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/11/3-6-2.pdf>

2019年11月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議（第72回） 資料「1~4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2019年10月）」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/11-3-2.pdf>

5 その他の指標

(更新)

東京電力によると、[2025年10月30日から11月26日までの1か月](#)、格納容器内圧力や、臨界監視のための格納容器放射性物質濃度(Xe-135)等のパラメータについても有意な変動はなく、冷却状態の異常や臨界等の兆候は確認されていません。

※ 筆者注：

Xe-135（キセノン135）はウラン燃料が核分裂をした時に生じる放射性物質で、半減期は極めて短く約9時間です。このためXe-135が増加したままになるのは、ウランの核分裂が継続して起きているときであり、臨界に達していると考えられます。

6 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止試験)

(1) 循環注水冷却の経過

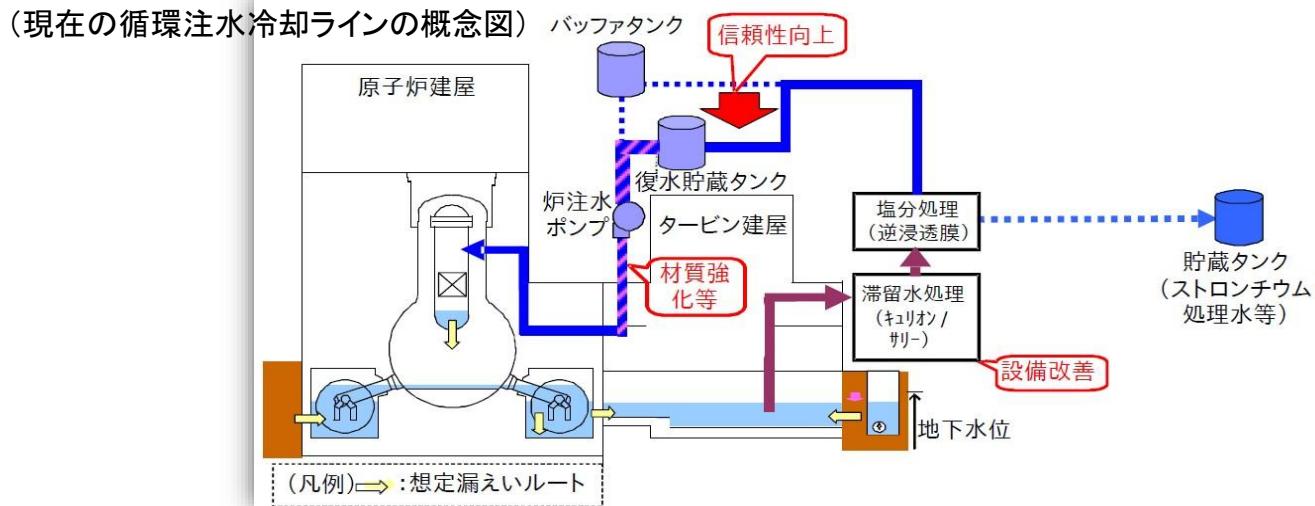
1～3号機の原子炉は、注水冷却を継続することにより、現在は一定の範囲内の温度を保ち安定状態にあります。

事故直後は、この注水冷却の水源は大熊町の坂下ダムに求めていました。

しかしこれでは原子炉内で核燃料デブリ等に接触し放射能で汚染された水が増えるばかりであることから、2011年6月から新設のバッファタンク(浄化水を一時的にためておくタンク)を水源とする循環注水に移行しました。

さらに2013年7月からは水源の保有水量の増加・耐震性・耐津波性を向上させるため、水源を3号機復水貯蔵タンク(CST)に切り替えました。

そして2016年3月には1号機タービン建屋が循環注水冷却ラインから切り離され、10月には、汚染水の漏えいリスクを低減するため、淡水化(RO)装置を4号機タービン建屋に設置し、循環ループを約3kmから約0.8kmに縮小し現在に至っています。



出典：2018年3月1日廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議資料「廃止措置等に向けた進捗状況：循環冷却と滞留水処理ライン等の作業」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/03/2-00-04.pdf>

2016年3月31日東京電力株式会社

「1号機タービン建屋の循環注水ラインからの切り離し達成について～原子炉建屋からタービン建屋へ滞留水が流入しない状況の構築～」
http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/roadmap/images1/images1/d160331_06-j.pdf

概要に戻る

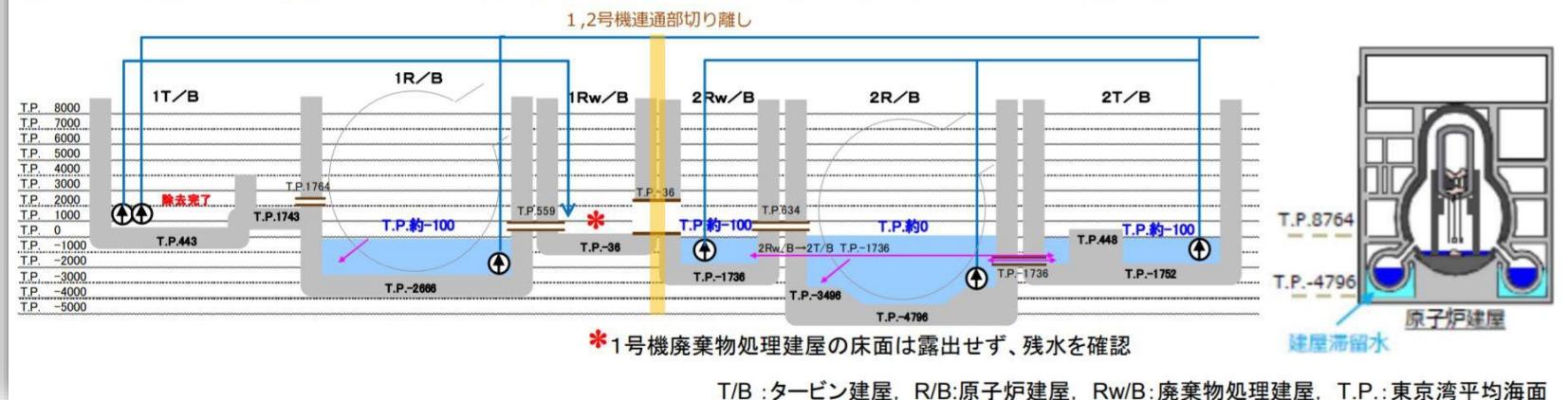
(2) 循環注水冷却の今後

原子炉注水冷却ラインの縮小という課題については、ロードマップ(第4版)では「核燃料デブリ取り出しのための原子炉格納容器の止水・補修作業を開始するまでに、原子炉格納容器からの取水方法を確立する。その上で、原子炉注水冷却ラインの小循環ループ化(格納容器循環冷却)を図る」とされていました。

第5版においては「循環注水を行っている1~3号機については、タービン建屋等を切り離した循環注水システムを構築した上で、原子炉建屋の水位低下等により、原子炉建屋から他の建屋へ滞留水が流出しない状況を構築する」となっています。

2017年12月の3・4号機間の連通部の切り離しに続き、2018年9月13日には1号機側、2号機側の建屋内に溜まっている汚染水の水位が1号機廃棄物処理建屋の床面(T.P.-36)を下回り、その後も安定して床面以下の水位を保っていることから、東京電力は1・2号機間の連通部について切り離しを達成したと判断しました。

【1 - 2号機の建屋床面レベル、建屋間連通部及び滞留水の水位（2018.9.13現在）】



出典：2015年6月12日廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」（第4版）

http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2015/pdf/0625_4_1c.pdf

2017年9月26日廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」（第5版）

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/hairo_osensui/dai3/siryou2.pdf

画像出典：2018年9月27日第58回廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議資料
「建屋滞留水処理の進捗状況について（1,2号機間及び3,4号機間の連通部の切り離し達成）」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/10/3-1-3.pdf>

概要に戻る

(3) 2系統ある注水冷却系のうち1系統の試験的停止について

格納容器内にある使用済み核燃料および核燃料デブリは、炉心スプレイ系(CS系)と給水系(FDW系)という2系統の循環注水冷却系によって冷却されています(下図参照)。

東京電力は、原子炉注水設備に関する信頼性向上を目的として、以下の改造工事を計画・実施しています。

①1～3号機炉心スプレイ系(CS系)注水ラインの一部PE管化(2018)

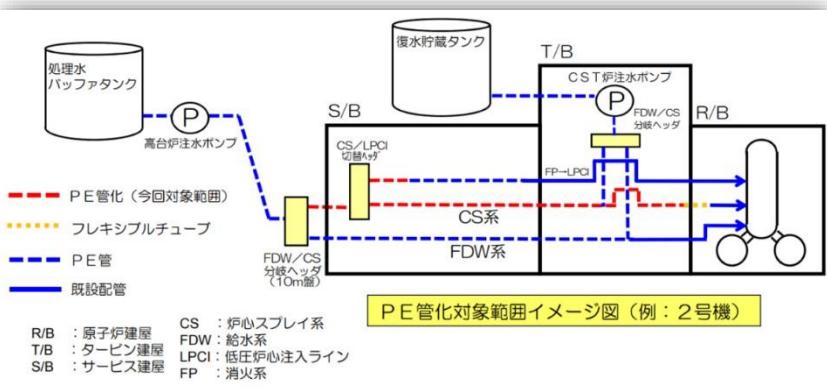
②2, 3号機給水系(FDW系)注水ライン他の改造(2017)

③処理水バッファタンク取替(2018～2019)

②の2, 3号機給水系(FDW系)注水ライン他の改造の際は、原子炉への注水をCS系のみで実施することになり、2017年11月の注水量3.0 m³/hでCS系単独注水の実績がないことから、東京電力は、CS系単独注水事前確認試験を行い原子炉の冷却状態に対する影響を確認しました。

CS系単独注水は、2号機では2017年10月31日～11月7日まで、3号機では11月14日～11月21日まで実施されました。

試験期間において、監視パラメータとしていた原子炉圧力容器底部温度、格納容器温度、格納容器ガス管理設備ダストモニタの指示値に「CS系単独注水に切り替えたこと」に伴う有意な変化はなく、原子炉の冷却状態に異常はないものと推定されています。



出典: 2017年11月30日第48回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料「1～3号機原子炉注水設備の改造工事について」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/10/3-05-02.pdf>

2017年11月30日第48回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料
「2, 3号機 給水系注水ライン改造に伴うCS系単独注水の影響確認試験の実施状況について」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/11/3-05-04.pdf>

概要に戻る

(4) 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止) 第Ⅰ期

① 1号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施について

東京電力は、1号機において緊急時対応手順の適正化などを図ることを目的に、原子炉注水を2日程度(約48時間)停止する試験を2019年10月15日から開始することを発表しました。注水停止時の温度上昇率については、48時間の注水停止で最大8.7°C程度の温度上昇と予測しています。なお、注水停止時および再開時の監視パラメーターと判断基準、基準逸脱時の対応(次ページ)については以下のように発表しています。

また、今後3号機についても、今年度中を目途に注水停止試験を実施する予定としています。

2020注水停止試験に戻る

地震のイチエフへの影響に戻る

(1) 冷却状態の監視（注水量停止時）

監視パラメータ	監視頻度		注水停止時の判断基準
	注水停止中	(参考) 通常監視頻度	
原子炉圧力容器底部温度	毎時	毎時	温度上昇が15°C未満※1
原子炉格納容器内温度	毎時	6時間	温度上昇が15°C未満※1
原子炉への注水量	毎時	毎時	原子炉に注水されていないこと
格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	毎時	6時間	有意な上昇が継続しないこと

※1 15°C以上の温度上昇があった際には、流量を1.5m³/hに増やす（注水を再開する）。

（冬季のRPV/PCV温度は概ね30°C未満であり、15°Cの温度上昇でも45°C未満と想定）

(2) その他の傾向監視パラメータ

- 原子炉圧力容器上部温度、格納容器圧力、格納容器内水位

(1) 冷却状態の監視（注水量増加時）

- 注水変更操作から24時間の監視強化とし、冷却状態に異常が無い場合には、24時間以降は通常頻度での監視に移行。

監視パラメータ	監視頻度		注水再開時の判断基準
	操作後24時間	24時間以降 (通常監視頻度)	
原子炉圧力容器底部温度	毎時	毎時	温度上昇が15°C未満※1
原子炉格納容器内温度	毎時	6時間	温度上昇が15°C未満※1
原子炉への注水量	毎時	毎時	(必要な注水量が確保されていること)
格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	6時間	6時間	有意な上昇が継続しないこと

※1 注水変更後、10°C以上の温度上昇があった際には、関係者間で情報共有・監視強化を継続する。

(2) 未臨界状態の監視

- 注水変更操作から24時間は速やかにホウ酸水を注入できる体制を維持

監視パラメータ	監視頻度		注水再開時の判断基準
	操作後24時間	24時間以降 (通常監視頻度)	
格納容器ガス管理設備 Xe-135濃度	毎時	毎時	通常値の10倍未満であること※2

※2 Xe-135の通常値は1号機は $1.0 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$ 程度である。

運転上の制限である 18g/cm^3 に余裕があつても、2系同時に上昇した場合には、確実な未臨界維持のためホウ酸水を注入する。（片系のみの場合は、計器故障の可能性も含めて判断する）

(3) その他の傾向監視パラメータ

- 原子炉圧力容器上部温度、格納容器内水位

出典：2019年9月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第70回） 資料

「福島第一原子力発電所 1号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/09/3-5-2.pdf>

概要に戻る

a 1号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果(速報)について

東京電力によると、2019年10月15日～10月17日の期間、約49時間注水を停止しました。試験期間中の炉内状況は安定して推移し、原子炉圧力容器(RPV)底部温度や原子炉格納容器(PCV)温度の温度上昇量は小さかったということです。

また、ダスト濃度や希ガス(Xe135)等のパラメータにも異常はありませんでした。

今後、実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、PCV水位の変動、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価する予定だそうです。

さらに、3号機についても、今回の試験結果をふまえ、2019年度中を目途に実施する予定としています。

参照

最大温度上昇量

	RPV底部	PCV
注水停止中 (10月15日11:00～10月17日12:00)	0.2°C	0.6°C
試験期間中 (10月15日11:00～10月30日14:00時点)	0.4°C	0.7°C

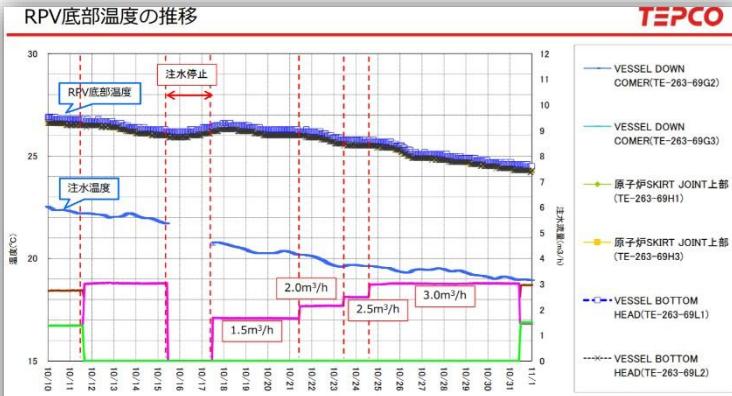
監視パラメータ		判断基準を満たさない場合の対応
原子炉への注水量		<ul style="list-style-type: none"> 目標注水量を目安に、原子炉注水量を調整する
冷却状態の監視	原子炉圧力容器底部温度	<ul style="list-style-type: none"> 1.5m³/hで原子炉注水を再開する。
	原子炉格納容器内温度	<ul style="list-style-type: none"> 注水再開/注水増加によってパラメータに安定傾向がない等の場合には、さらなる注水量の増加等の措置を関係者で協議する。 (温度上昇が急であり、1m³/hを超える注水量の急増が必要と判断される場合にはホウ酸水を注入したうえで、注水量を増加する)
	格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	
未臨界状態の監視	格納容器ガス管理設備 希ガスモニタ	<ul style="list-style-type: none"> ホウ酸水を注入する。 ホウ酸水を注入しても未臨界維持の見込みがない場合は、注水量を低減する等の措置を関係者で協議する。

出典：2019年9月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第70回） 資料
「福島第一原子力発電所 1号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/09/3-5-2.pdf>

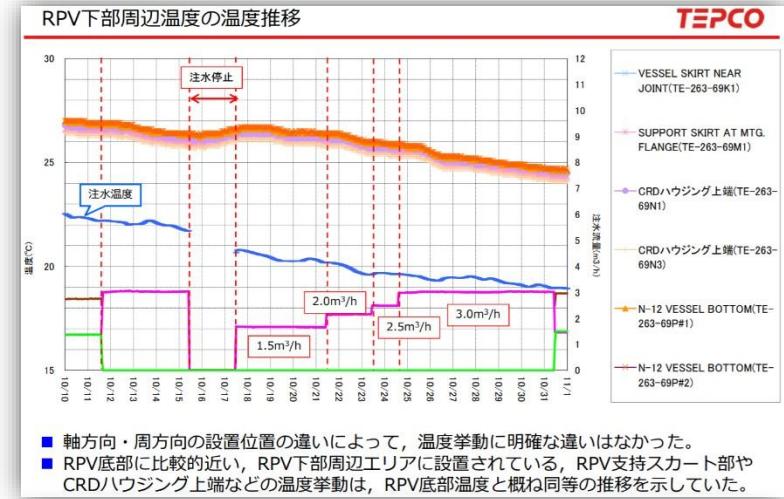
概要に戻る

b 1号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について

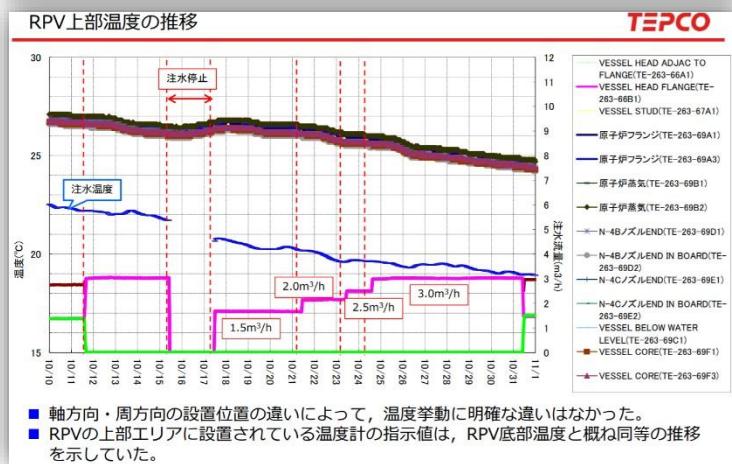
試験中の原子炉圧力容器(RPV)各部、格納容器(PCV)の温度データは下図のように発表されています。



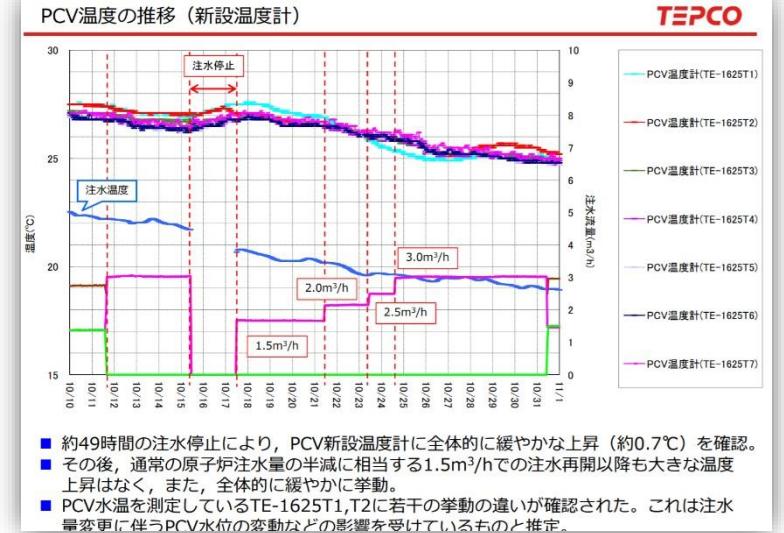
- 約49時間の注水停止により、RPV底部温度に全体的に緩やかな上昇(約0.2°C)を確認。
- 通常の原子炉注水量の半減に相当する1.5m³/hでの注水再開以降も大きな温度上昇はなく、注水量増加・注水温度低下とともに全体的に緩やかに温度低下。
- 軸方向・周方向の設置位置の違いによって、温度挙動に明確な違いはなかった。



- 軸方向・周方向の設置位置の違いによって、温度挙動に明確な違いはなかった。
- RPV底部に比較的近い、RPV下部周辺エリアに設置されている、RPV支持スカート部やCRDハウジング上端などの温度挙動は、RPV底部温度と概ね同等の推移を示していた。



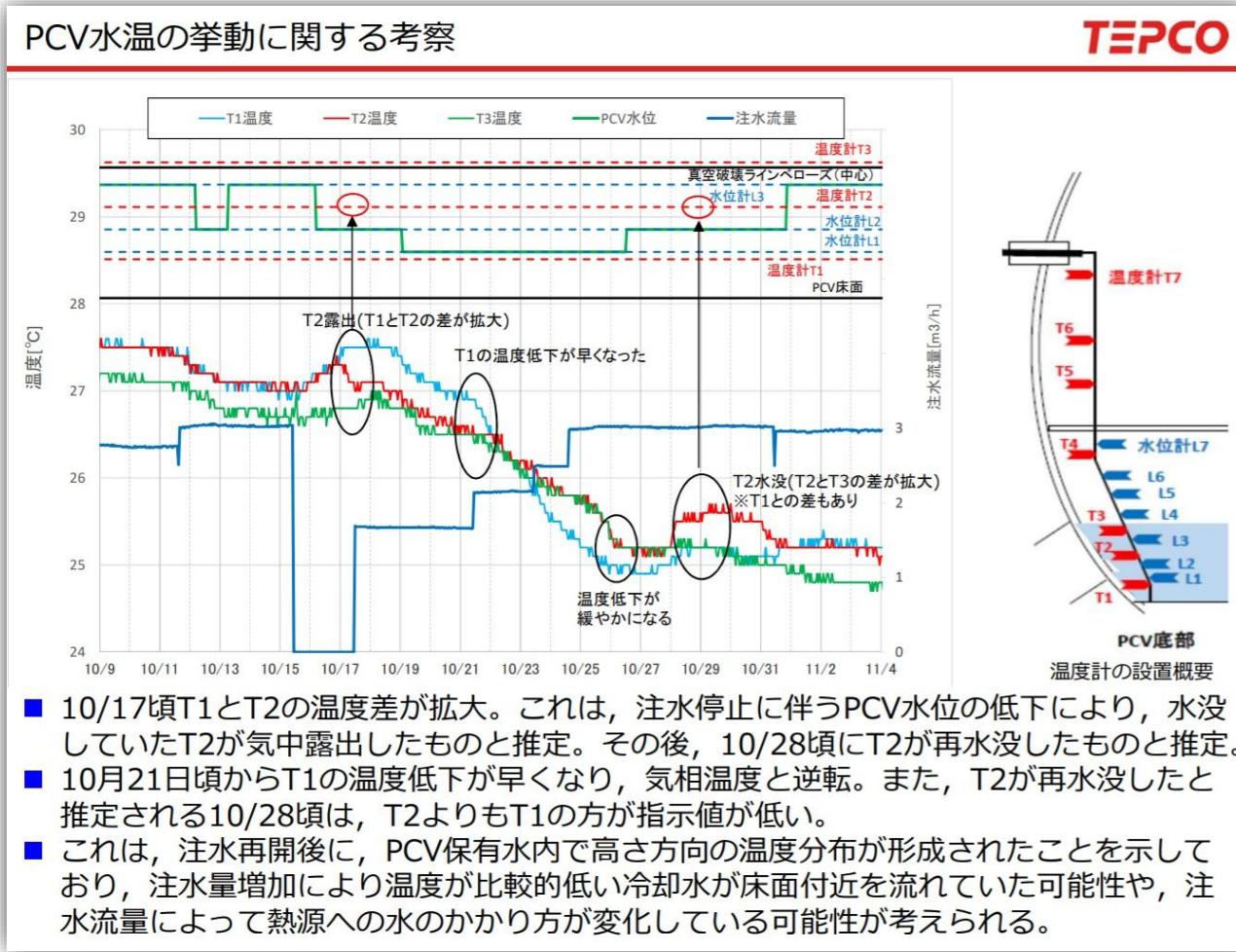
- 軸方向・周方向の設置位置の違いによって、温度挙動に明確な違いはなかった。
- RPVの上部エリアに設置されている温度計の指示値は、RPV底部温度と概ね同等の推移を示していた。



- 約49時間の注水停止により、PCV新設温度計に全体的に緩やかな上昇(約0.7°C)を確認。
- その後、通常の原子炉注水量の半減に相当する1.5m³/hでの注水再開以降も大きな温度上昇はなく、また、全体的に緩やかに挙動。
- PCV水温を測定しているTE-1625T1, T2に若干の挙動の違いが確認された。これは注水量変更に伴うPCV水位の変動などの影響を受けているものと推定。

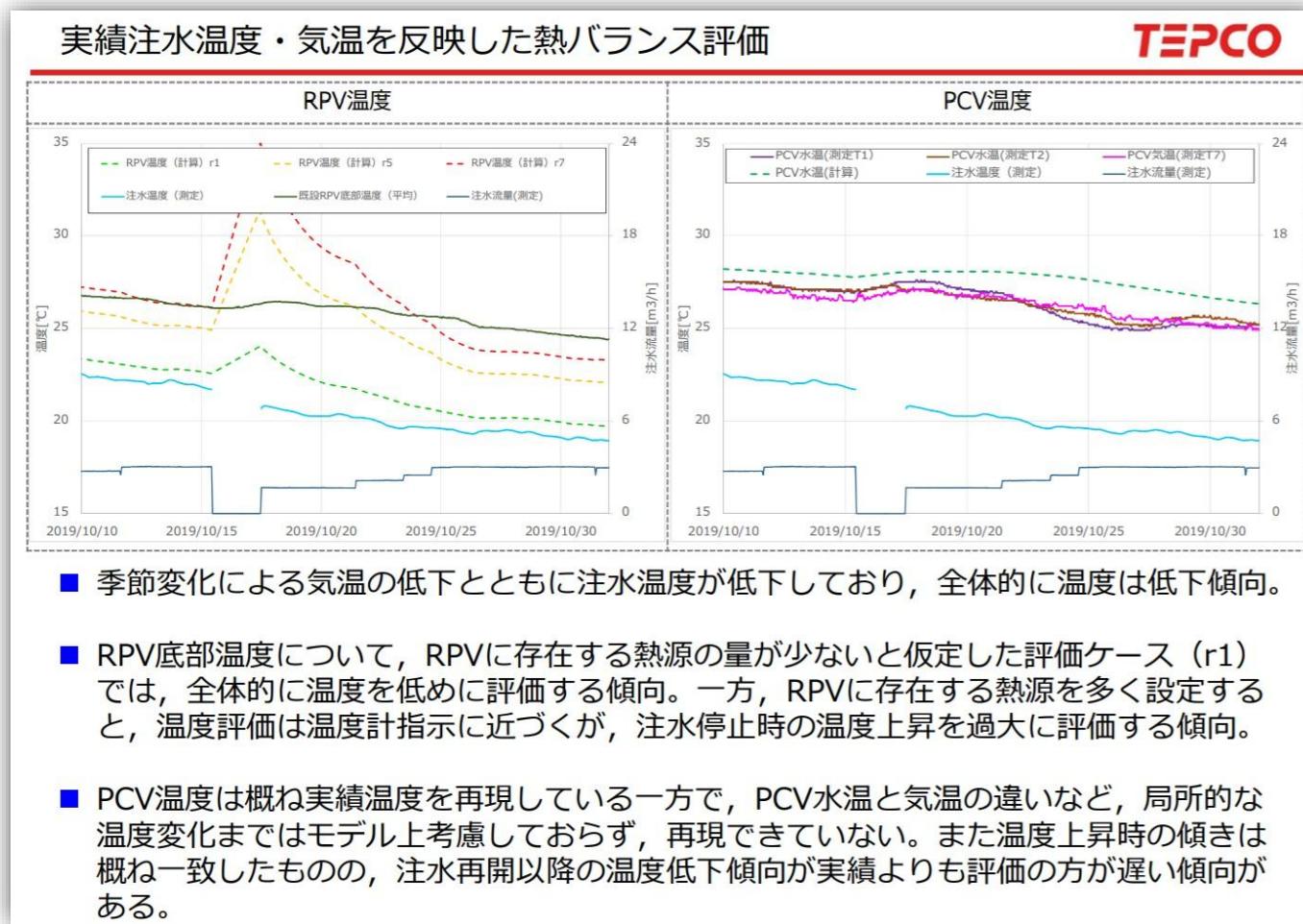
(次ページに続く)

試験期間中、格納容器(PCV)水温が興味深い挙動を示し、東京電力は考察を加えています(下図)。



(次ページに続く)

また、原子炉内の熱源(核燃料デブリ)の所在をどう想定するかによって、冷却状態の推移に伴う原子炉圧力容器(RPV)の熱バランス式による推定温度と実際の測定温度との乖離の度合いが変わってきます(下図)。



(次ページに続く)

このような熱バランス式による推定温度と実際の温度との乖離が生じる原因を、東京電力は下図の通り考察し、熱バランス式の改良も検討するとしています。

熱バランス評価に関する考察



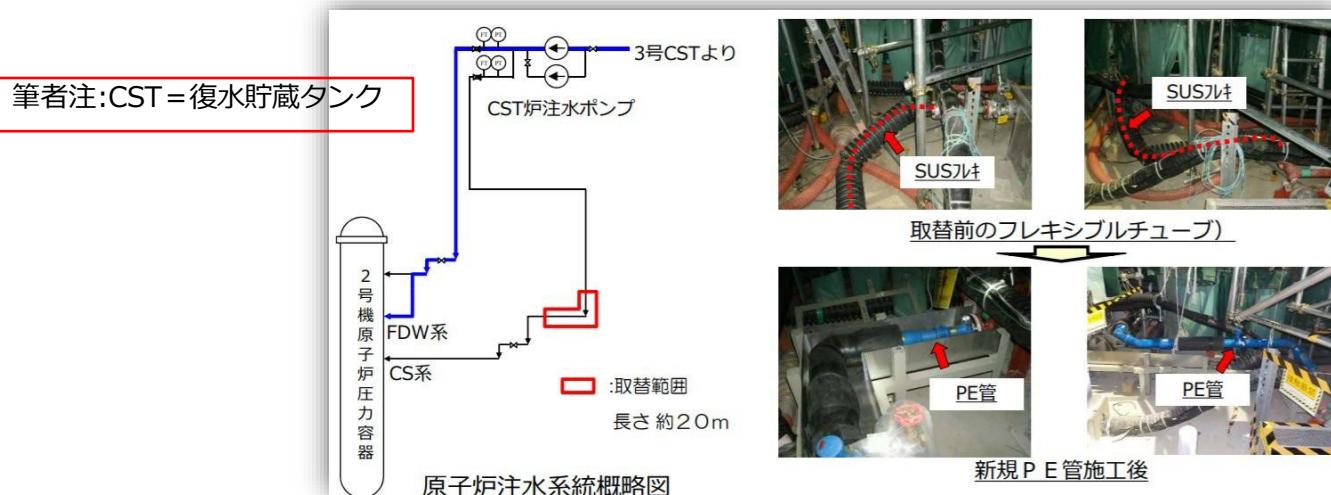
- 热バランスモデルと実際の測定値に差異が生じる原因として、以下のような1号機のプラントの特徴が影響している可能性が考えられる。
 - (1) PCV保有水量が多いこと (PCV水位が高いこと)
 - PCV保有水量の違いは、PCV全体の熱容量の大きさに影響するため、PCV温度の過渡変化時の時定数に影響する可能性。
 - PCV保有水量が多いことにより、液相内での温度分布が発生しやすくなる可能性。
 - ペデスタル内やPCV底部における燃料デブリの水没状態の違いにより、燃料デブリから冷却水への伝熱量に差異がある可能性。
 - (2) 燃料デブリの大部分がPCV側に存在 (推定)
 - 現状モデルでは多くの熱源が存在するPCV側の熱収支計算で、PCV気相温度を計算しておらず、気相/液相の温度分布や、PCV気相を介したRPVとPCVの熱伝達が適切に計算出来ていない可能性がある。
 - (3) 温度測定の不確かさ
 - 温度計は周方向・高さ方向に複数設置されているものの、設置位置によっては、細かい温度分布を観測できていない可能性。
 - 既設温度計は事故の影響により絶縁が低下しており、指示値に不確かさがある。(最大20°C程度)なお、PCVには、事故後に新しく温度計を設置している。
- これらの特徴は3号機にも共通しており、今後の3号機の試験においても類似の傾向となる可能性がある。3号機の試験結果も踏まえモデルの改良を検討していく。

② 2号機CS系のPE管化工事に伴う 核燃料デブリ冷却状態への影響について

東京電力によると、2号機原子炉注水設備の炉心スプレイ系(CS系)ラインについて、信頼性向上の観点から、ステンレス製(SUS)フレキシブルチューブをポリエチレン管(PE管)に取り替える工事を実施しました。

工事中、2017年12月8日～12月25日の期間は給水系(FDW系)単独での運転となりましたが、8月22日～8月29日においてFDW系による単独注水試験を実施しており、当該運転状態でも核燃料デブリ(以下、デブリ)の冷却状態に問題がみられないことは事前に確認済みでした。

この工事によるデブリ冷却状態への影響については、監視パラメータとしていた原子炉圧力容器底部温度、格納容器温度、格納容器ガス管理設備ダストモニタのいずれの指示値も、FDW系単独注水に切り替え時、さらに<PE管化したCS系を運用>開始後にも有意な変化はなく、原子炉の冷却状態に異常がないことが確認されたとのこと。



出典：2018年2月1日第50回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料「2号機 CS系のPE管化工事に伴う燃料デブリ冷却状態への影響について」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/02/3-05-04.pdf>

2017年9月28日第46回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料

「2, 3号機 原子炉注水ラインのP E管化工事に伴うFDW系単独注水の影響確認試験の実施状況について」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/09/3-05-03.pdf>

概要に戻る

a 2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする

注水冷却開始(インサービス)に向けた原子炉注水系の切替について

2020年2月27日の廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第75回)において、東京電力が提出した資料「2号機CSTインサービスに向けた原子炉注水系の切替について」を開いたところ、冒頭に

原子炉注水系統の水源多重化を図るため、2019年1月8日、2号機CST(復水貯蔵タンク)を復旧し、原子炉注水の水源として使用する操作を実施中、2号機原子炉注水ポンプ(CST炉注水ポンプ)が全停する事象が発生した。

という記述がありました。

しかし筆者はこのトラブルについて押さえていなかったため、今回2019年1月にさかのぼり、下記出典の東京電力資料により、このトラブルとその後の経過を追ってみました。

まず一連の過程の目的である2号機CSTインサービスとは何かというところから始めます。

(次ページに続く)

出典：2019年1月8日東京電力ニュースリリース「福島第一原子力発電所 2号機原子炉への注水ポンプの起動・停止について」

http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190108_1.pdf

2019年1月31日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第62回）東京電力資料「2号機CST炉注ポンプ全停事象について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/3-5-3.pdf>

2019年2月28日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第63回）東京電力資料「2号機CST炉注ポンプ全停事象の原因と対策について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/02/3-5-3.pdf>

2019年8月29日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第69回）東京電力資料「2号機CSTインサービスに向けた原子炉注水系の切替について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/08/3-5-3.pdf>

2020年2月27日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第75回）東京電力資料「2号機CSTインサービスに向けた原子炉注水系の切替について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/02/3-5-4.pdf>

概要に戻る

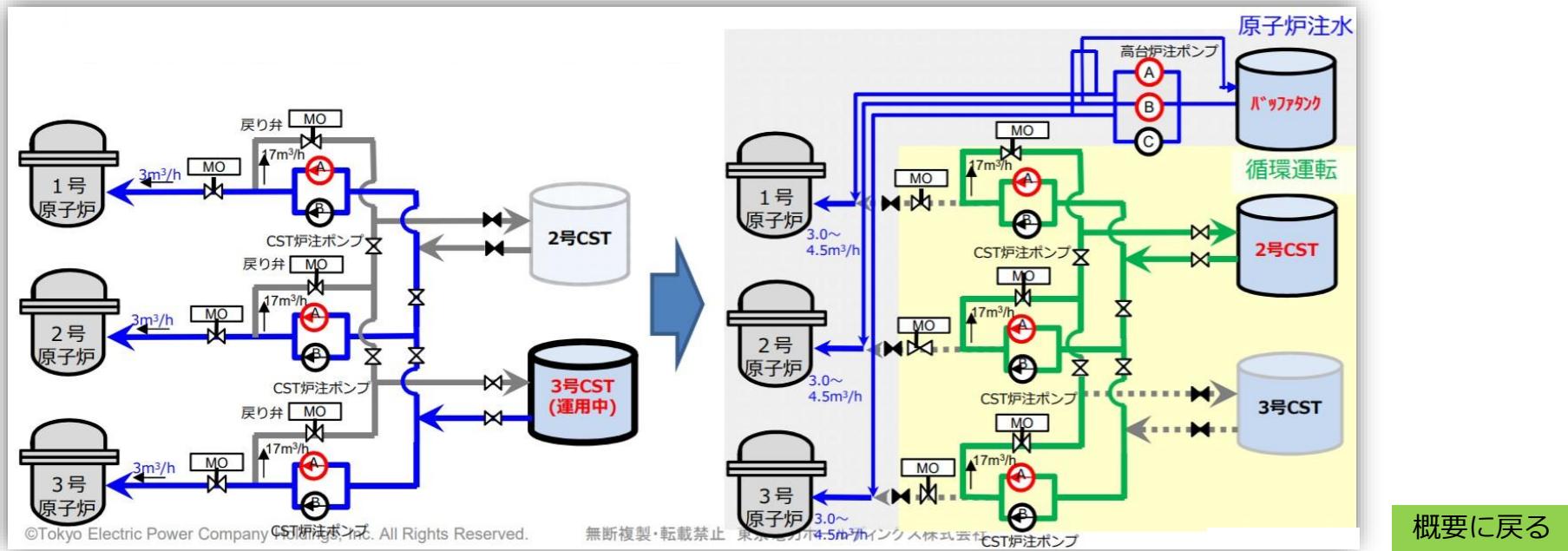
東京電力によれば、2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする注水冷却開始(インサービス)およびその背景と目的とは、

- 現在、1~3号機の原子炉内には安定的に注水を継続しているが、燃料デブリの崩壊熱は大幅に減少している状況
- 崩壊熱の減少により1~3号機の原子炉注水量を低減しており、滞留水の低減を図っている。
- それに伴い現在の原子炉注水流量は、ポンプの定格流量に比べ少ない流量になっており、系統上の運用としては、CSTへの戻し流量が多い状態となっている。
- 2号機CSTを復旧し原子炉注水の水源として運用することで、原子炉注水系統全体の運用(原子炉注水量や戻し流量の調整等)がしやすくなる。
- また、2号機CSTの運用を開始することで、原子炉注水系統の水源の多重化が図れる。

だそうです。

概念的には下左図の状態を右図の状態に持っていく計画です。

(次ページに続く)



ところが、2019年1月8日、 2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする注水冷却開始(インサービス)に向けて1、2号機原子炉への注水源を3号機復水貯蔵タンクから2号機CSTへ変更する操作をしていたところ、2号機原子炉注水ポンプが1分間全停しました。

東京電力は、直ちに操作前の状態へ戻す操作を実施し、注水冷却そのものは継続されています。また、注水ポンプ全停中、原子炉圧力容器、格納容器各部の温度、モニタ等の指示に変化はなかったとのことです。

その後東京電力は、原因を調査し、その結果について以下のように公表しました。

- ・全号機のポンプストレーナに水垢(赤茶)の付着が確認されており、吸込圧力の低下が確認された2号機 CST炉注ポンプ(B)のみストレーナこし網内面に鉄さび片の付着が確認された。また、フランジ部にもこし網より落下した鉄さび片が確認された。
- ・今までの運転により水垢などがストレーナに付着し、その影響で若干の詰まりが発生していた状態で、今回、2号機CSTインサービス操作により、鉄さびがストレーナに流入したため、急激に圧損が増加し、ポンプ吸込圧力が低下したと考えられる。

(次ページに続く)

また再発防止対策については以下の通りとしています。

<対策①:フラッシングの実施>

配管内面の鉄さびを仮設ストレーナにて回収するため、2号機CST⇒CST供給配管⇒CST戻り配管のフラッシング運転を行う。なお、未使用配管をインサービスする場合は、事前のフラッシングを行うこととする。

<対策②:ポンプ吸込ストレーナの点検>

1～3号機のCST炉注ポンプ吸込ストレーナ清掃を行い、ストレーナに堆積した水垢、鉄さびの除去を行う。ストレーナの点検は、ポンプ吸込圧力の低下傾向が確認された場合に行うこととしていたが、本事象を鑑みストレーナの保全計画を見直すこととする。

<対策③:2号機CSTインサービス時の手順の再検討>

急激にパラメータが変化した場合に備えた対応手順を策定する。(パラメータの安定後の操作、戻り弁の調整・ポンプ切替手順等)

そして対策を実施後の2019年8月、2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする注水冷却開始(インサービス)に向けて、1～3号機CST炉注系統を2号機CST循環運転に切り替え、

①2号CSTを水源とした場合の異常の有無。(各号機の流量・圧力バランス)

②ポンプ切替による2台運転時の影響確認。(戻り弁(MO,手動バイパス)開度とポンプ吐出圧力の状態等)

の運転状態を確認する計画を明らかにしました。

毎月の「循環注水冷却スケジュール」を見ると、その後実施時期の調整による複数回の延期があり、今回改めて、2020年3月3日から5日にかけて1～3号機CST炉注系統を2号機CST循環運転に切り替え、運転状態を確認した上で、3月下旬には2号機CSTを水源とする注水冷却を開始したいとしています。

③ a 2号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施について

2号機核燃料デブリ(以下、デブリ)の循環注水冷却は新しい段階に入るようです。

2019年3月現在、1～3号機の原子炉内はデブリへの循環注水冷却により安定状態を保っています。

一方、デブリの崩壊熱は時間の経過により大幅に減少しています。

また、注水冷却が停止した場合の現行の原子炉の温度変化の推定(評価)については、自然放熱による温度低下等は考慮せず、デブリの崩壊熱のみを考慮して計算しているため、実際より急激に上昇する推定(評価)となっています。

(現行の推定(評価)／温度上昇率:約5°C/時間、原子炉圧力容器温度の初期温度を30°Cと仮定して運転上の制限値である80°Cに達する時間:約10時間)

東京電力は、今後、何らかの原因により原子炉に注水冷却の停止を含む多重トラブルが発生した場合、優先すべき対応を適正に判断するために、また、注水設備のポンプ切替時等に、注水量に極力変化がないようにするための現行の複雑な操作を、ヒューマンエラーリスクの低い2系統のうち片方を止めた上でもう片方を起動するというシンプルな切替に見直すために、注水冷却が停止した状態でのより実際に近い温度変化を確認しておく必要があるとしています。

(熱バランスによる推定(評価)／温度上昇率:約0.2°C/時間、原子炉圧力容器温度の初期温度を30°Cと仮定して運転上の制限値である80°Cに達する時間:約12日)

このため、一時的に原子炉注水量を低減(STEP1)、停止(STEP2)し、デブリの冷却状況の実態を把握するとともに、気中への放熱も考慮したより実態に近い温度変化の推定(熱バランス評価)の正確さを確認する試験を、2019年1月に実施することを計画していました。

この計画は、2号機原子炉注水ポンプ(CST炉注ポンプ)が1分間全停するトラブルがあったため延期されていましたが、原因が解明され健全性が確認されたため4月に実施するものです。

1～3号機確認試験の結果のまとめに戻る

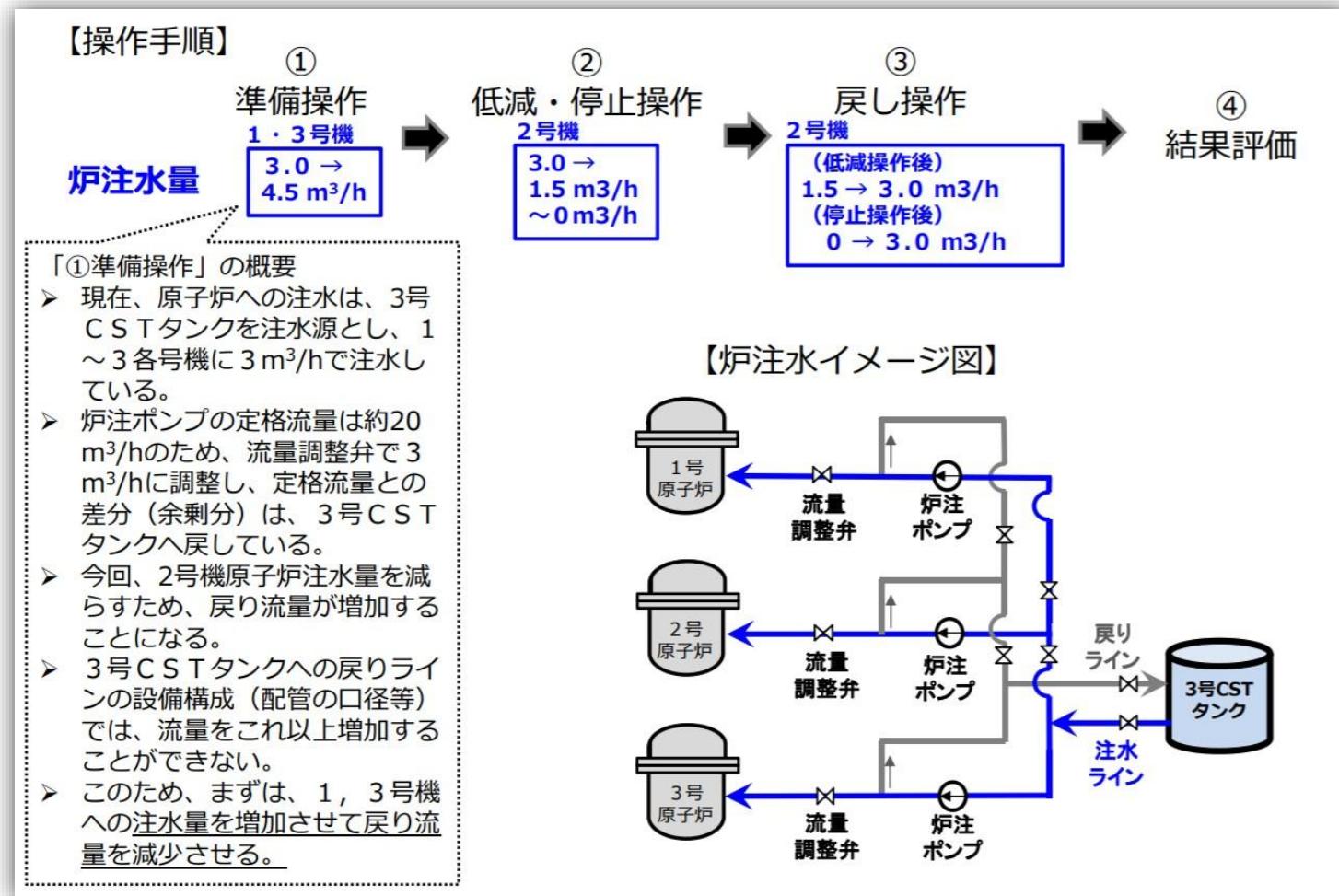
(次ページに続く)

出典：2019年3月20日 東京電力資料「福島第一原子力発電所 2号機燃料デブリ冷却状況の確認の実施について」
http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/f_20190320_1.pdf

2019年3月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第64回） 資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf>

概要に戻る

操作手順、および、2号機の注水量を低減するために1、3号機の原子炉注水量を増加させる操作が必要な理由は下図の通りです。



出典：2019年3月20日 東京電力資料「福島第一原子力発電所 2号機燃料デブリ冷却状況の確認の実施について」
http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190320_1.pdf

2019年3月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第64回） 資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」
[概要に戻る](https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf)
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf>

b 2号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施状況

核燃料デブリ冷却状況の確認スケジュール(予定)は下表であり、2019年4月12日現在の実施状況は以下の通りです。

4月2日午前10時51分、2号機 炉心スプレイ系原子炉注水量:3.1 m³/h→1.5 m³/h

4月9日午前10時43分、2号機 炉心スプレイ系原子炉注水量:1.4 m³/h →3.0 m³/h

なお、この原子炉注水量低減操作を通じ、関連監視パラメータに異常はなかったそうです。



※1 1, 3号炉注流量増加(3.0 → 4.5m³/h)、2号CS系単独注水切り替え

※2 1, 3号炉注流量低減(4.5 → 3.0 m³/h)、2号FDW、CS系両系注水切替

※3 STEP 1が異常なく終了した場合

工程はプラントの状況等により適宜調整する

出典：2019年3月20日 東京電力資料「福島第一原子力発電所 2号機燃料デブリ冷却状況の確認の実施について」

http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190320_1.pdf

2019年3月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第64回） 資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf>

2019年4月9日 東京電力 「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」

http://www.tepco.co.jp/press/report/2019/1514125_8985.html

概要に戻る

c 2号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施結果

東京電力は、2号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験STEP1を2019年4月2日～4月16日に実施し、その結果について以下の明朝体部分(文中のゴシック体は筆者による補遺)の通り報告しています。

2号機 の原子炉注水量を3.0 m³/hから1.5 m³/hまで低減、および1.5 m³/hから3.0 m³/hに増加し、原子炉の冷却状態に異常がないことを確認した。

<操作実績> 2019年4月2日 10:05～10:51 3.1 m³/h → 1.5 m³/h

2019年4月9日 10:07～10:43 1.4 m³/h → 3.0 m³/h

<原子炉の冷却状態> RPV(原子炉圧力容器)底部温度やPCV(原子炉格納容器)温度の温度上昇については、温度計毎にばらつきはあるが、概ね予測通りであり、試験継続の判断基準(温度上昇15°C未満)を満足(下表参照)。

PCVガス管理設備の短半減期希ガス(Xe-135)は、原子炉注水量の増加後も有意に 検知されず、原子炉は未臨界を維持。その他のプラントパラメータにも異常なし。 よって、試験STEP2として、原子炉注水を一時的に停止する試験を5月中旬から開始する。 なお、今回の試験における温度上昇の予測評価との差異や、温度計の設置位置による挙動の違いなどの詳細評価については今後実施していく予定。

(次ページに続く)

	温度上昇量	指示値	温度計	備考
RPV底部温度	5.2°C	20.2→ 25.4°C	TE-2-3-69R	上昇量、指示値最大
PCV温度	2.8°C	18.8→21.6°C	TE-16-114H#2	上昇量最大
	2.1°C	20.8→ 22.9°C	TE-16-114C	指示値最大

出典：2019年4月25日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第65回） 資料
「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験(STEP1)の結果（速報）とSTEP 2の実施について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/04/3-5-2.pdf>

概要に戻る

東京電力は、2号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験STEP2を2019年5月13日～5月24日に実施し、その結果について以下の明朝体部分の通り報告しています。

2号機の原子炉注水を短時間停止し、注水停止中のRPV(原子炉圧力容器)底部の温度上昇率は
0.2°C/h以下と概ね予測と同程度であることを確認

<操作実績>

2019年5月13日 10:11～10:40 3.0 m³/h → 0.0 m³/h

2019年5月13日 18:17～18:54 0.0 m³/h → 1.5 m³/h

2019年5月15日 10:03～10:18 1.5 m³/h → 2.0 m³/h

2019年5月16日 13:36～13:58 2.0 m³/h → 2.5 m³/h

2019年5月17日 15:02～15:15 2.5 m³/h → 3.0 m³/h

<注水停止中のRPV底部の温度上昇率(2019年5月13日)>

温度上昇率	温度計指示値	温度計
0.2°C/h以下	24.5°C (10時時点) → 25.5°C (18時時点)	TE-2-3-69R

<原子炉の冷却状態>

RPV底部温度やPCV温度の挙動は、温度計毎にばらつきはあるが、概ね予測どおりで
あり、試験継続の判断基準(温度上昇15°C未満)を満足中。

<その他のパラメータ>

PCVガス管理設備のダスト濃度に有意な上昇なし

PCVガス管理設備の短半減期希ガス(Xe-135)は、原子炉注水量増加後も有意な上昇
なく原子炉は未臨界を維持

今後については、実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の設置位置による挙動の違い、原子炉注水停止時に採取した放射線データなど評価、他号機での試験等、追加試験の検討を予定しています。

③ 3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について

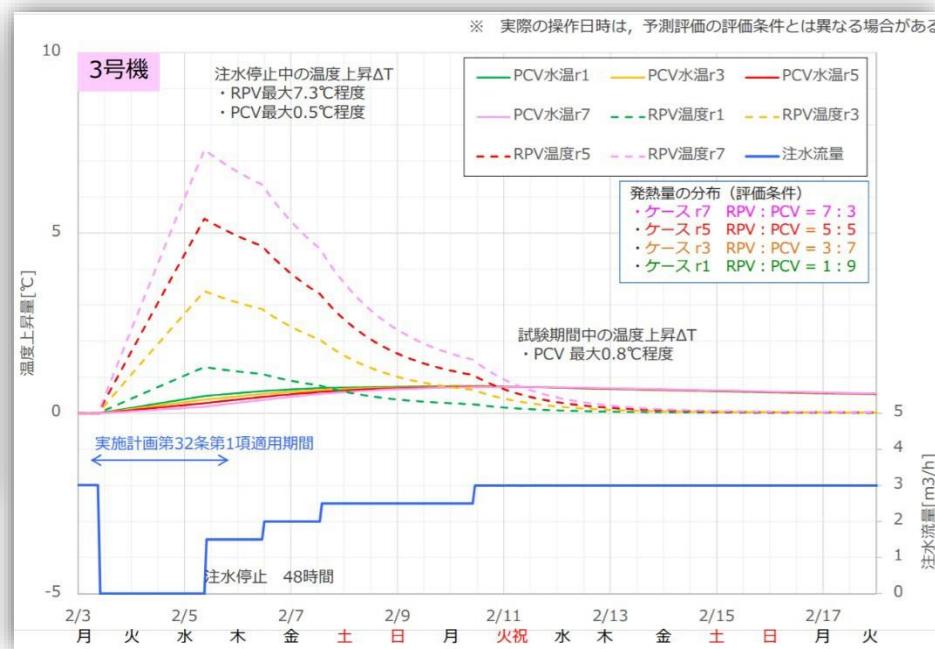
東京電力は、2号機・1号機に続き、3号機においても緊急時対応手順の適正化などを図るために、必要な安全措置を取りつつ、2020年2月3日から2日程度(約48時間)の注水停止試験を、下左図のような工程で実施していく計画を発表しました。

また試験期間中の温度上昇を下右図のように予測評価しています。

1号機確認試験結果速報に戻る

試験工程	2020年1月	2020年2月
3号機	CS系 単独注水 1/31	燃料デブリ冷却状況の確認試験 (2/3~2/17) 注水停止: 2/3 注水再開: 2/5 2/17
1・2号機	注水流量増加 (3.0 → 4.5m³/h) 1/29~1/31	注水流量低下 (4.5 → 3.0m³/h) 2/10

(実際の操作日は現場状況により変更となる場合がある)



3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果(速報)について

東京電力は、3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果(速報)について下記の通り発表しました。

■ 試験概要

- ✓ 2020年2月3日～2月5日にて約48時間注水を停止。その後、注水を再開しパラメータを監視。試験期間中の炉内状況は安定して推移し、判断基準を満足した。
 - RPV底部温度、PCV温度に温度計毎のばらつきはあるが概ね予測の範囲内で推移。
 - ダスト濃度や希ガス(Xe135)濃度等のパラメータに有意な変動なし。

最大温度上昇量

	RPV底部	PCV
注水停止中 (2月3日10:00～2月5日10:00)	0.6°C (約0.01°C/h)※	0.7°C (約0.01°C/h)※
試験期間中 (2月3日10:00～2月17日10:00)	0.8°C	1.2°C

※ () 内は温度上昇率

■ 今後について

- ✓ 実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、PCV水位の変動、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価予定。
- ✓ 緊急時対応手順等への反映を検討していく。

1号機確認試験速報にもどる

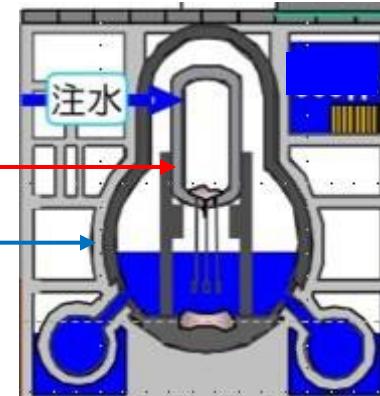
④ 1～3号機 核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について

東京電力は、3号機核燃料デブリ(以下、デブリ)冷却状況の確認試験の結果について上表の通りまとめ、さらに2019年3月から開始された 参照 1～3号機デブリ冷却状況の確認試験を終了し、その結果について、下表の通り発表しました。

(3号機デブリ冷却状況の確認試験の結果についてのまとめ)

- RPVの温度挙動について
 - RPV底部温度、RPV下部周辺温度は全体的に緩やかな挙動を示していた。
 - RPV底部ヘッド上部温度(TE-2-3-69H2)、RPVスカート上部温度(TE-2-3-69K1)で注水再開後の温度低下が大きい傾向、注水量を $2.5\text{m}^3/\text{h}$ に増加した後に温度上昇傾向が確認された。
- PCV水温と水位の変動について
 - PCV新設温度計(TE-16-003)で温度変化が確認された。当該温度計はPCV水位の変化に伴い、一時的に気相露出したと推定している。
 - PCV水位の評価結果及びMSIV室内の漏えい音の確認より注水停止中のPCV水位はMSラインペローズに至っていないと推定している。
- 热バランス評価と実績温度の比較
 - RPV温度は熱源の存在割合に応じ、評価結果と実績温度に若干の差異が生じた。
 - PCV温度は実績温度を概ね再現している。
- 放射線データについて
 - ダストではCs-137、凝縮水ではCo-60、Sb-125で注水停止前後の放射能濃度に変動が確認された。
 - フィルタユニット表面線量、オペフロダストモニタの指示値については注水停止による影響は確認されなかった。

筆者注:
RPV=原子炉圧力容器
PCV=原子炉格納容器



筆者注:なかつたことから、

- 1～3号機において、原子炉注水を一時的に停止する試験を実施した結果として、以下のことがわかった。
 - ① 試験中のRPV温度やPCV温度に大きな上昇はなく、ダスト濃度や希ガス濃度にも影響はなったことから、一時的な原子炉注水の停止によって、燃料デブリの冷却状態に問題はないこと。
 - ② 热バランスモデルによって、注水停止などの過渡的な冷却状態の変化をふくめ、RPV底部温度やPCV温度を概ね評価可能であること。
 - ③ 注水停止中の温度上昇率は、最大の2号機で約 $0.2^\circ\text{C}/\text{h}$ であり、この温度上昇率に基づくと、注水停止時の時間余裕は、およそ10日以上と見込まれ、従前評価の約10時間と比べ、大幅に余裕が大きいこと※。

※ RPV底部の温度が運転上の制限である 80°C に到達するまでの時間余裕

(5) 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止) 第Ⅱ期

① 福島第一原子力発電所1～3号機原子炉注水停止試験の実施について

2020年7月、東京電力は、2019年度に実施した注水停止試験結果(前ページ参照)を踏まえ、今後の廃炉に向けて、各号機の状況を踏まえた目的に応じた試験を計画・実施していくことを発表しました。 [参照](#)

各号機の試験目的等は、下左の表の通りとされていますが、さらに、原子炉冷却状態や炉内挙動などの評価に資するデータ拡充の観点から、原子炉格納容器(PCV)ガス管理設備のHEPAフィルタユニット表面線量率の取得、およびPCVガス管理設備のHEPAフィルタ入口側抽気ガス(フィルタ通過前)のダストおよびHEPAフィルタ入口側抽気ガス(フィルタ通過前)の凝縮水のサンプル採取も検討されています。

筆者注：HEPAフィルタ＝空気中からゴミ、塵埃などを取り除き、清浄空気にする目的で使用するエアフィルタの一種

日程は、2号機の試験を先行して実施(注水停止:8/17～8/20予定)。1号機の試験は、内部調査に向けた作業後に実施する計画。3号機は今年度中に実施できるように工程を調整していくとしています。

また、注水停止時に生じる可能性のあるリスク、およびそのリスクの緩和策については下右の表の通りとしています。

	1号機	2号機	3号機	影響評価	影響緩和策
試験目的	注水停止により、PCV水位が水温を測定している下端の温度計(T1)を下回るかどうかを確認する	2019年度試験(約8時間)より長期間の注水停止時の温度上昇を確認し、温度評価モデルの検証データ等を蓄積する	PCV水位がMS配管ペローズを下回らないことを確認する	温度変化	<ul style="list-style-type: none"> 注水停止に伴う除熱減少により、RPVやPCVの温度が上昇する 熱バランス評価により温度上昇は最大10°C程度と評価しており、注水停止試験による温度上昇は限定的
補足	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度試験では、PCV水温を測定している温度計は露出しなかった より長期間の停止で温度計が露出するか確認し、今後の注水量低減・停止時に考慮すべき監視設備に関する知見を拡充する PCV水位低下状況を踏まえ、今後の注水のありかたを検討していく 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度試験での注水停止期間、RPV底部温度はほぼ一定で上昇することを確認 より長期間の停止で、温度上昇の傾きに変化が生じるか確認し、評価モデルを検証する 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度試験では、PCVからの漏えいを確認しているMS配管ペローズまでPCV水位は低下しなかった PCV水位の低下有無や低下速度等を踏まえ今後の注水のありかたを検討していく 	再臨界	<ul style="list-style-type: none"> 注水再開時に1m³/hを超える注水増加を伴うものの、注水量を現在の状態に戻す操作であり、未臨界維持に与える影響はない
停止期間	5日間	3日間	7日間	ダスト等の放出量增加	<ul style="list-style-type: none"> ガス管理設備においてフィルタを通して排気していることや、湿潤環境が維持されることにより、注水停止試験による放出量増加はない

出典：2020年7月30日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第80回） 資料
「福島第一原子力発電所1～3号機原子炉注水停止試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/07/3-5-2.pdf>

概要に戻る

② 1号機原子炉注水停止試験の実施について

1号機の原子炉格納容器(PCV)には注水冷却により、核燃料デブリ(以下、デブリ)の上に深さ約1.5 mの汚染滞留水(以下、滯留水)が溜まっており、その水温は温度計により常時監視されています。

注水冷却は汚染水発生の一つの要因であり、デブリの冷却を確保しつつ注水量を低減することが望まれますが、水温の監視も欠かすことはできません。。

今回の停止試験は、5日間の注水停止により滯留水が最下部の温度計(右図T1)の位置より下がり、水温が測れなくなるかどうかを確認することを目的として実施されました。

なお2019年度に実施された49時間の注水停止試験 [参照](#) では、温度計T1の位置まで滯留水は下がりませんでした。

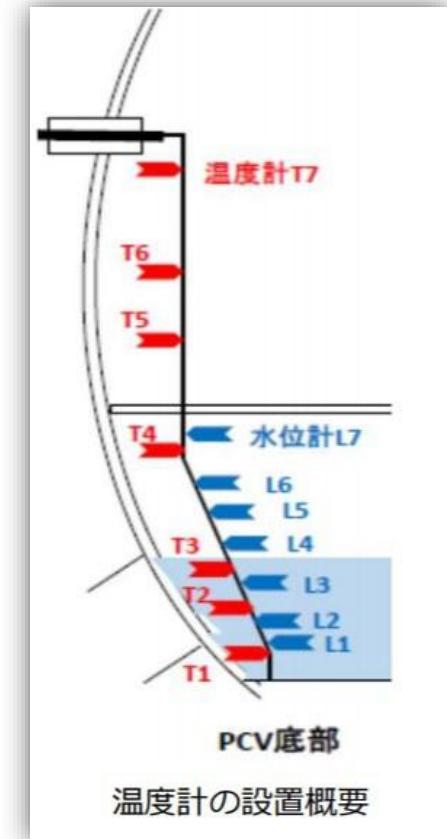
試験結果は概略以下の通りであったと発表されました。

注水停止:2020年11月26日14:33→注水再開:2020年12月1日15:20

原子炉圧力容器(RPV)底部温度、PCV温度に温度計ごとのばらつきはあるが、概ね予測の範囲内で推移した。

PCV水位は、水温を測定している下端の温度計(T1)を下回らなかったと推定される。昨年度試験と同様に、注水停止中にドライウェル(D/W。**筆者注:原子炉圧力容器を包み込むフランコ型の部分**)圧力の低下を確認した。

ダスト濃度や希ガス(Xe-135)濃度に有意な変動はなかった。



出典：2020年11月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第84回）資料「1号機原子炉注水停止試験の実施（試験工程）」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/11/3-5-4.pdf>

2020年12月24日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第85回）資料「1号機原子炉注水停止試験結果」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/12/3-5-2.pdf>

概要に戻る

③ 2号機原子炉注水停止試験結果(速報)

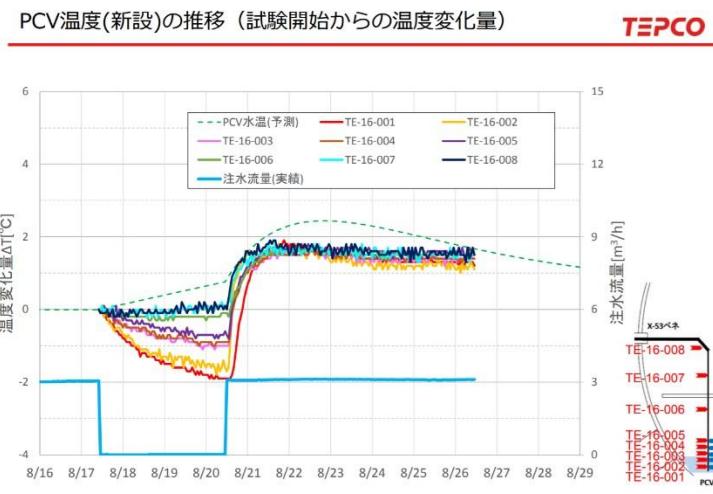
前々ページの下左表中、原子炉注水停止試験2号機の目的である「2019年度試験(約8時間)より長期間の注水停止時の温度上昇を確認し、温度評価モデルの検証データ等を蓄積する」ため、2020年8月17日10:09～年8月20日11:59の約74時間、2号機において、核燃料デブリの冷却注水が停止されました。

この間の温度上昇は、原子炉圧力容器(RPV)底部で12°C未満、原子炉格納容器(PCV)で4°C未満。温度変化の推移も、現行の温度評価モデルに基づく予測に近いものでした。また、この間、ダスト濃度や希ガス(Xe135)濃度等のパラメータに有意な変動も測定されませんでした。

東京電力は今後について、

「試験終了予定の8月28日までパラメータの監視を継続する。

実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価予定」としています。



出典：2020年8月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第81回） 資料

「2号機原子炉注水停止試験結果（速報）」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/08/3-5-2.pdf>

概要に戻る

(6) 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止) 第Ⅲ期

① 福島県沖地震(2021年2月13日)のイチエフへの影響、および地震から分かったこと

2021年2月13日夜福島県沖を震源としたマグニチュード7.3の地震が発生し、イチエフは震度6弱の揺れにみまわれました。この地震によりイチエフ構内で起きた主要なこと、またこの地震をきっかけに分かったことを、以下に列挙します。

- ・ 5・6号機の各原子炉建屋の上部にある使用済み核燃料プールから水の一部があふれました。東京電力は建屋外への流出は確認されておらず、外部への影響はないとしています([14日東京電力発表](#))。
- ・ 増設ALPSサンプルタンク1基(全3基)、高性能ALPSサンプルタンク2基(全3基)にタンクの位置ずれ(最大5cm)が確認されたそうです。東京電力は、水漏れやタンクの損傷は確認されていないとしています([18日東京電力発表](#) 9ページ)。
- ・ 1・3号機原子炉格納容器(以下、格納容器)の水位が低下していることが分かりました([19日東京電力発表](#))。
- ・ 1号機の格納容器圧力が低下していることが分かりました([21日東京電力発表](#))。
- ・ 22日の原子力規制委員会の第88回特定原子力施設監視・評価検討会の席上で、東京電力は、3号機の原子炉建屋に昨年設置した地震計2基が故障していたにもかかわらず、修理などの対応をせず放置していたため、[2月13日に発生した地震の揺れのデータが記録できていなかったことを明らかにしました\(第88回特定原子力施設監視・評価検討会 会議映像\)](#)。
- ・ [22日、東京電力が、2月1日から1~3号機の水位データの採取を終了していたことが分かりました\(おしどりマコtwitter\)](#)。

本レポートでは、このうち、今後の廃炉作業への影響も懸念される、1・3号機格納容器の水位低下と、1号機格納容器圧力の低下について、現時点で分かる限り、何が起こっているのかを掘り下げてみます。

概要に戻る

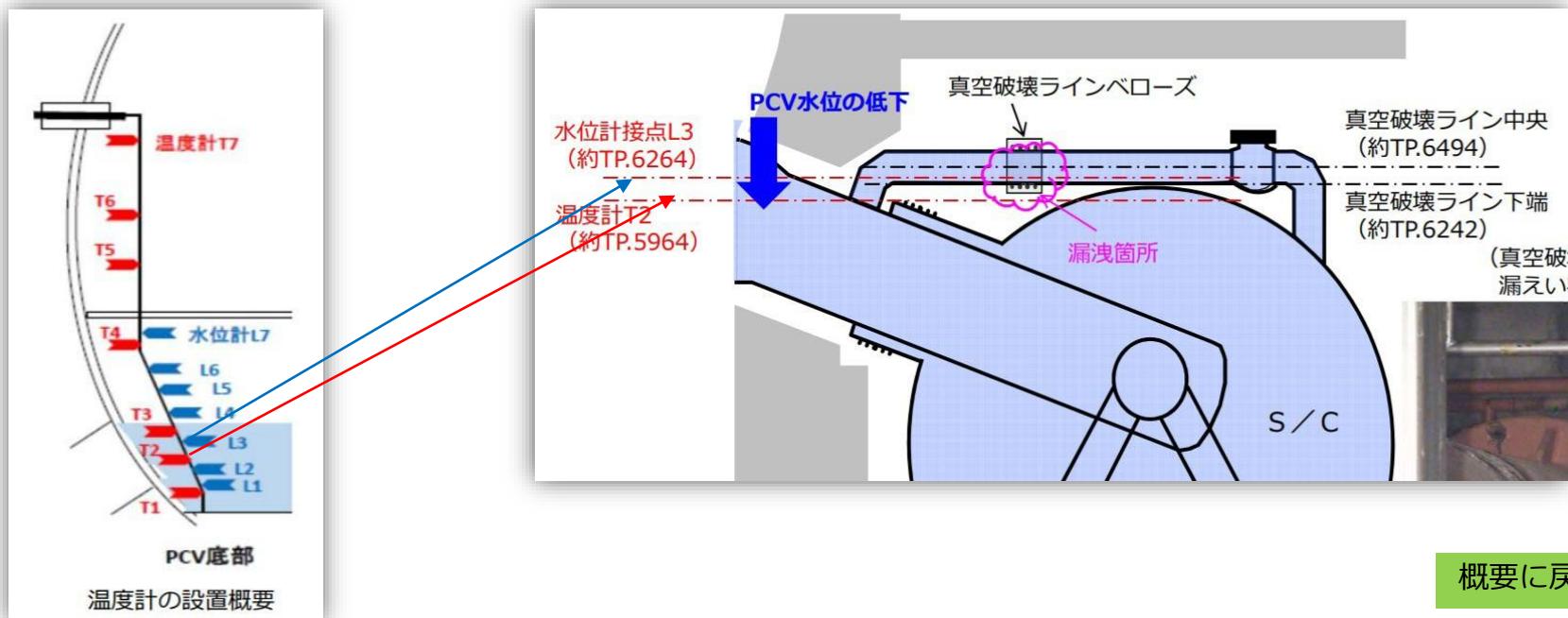
(次ページに続く)

② a 福島県沖地震(2021年2月13日)のイチエフへの影響、および地震から分かったこと

1号機では、2019年10月に行われた1号機核燃料デブリ注水冷却停止試験 [参照](#)において、水位を温度計T2付近まで下げたところで、原子炉格納容器(以下、PCV)圧力が低下し、注水再開後、水位を温度計T2付近まで上げたところでPCV圧力が元に復しています。東京電力は、この高さがこれまでに損傷が確認されていた真空破壊ラインベローズの設置高さとおおむね一致したことから、PCV水位が損傷個所を下回ると、損傷個所が空気中に露出し、そこからPCV内空気が漏えいし、PCV圧力が低下したたのだろうと推論しています(2020.1.30 [『1号機 燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について』](#)14ページ)。

この推論を今回の1号機PCVの水位と圧力との挙動に重ね合わせると、今回の地震発生後、1・3号機PCVの水位が低下し、かつ1号機の格納容器圧力が低下していることから、1号機PCVでは、これまでに損傷が確認されていた真空破壊ラインベローズより下部の損傷が拡大したか、新たな損傷が生じ、そこから冷却水が漏れることでPCV水位が真空破壊ラインベローズ以下に低下し、真空破壊ラインベローズが空気中に露出し、そこからPCV内空気が漏えいしPCV圧力が低下したと考えられます。

核燃料デブリの環境への影響の最大の防波堤であるPCVおよび周辺機器の脆弱性が懸念されます。(次ページに続く)

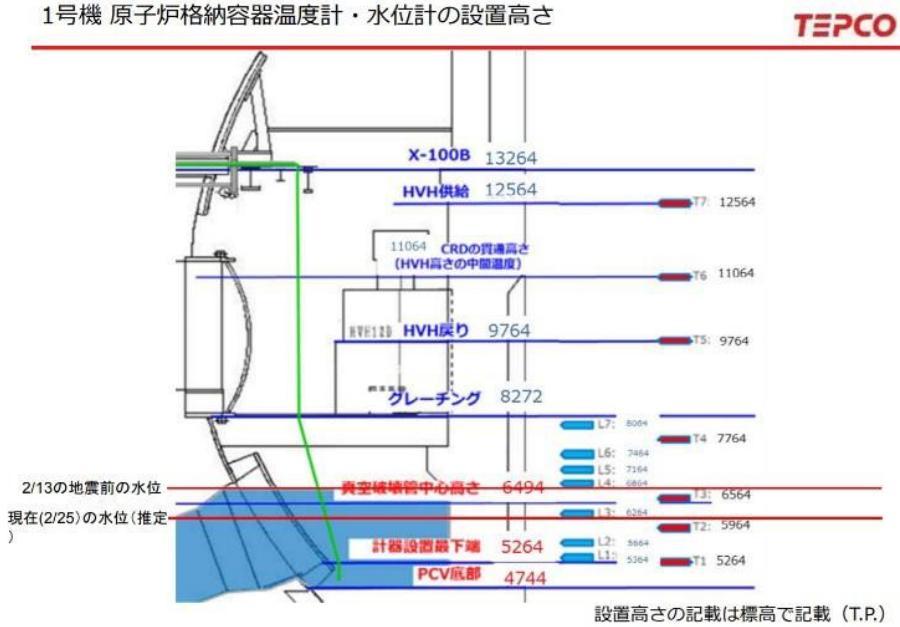


[概要に戻る](#)

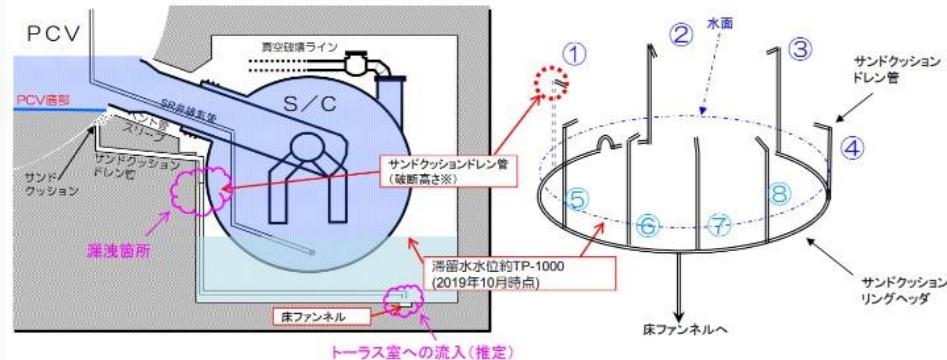
b 2月25日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第87回)以降の推定

下部2図を含む標記会議資料において東京電力は、1号機原子炉格納容器（以下、PCV）の水位の低下および圧力の低下の状況と原因について、[前ページ](#)の筆者の推定とほぼ同じ推定をしています。27日現在、温度計T2付近まで水位は下がり続けているようです。

1号機 原子炉格納容器温度計・水位計の設置高さ



(参考) 1号機 これまでのPCV漏洩箇所の推定状況 (2/2)



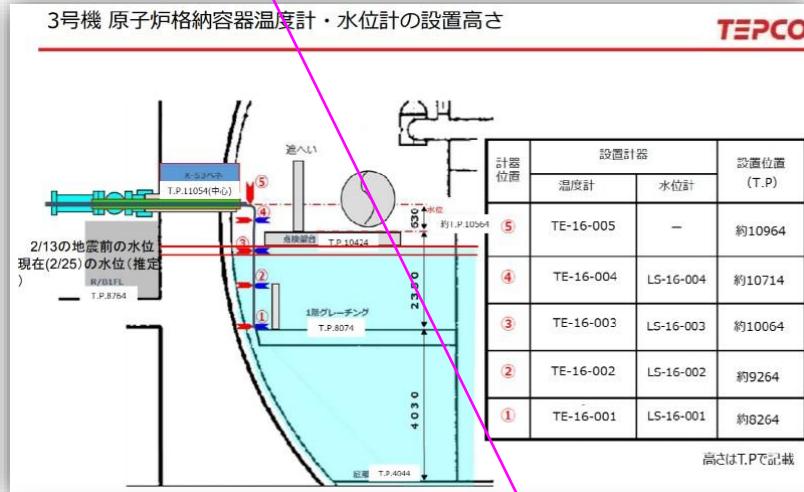
※ サンドクッシュョンドレン管は8本あり、うち1本が気中に破断していることが確認されている。

- サンドクッシュションドレン配管からの漏洩が確認されているのは、気中で破断している1箇所のみであるが、他の7本についても、水中（たとえば床ファンネル付近）において、PCVから漏洩している可能性がある。

概要に戻る

下部2図を含む標記会議資料において東京電力は、3号機PCVの水位低下の原因については、主蒸気配管の伸縮継手部からの漏えいが従来から確認されていたことにとどめています。しかし、3月1日現在、水位は**主蒸気配管が通っている貫通部下部を過ぎて低下**しています。

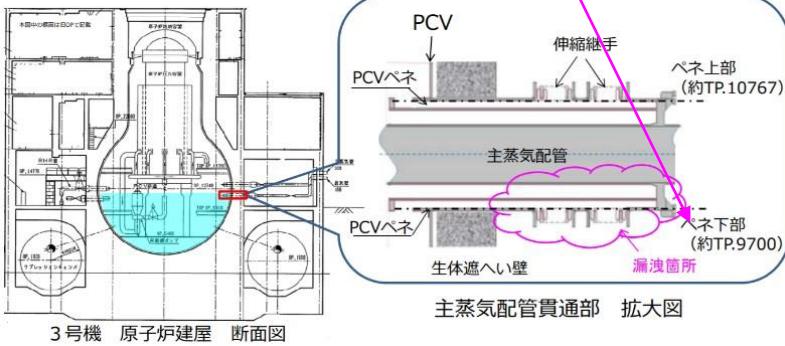
損傷の拡大（推定）と水位の低下に戻る



(参考) 3号機 これまでのPCV漏洩箇所の推定状況

TEPCO

- 3号機では、これまでの調査により、主蒸気配管の伸縮継手部から、漏洩が確認されている。



3号機PCV水位の変化 (東京電力日報データから筆者が計算)

日付	水位(底部から)	前日との水位差	地震前との水位差
単位	mm	mm	mm
地震前の水位	6,380		
2021/2/19	5,579	-801	-801
2021/2/20	5,570	-9	-810
2021/2/21	5,549	-21	-831
2021/2/22	5,549	0	-831
2021/2/23	5,529	-20	-851
2021/2/24	5,520	-9	-860
2021/2/25	5,509	-11	-871
2021/2/26	5,518	9	-862
2021/2/27	5,499	-19	-881
2021/2/28	5,500	1	-880
2021/3/1	5,519	19	-861

概要に戻る

③ 1・3号機原子炉格納容器の水位

3号機については、2021年4月2日『[福島第一原子力発電所の状況について\(日報\)](#)』によると、プラントパラメータに異常がなく、原子炉格納容器(以下、PCV)水位も、2021年2月13日以前の水位約 6.4 m から 90 cm 減で安定していることから、4月2日、監視強化から通常の監視に戻したということです。

1号機は、『[1,3号機原子炉格納容器\(PCV\)の水位低下について\(続報2\)](#)』によると、3月22日、水位が水位計L2 (T.P.+5,664 mm)を下回ったため、核燃料デブリ冷却用注水量を $3.0 \text{ m}^3/\text{h} \rightarrow 4.0 \text{ m}^3/\text{h}$ とし、23日の『[同\(続報4\)](#)』によると、水位は水位計 L2 上に復し、26日の『[同\(続報6\)](#)』によると注水量を $3.0 \text{ m}^3/\text{h}$ に戻しています。また1号機では接点式の水位計しか設置しておらず、連続的に水位データを追えませんが、4月の水位は温度計T2(T.P.+5,964 mm) 水位計L2 (T.P.+5,664 mm)との間にあります。

また3号機については、4月5日から4月22日の期間、原子炉注水停止に伴いPCVの水位がどの程度まで低下するのか影響を確認し、さらに今後の燃料デブリ取り出し関連作業に向けた知見拡充を図るため、3号機の原子炉注水設備において、原子炉注水を一時的に停止する試験(3号機原子炉注水停止試験)を実施しました。

詳しくは[次ページ](#)をご覧ください。

さらに1号機では、2021年度、地震があった際のリスクを低減するため、水位を低下させる計画が発表されました。

※ この1号機の水位低下計画についてのレポートは、今後の核燃料デブリの取り出し準備の一環と思われますので、「[核燃料デブリの取り出し準備2021年4月レポート](#)」173ページ～「(3) 原子炉格納容器(以下、PCV)内部状態の変更」内の176ページ～「b 1号機 原子炉格納容器水位低下計画について」に移しましたので、そちらをご覧ください。

(次ページに続く)

	TP標高(mm)	PCV底から高さ(cm)
水位計L3	6,264	152
温度計T2	5,964	122
水位計L2	5,664	92

④ 1号機 原子炉格納容器の水位の経過について (2021年5月の経過)

1号機の原子炉格納容器(以下、PCV)水位は、「福島原子力事故に関する定期更新 2021年(日報)」によりますと、5月1日から6日までは、温度計T2(T.P.+5,964 mm)と水位計L2(T.P.+5,664 mm)の間にありましたが、7日には水位計L2(T.P.+5,664 mm)を下回り、注水量が約3.0 m³/hから約4.0 m³/hへと増量されました。この結果11日、水位は温度計T2(T.P.+5,964 mm)超に復し、注水量は約3.0 m³/hへ戻されています。この不安定な水位を受け、10日に計画されていたPCV注水量変更計画が延期されています。

18日には総注水量約3.0 m³/hのうち、炉心スプレイ系と給水系が半々だったのが給水系一本での約3.0 m³/hに変更されました。理由は不明です。

21になると水位は再び温度計T2(T.P.+5,964 mm)付近となり、さらに24日には温度計T2(T.P.+5,964 mm)を下回り、30日には、水位計L2(T.P.+5,664 mm)も下回ったため、31日に注水量を約3.0 m³/hから約4.0 m³/hへと増量。6月1日に水位計温度計T2(T.P.+5,964 mm)超まで復すという挙動を繰り返しています。

なお2月13日地震の前のPCV底部からの水位は約175 cm、水位計L2(T.P.+5,664 mm)のPCV底部からの水位は約92 cmです。
(2021年6月の経過)

上記の注水量の増量により、6月1日、水位は再び温度計T2(T.P.+5,964 mm)超に復し、6月3日以降、水位計L3(T.P.+6,264 mm)付近にあるようです。

また、接点式の水位計であるL2(T.P.+5,664 mm)については、6月1日、水位がT.P.+5,964 mm超であるにもかかわらず、接点ON(水没)とOFF(非水没表示)を繰り返している状態ということで、信頼性に疑問が生じています。

出典：2021年5月30日東京電力資料「1,3号機原子炉格納容器（PCV）の水位低下について（続報13）」一原子力発電所 1号機および3号

https://www.tepco.co.jp/press/mail/2021/1612077_9004.html

2021年6月1日東京電力資料「福島第機原子炉格納容器における水位低下について（続報）」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2021/1h/rf_20210601_1.pdf

2021年6月1日東京電力資料「福島第一原子力発電所 1号機および3号機原子炉格納容器における水位低下について（続報）」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2021/1h/rf_20210601_1.pdf

概要に戻る

⑤ 2021年2月13日地震による1・3号機原子炉格納容器の

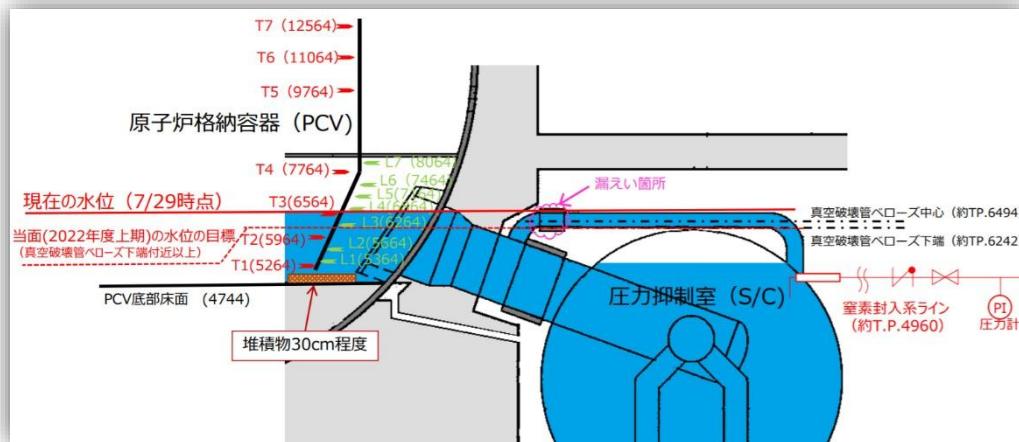
損傷の拡大(推定)と水位の低下について

2021年2月13日深夜、福島県沖を震源とする地震が発生しました。福島第一原子力発電所では、現行基準地震動(水平方向) 600 Galに対して6号機で235.1 Galの揺れでした。

従来から原子炉格納容器(以下、PCV)の損傷が推定されていた1、3号機においては、地震前の冷却注水量3.0 m³/hにより、1号機ではPCV底部より約175 cm、3号機では約638 cmの水位が保たれていました。しかし2月19日以降水位の低下が続き、3号機では4月1日、約548 cmまで約90 cm低下したところで安定しました(前々ページ既報)。

1号機は、一時は約92 cmまで水位が低下しましたが、冷却注水量を3.0 m³/hと4.0 m³/hとの間で調節、試行錯誤するとともに、連続して水位を測定できる圧力計を追加設置し、6月7日に冷却注水量を3.5 m³/hとすることで約152 cmで安定を得ました。

これらのことから、3号機では、これまでに損傷が確認されていた主蒸気配管の伸縮継手部より下部に新たな損傷が発生^{参照}、1号機では、これまでに損傷が確認されていた真空破壊ラインベローズの損傷規模が 0.5 m³/h程度拡大したと推定されます(下図)。



出典：2021年2月15日東京電力資料「地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2021/1h/rf_20210215_1.pdf

2016年1月21日東京電力資料「福島第一原子力発電所検討用地震動・津波に対する建屋検討結果」

<https://web.archive.org/web/20170119041544/https://www.nsr.go.jp/data/000137503.pdf>

2021年7月29日東京電力資料「1号機 原子炉格納容器における水位安定の状況について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2021/07/92-3-6-2.pdf>

概要に戻る

⑥ a 2号機TE-2-3-69Rの謎

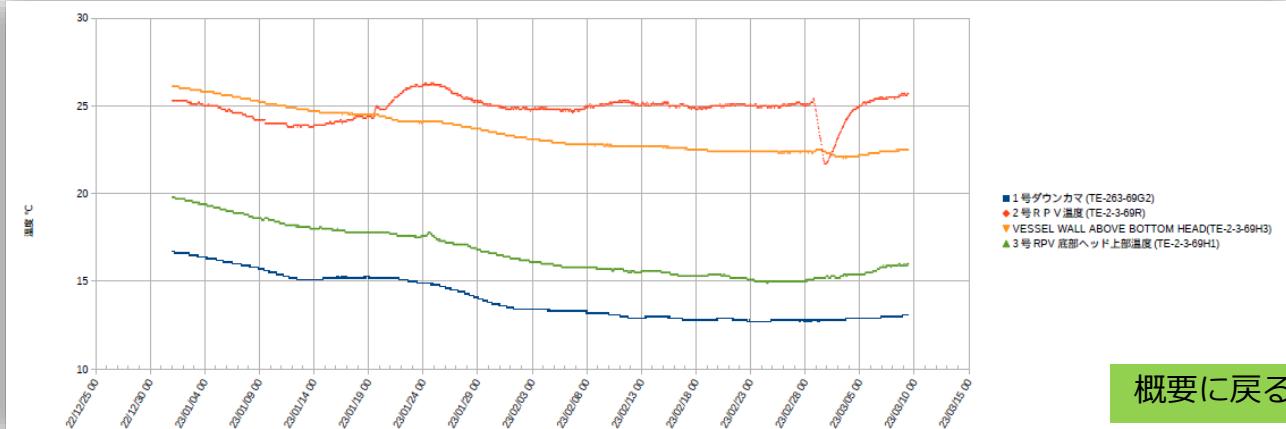
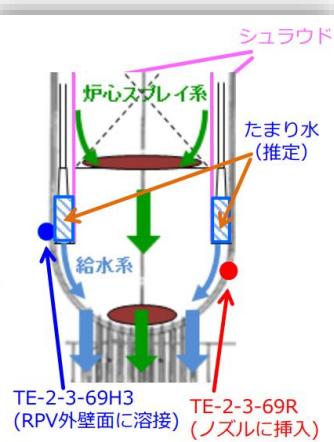
筆者は日課として、東京電力のホームページから福島第一原子力発電所の[プラント関連パラメーターアーカイブ](#)というページを開き、その日のパラメータのデータを前日のそれと比較してみています。

その日課の中で以前から不思議に思っていたことがあります、自信をもって解釈も説明もできないため、これまでレポートもしていませんでした。今回、分からることは分からることとして、事実を事実としてレポートしておくことにします。

それは2号機原子炉圧力容器(以下、RPV)の底部ヘッド上部に2014年に新設されたTE-2-3-69Rという温度計(下左図参照)があります。その温度計のデータが、同じ2号機RPV底部ヘッド上部にある温度計TE-2-3-69H3(下左図参照)や、1・3号機のほぼ同じ位置にある温度計のデータと時々(月に1, 2回ぐらい)違う動きをすることです。TE-2-3-69R以外の温度計データは毎日およそ原子炉冷却用の注水温度と同期してなだらかな変化をしています、ところがTE-2-3-69Rの温度計データは時々それらと同期せず、小さいながらも明らかにTE-2-3-69R以外の温度計データの変化より大きな変化を示すことがあります。

[次ページ](#)の3つの表をご覧ください。上が2024年2月1日のRPV底部温度データ、真ん中が2月5日のデータ、下が2月13日のデータです。赤い楕円で囲ったのが2号機TE-2-3-69Rのデータ、オレンジ色の楕円内がTE-2-3-69H3という2号機のもう一つの温度計データ、青の楕円内が1号機のほぼ同じ位置の温度計データ、緑の楕円内が3号機のほぼ同じ位置の温度計データです。

下右のグラフは2023年初頭の2か月少しの期間のTE-2-3-69Rデータ(赤)、TE-2-3-69H3のデータ(オレンジ)、1号機のほぼ同じ位置の温度計データ(青)、3号機のほぼ同じ位置の温度計データ(緑)です。明らかにTE-2-3-69Rのデータが他のデータと異なる動きを示していることがお分かりいただけると思います。
[\(次ページに続く\)](#)



[概要に戻る](#)

この違いが、東京電力が下記出典で言う、TE-2-3-69Rの他の温度計との設置位置の違いによるものか、他の温度計の事故の影響による指示値の不確かさによるものか現時点では確かめようはありませんが、2号機TE-2-3-69Rの近くに、活動量が時折変動する何らかの熱源があることが推定されます。

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

2024年2月1日 11:00現在

2024
東京電力ホール
福島第一廃炉

	1号機	2号機	3号機
原子炉圧力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1) : 15.8 °C 原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1) : 12.9 °C VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2) : 15.1 °C	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3) : 25.4 °C RPV温度 (TE-2-3-69R) : 28.8 °C	スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1) : 17.4 °C RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1) : 17.6 °C

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

2024年2月5日 11:00現在

2024
東京電力ホール
福島第一廃炉

	1号機	2号機	3号機
原子炉圧力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1) : 15.7 °C 原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1) : 12.9 °C VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2) : 15.1 °C	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3) : 25.3 °C RPV温度 (TE-2-3-69R) : 29.5 °C	スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1) : 17.3 °C RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1) : 17.6 °C

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

2024年2月13日 11:00現在

2024
東京電力ホール
福島第一廃炉

	1号機	2号機	3号機
原子炉圧力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1) : 15.3 °C 原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1) : 12.7 °C VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2) : 14.8 °C	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3) : 25.4 °C RPV温度 (TE-2-3-69R) : 26.3 °C	スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1) : 17.3 °C RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1) : 17.3 °C

出典：2019年8月27日東京電力資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果と今後の試験計画について」

<https://www.da.nsr.go.jp/file/NR000127243/000283111.pdf>

概要に戻る

⑥ b 2号機TE-2-3-69Rの謎の原因についての一つの推定

2号機原子炉圧力容器(以下、RPV)底部に設置された温度計TE-2-3-69Rは、旧TE-2-3-69Rの指示値の挙動が不審であったことから、2012年10月、SLC差圧検出配管に新しい温度計が設置され(新)TE-2-3-69Rとされています。

この(新)TE-2-3-69R指示値の挙動の謎について、東京電力は下記出典1の6ページにおいて、以下のようにその要因を推定しています。

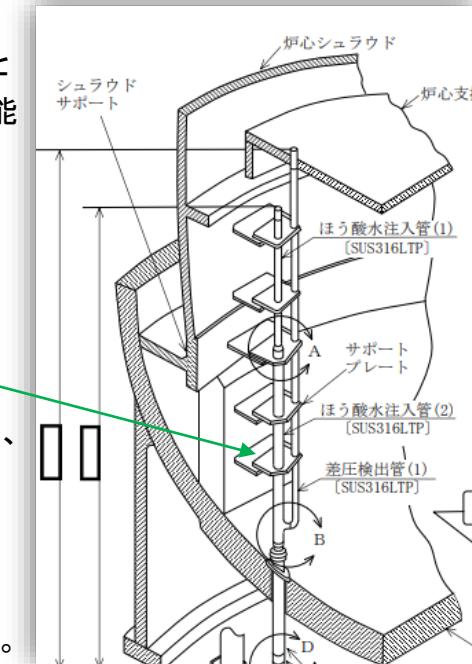
- ① TE-2-3-69H3とTE-2-3-69Rの設置位置の違いにより、RPV内でTE-2-3-69Rの方が燃料デブリに近い可能性。
- ② 2号機のシュラウドは概ね健全であり、TE-2-3-69H3の内側には、たまり水があると推定。たまり水の影響により、当該箇所の温度変化が緩やかになっている可能性。
- ③ TE-2-3-69H3などの既設の温度計は、事故の影響により絶縁が低下しており、指示値の不確かさが大きい可能性※2。(指示値の不確かさは最大20°C程度と評価)

つまり東京電力は、TE-2-3-69H3温度計の性能が低下しており、かつ設置位置の内側にたまり水もあると推定されその指示値は不確かである。TE-2-3-69Rの方が核燃料デブリに近くその影響を受けている可能性が高いと言いたいのだと思います。

しかし、[前々ページ](#)左下の2号機RPVのポンチ絵および右引用図をご覧ください。TE-2-3-69H3がRPVの外壁に取り付けられているのに対し、TE-2-3-69Rは、RPV内部の[SLC差圧検出配管](#)に設置されており、冷却用注水とくに給水系(FDW系)注水を被る位置にあるようです。

そこで、[東京電力のホームページプラントデータサイト](#)から2号機の1時間毎のデータを取り出し、読者のお一人に、2025年初頭から6月初旬にかけてのTE-2-3-69R温度計指示値、TE-2-3-69H3温度計指示値、FDW系注水水温およびCS系注水水温をグラフ化していただいたものが[次ページ](#)のグラフです。

筆者には、[TE-2-3-69R温度計指示値のトレンド\(赤のグラフ\)](#)は、[FDW系注水水温](#)および[CS系注水水温](#)(両端が紫色、中央が水色のグラフ)にほぼ同期しているように見える、つまりTE-2-3-69H3温度計指示値の挙動は注水水温の影響が大きいと思われるのですが、読者の皆さんいかがお考えでしょうか。



出典：2019年8月27日東京電力資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果と今後の試験計画について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/08/3-5-2.pdf>

2019年8月29日東京電力資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果と今後の試験計画について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/08/3-5-2.pdf>

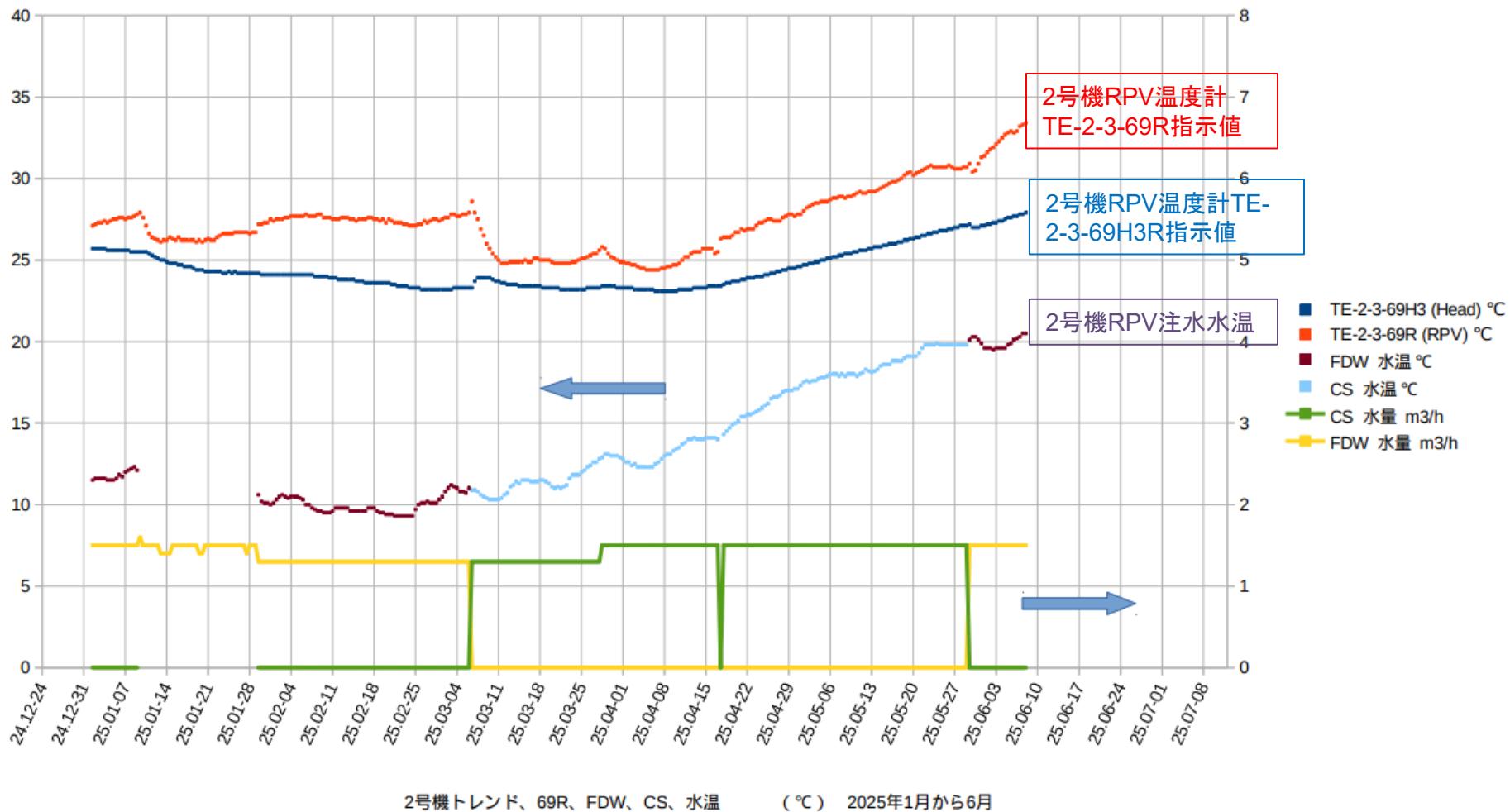
2020年10月20日東京電力資料「2号機原子炉注水停止試験結果」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/evaluation_review/pdf/2020/evaluation_review_2020101904.pdf

2021年12月10日東京電力資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果と今後の試験計画について」

<https://www2.nra.go.jp/data/000376165.pdf>

概要に戻る



概要に戻る

⑦1号機原子炉格納容器水位低下方法変更の(筆者にとっての)謎

1号機では、2024年2月29日に見送りとされた、原子炉格納容器(以下、PCV)内部調査(気中部調査)を3月14日に実施することに伴い、下記の通り1号機の原子炉注水を停止しました。

調査開始前 3月14日9:52 (3.8 m³/h→0 m³/h)、調査終了後 3月14日12:10 (0 m³/h→3.8 m³/h)。関連パラメータには異常がなかったとのことです。

また1号機では、耐震性向上に向けてPCVの水位を、現在の圧力抑制室(以下、S/C)底部から約8.5 m(T.P.6600)からS/Cの中央部付近(S/C底部から約4 m, T.P.2134)まで、原子炉注水の設定流量を±0.3 m³/hの範囲で調整しながら、約9か月かけて、段階的に低下させる計画が、2月29日東京電力資料「1号機原子炉格納容器の水位低下について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/02/02/3-5-2.pdf>

で明らかにされています。そして、この計画に沿って、3月26日(3.8 m³/h→3.4 m³/h)と原子炉注水量が変更されています。
(筆者にとっての謎はここからです)

しかし1号機では、S/Cに繋がっているCUW(筆者注:重大事故時に圧力容器を除熱することにより間接的にPCVを除熱する代替補機冷却系)配管を経由したS/Cからの取水により、PCVの水位の低下を図る計画が進行していました。

『核燃料デブリの取り出し準備2024年2月レポート』

<https://1fwatcher.files.wordpress.com/2024/03/202402-05-debris.pdf>

の298ページ～305ページをご覧ください。

2023年12月21日の第121回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議までは、1号機PCVの水位低下はCUWを経由したS/Cからの取水により行われることになっており、1年以上にわたって準備作業が行われていました。

筆者は、2024年2月の『原子炉の状態レポート』

<https://1fwatcher.files.wordpress.com/2024/03/202402-01-gennshiro-02.pdf>

4ページの主な取り組みと状況で2024年2月29日1号機水位低下計画をレポートした際、水位低下<方法の変更>を見逃していました。

現在のところ、東京電力廃炉カンパニー、原子力規制委員会、廃炉等推進機構等の<方法の変更の理由>を記述した資料を探していますが、見つけられていません。

今後、<方法の変更の理由>を明らかにできた場合は『核燃料デブリの取り出し準備レポート』で報告します。

出典： 2024年3月14日東京電力「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」

https://www.tepco.co.jp/press/report/2024/1667211_8994.html

2024年3月26日東京電力「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」

https://www.tepco.co.jp/press/report/2024/1667292_8994.html

概要に戻る

(7) 循環注水冷却スケジュール

(更新)

東京電力は、原子炉注水設備に関する信頼性向上などを目的として、循環注水冷却ラインについて様々な改修を加えています。改修工事実施時においては、通常炉心スプレイ系(CS系)注水ライン・給水系(FDW系)注水ラインの2系統で行っている原子炉循環注水冷却の一方を止めることもあります。

個々の停止実績および予定については、下の循環注水スケジュール表をご覧ください。

機器名	作動状況	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定										備考
		10月	11月	12月	2026年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
原子炉本体	循環注水冷却停止	（実） ・[外因] 循環注水冷却中（継続）	11. 2. 27 循環注水冷却（循環停止期間）	（実） ・[外因] 循環注水冷却中（継続）								
海水噴射及び 電化槽冷却	（実） ・[外因] 海水噴射による本体冷却循環（継続） ・ヒドライフィン入り（2018.8.29～）	（実） ・[外因] 海水噴射による本体冷却循環（継続） ・ヒドライフィン入り（2018.8.29～）	CST 交換注入による海水冷却循環	（実） ・[外因] 海水噴射による本体冷却循環（継続） ・ヒドライフィン入り（2018.8.29～）								

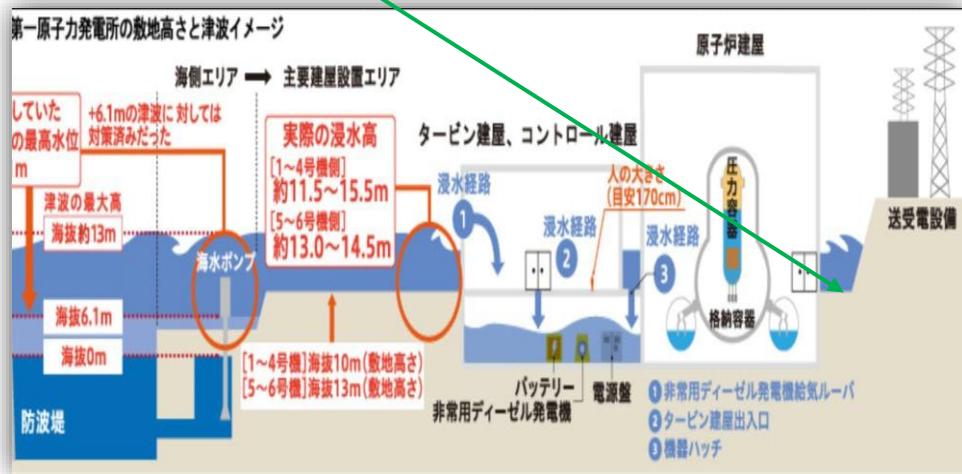
7 原子炉格納容器ガス管理設備

(1) 窒素ガス分離装置A及びBの取替及び原子炉圧力容器窒素封入ライン二重化 (特定原子力施設に係る実施計画変更認可申請)

原子炉格納容器内窒素封入設備は、水素爆発を予防するために、原子炉圧力容器内及び原子炉格納容器内に窒素を封入することで不活性雰囲気を維持することを目的として、専用のディーゼル発電機を備えない窒素ガス分離装置A・B2台を事故直後1号機近傍の10 m盤に設置・運用し、2013年には専用のディーゼル発電機を備えたCを高台に新設・運用しています。

東京電力は2017年10月6日、原子力規制委員会に対し、津波時等の信頼性向上のため、A・BをCと同様の高台に移設し、かつそれぞれに専用ディーゼル発電機を設置するという変更認可を申請しました。

(現在の原子炉格納容器内窒素封入設備配置位置)



出典：2012年12月25日東京電力「窒素ガス分離装置（C）の新設について」
http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/121225/121225_01j.pdf

2017年10月6日原子力規制委員会「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画 变更認可申請書」
<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12639624/www.nra.go.jp/data/00020605.pdf>

2017年10月6日原子力規制委員会「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に
係る実施計画変更比較表（第Ⅱ章 2.2 原子炉格納容器内窒素封入設備）」
<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12639624/www.nra.go.jp/data/000206059.pdf>

概要に戻る

(2) 福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内圧力の減圧試験の実施について

イチエフの1~3号機の格納容器(PCV)は、窒素ガスの注入とガス管理設備による排気のバランスにより大気圧より高い圧力(PCV内の気圧)を維持し、水素濃度の上昇を抑制してきました。

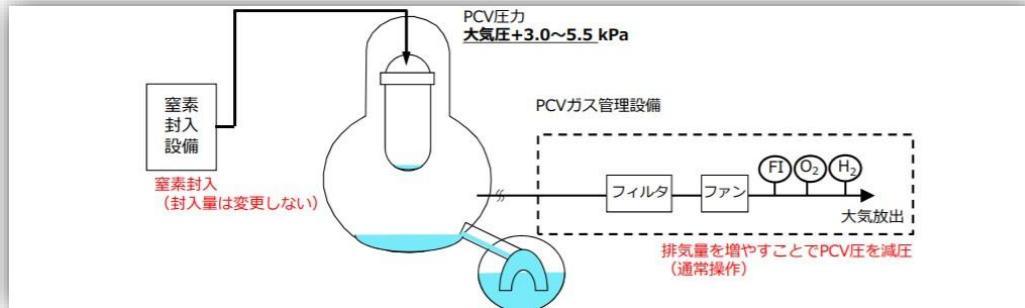
とくにメルトダウン後に1・3号機のように水素爆発を起こしてしまっていない2号機については、1号機(大気圧+1.15 kPa)、3号機(大気圧+1.15 kPa)より高い大気圧+ 3.0 kPa～5.5 kPaで運用してきました。

一方、今後、格納容器からの放射性物質の放出リスクを低減させ、また格納容器内部調査時における格納容器内外の遮断(バウンダリ)開放作業等の作業性を向上させるために、格納容器圧力を下げていく必要性があります。

現在、2号機でも水素濃度上昇のリスクは低くなっています。東京電力は、1 kPa減圧した場合でも水素濃度上昇量は0.1 %程度と低く、実施計画制限2.5 %(水素濃度管理値:1.5 %)に至るおそれないと推定しています。

このため、2018年7月から約半年間の予定で、減圧試験を実施し、その結果プラントパラメータやダスト濃度に有意な変動は確認されませんでした。

本試験の結果を踏まえ、2018年12月1日よりPCVの設定圧力を大気圧+2 kPa程度を中心に、0 kPa～ 5.5 kPaを運用範囲とし本運用しています。



2号機 原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認に戻る

出典：2018年6月28日第55回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料

「福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内圧力の減圧試験の実施について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/07/3-5-2.pdf>

2018年12月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第61回） 資料

「福島第一原子力発電所 2号機原子炉格納容器圧力の減圧試験(STEP2)の結果について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/13/3-5-2.pdf>

概要に戻る

(3) 1号機格納容器内部調査のためのアクセスルート構築のためのX-2貫通部外側の孔あけ作業における、放射性ダスト放出リスク低減のための減圧操作について

東京電力は、2019年度上期に実施が予定されている1号機格納容器内部調査の、アクセスルート構築に際して実施する孔あけ加工機(アブレシブウォータージェット: AWJ)による作業中のダスト放出リスクをさらに低減することを目的とし、1号機の原子炉格納容器(PCV)圧力(PCV内の気圧)を大気圧と同等程度を目標に減圧する操作を実施し、その結果と今後の取り扱いについて以下の明朝体部分(文中のゴシック体は筆者による補遺)の通り公表しました。

操作実績

- ・操作日時:2019年4月4日(木), 11日(木)
- ・対象号機:1号機
- ・PCVガス管理設備排気流量:4月 4日 約20 m³/h → 約24 m³/h
4月11日 約23 m³/h → 約26 m³/h
- ・PCV圧力 操作前:約0.7 kPa → 4月15日現在:約0.0kPa

(次ページに続く)

4月4,11日、1号機PCV(原子炉格納容器)ガス管理設備排気流量を増加させることにより、1号機PCVの減圧を実施した結果、大気圧と同等程度までPCV圧力(PCV内の気圧)を減圧(約0.0-約0.1 kPa)できることを確認した(減圧操作後、監視パラメータである酸素濃度・水素濃度に異常なし)。

一方、4月11日の操作以降、複数のPCV内温度計で大気圧の上昇に応じた温度上昇を確認(約0.1-約0.3°C/hで上昇が確認されたものが1本。その他は0.1°C/h未満の微小な上昇)過去にも類似事象は確認されているが、その際の温度上昇率(約0.6-約2.0°C/h)に比べ、今回の上昇率は小さい。

減圧操作の手順は「PCV内温度が全体的に上昇傾向が継続する場合は、排気流量を減少させる」としていたが、大気圧の変動に対する温度計指示の上昇が落ち着く傾向が見られることから、当面は現状の減圧状態を維持し、温度の監視を継続することとする。但し、念のため下記の判断基準を追加し、そのいずれかを逸脱した場合は、ガス管理設備の排気流量をPCV温度の上昇が確認されなかった4月11日の操作前(約23-約24 m³/h)を目安に減少させる等の対応をとる。

温度計指示値 50°C以下

温度上昇率 1.0°C/h以下

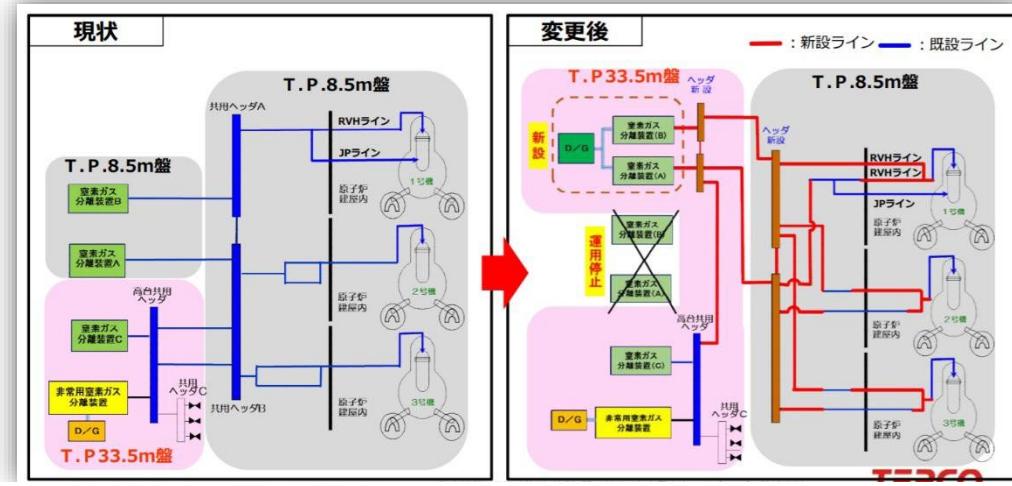
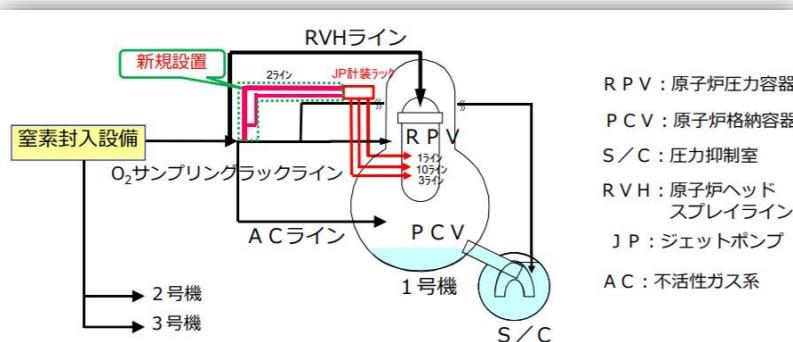
なお、排気流量を減少させる場合には、今回得られた減圧操作に関する知見を踏まえ、PCV温度の監視を行った上で、圧力の調整を検討する。

(4) 新規に設置したRVHラインを用いた窒素封入設備の通気試験

「原子炉格納容器ガス管理設備」ページでレポートした通り、窒素封入設備のうちA、Bは、震災直後にT.P.8.5m盤に設置した設備であるため、東京電力は、津波対策としてT.P.33.5m盤の高台へ移し、同時に、窒素ガス分離装置AおよびBを取替え(2019年3月現在、装置本体を収納したコンテナ、発電設備、電気計装品コンテナ等を設置済み)、並びに非常用電源を多重化するため専用ディーゼル発電機を新設します。

合わせて信頼性向上のため、1～3号機原子炉圧力容器(RPV)封入ラインを二重化します。新設装置への切り替えは、原子炉への窒素封入に影響がないように既設装置を流用しながら実施することとしています。

2019年6月、1号機において、2系統の窒素封入ラインのうち、新たに設置したRVH ラインを用いた窒素封入設備の通気試験を実施しています。通気試験における新設RVHラインおよび既設JP ラインそれぞれの窒素封入量の変更量については出典3をご覧ください。



出典：2019年8月24日東京電力

「原子炉格納容器内窒素封入設備 1～3号機原子炉圧力容器封入ライン二重化及び窒素ガス分離装置A、B取替工事について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/3-5-5.pdf>

2019年3月26日福島県「福島第一原子力発電所現地確認報告書」
<https://web.archive.org/web/20191020185614/http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/330661.pdf>

2019年6月東京電力「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」
https://www.tepco.co.jp/press/report/2019/1515154_8985.html

概要に戻る

(5) 1～3号機窒素封入設備他取替工事におけるインシデント

2020年2月27日の廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第75回)において、東京電力が提出した下記出典資料「1～3号機窒素封入設備他取替工事について」を開いたところ、5ページに

工事期間中に発生した不適合事象※の対策として、系統全ての弁について銘板の照合およびラインの識別表の取付を実施した。

という記述があつたため、このことも含め、この工事計画についてレポートします。

東京電力は、窒素封入設備について、信頼性向上対策として原子炉圧力容器(RPV)窒素封入ラインの二重化工事を実施しました。

ところが、2019年8月、2号機の既設RPV封入ラインから新設RPV封入ラインへの切替を実施中、原子炉格納容器(PCV)内への窒素封入が停止しました。

原因是、操作対象弁の弁銘板に取付間違があり(次ページ画像参照)、弁操作により窒素封入ラインが閉塞されたためでした。

その後、弁状態を復旧し、窒素封入が再開されました。

(次ページに続く)

出典：2019年8月29日 東京電力資料 「2号機 原子炉格納容器内窒素封入の停止について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/08/3-5-4.pdf>

2020年2月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第75回） 資料「1～3号機窒素封入設備他取替工事について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/02/3-5-3.pdf>

概要に戻る

2019年8月のトラブル

このときのトラブルは、2個の弁の表示が入替わっていて違う弁を閉じてしまったものです。

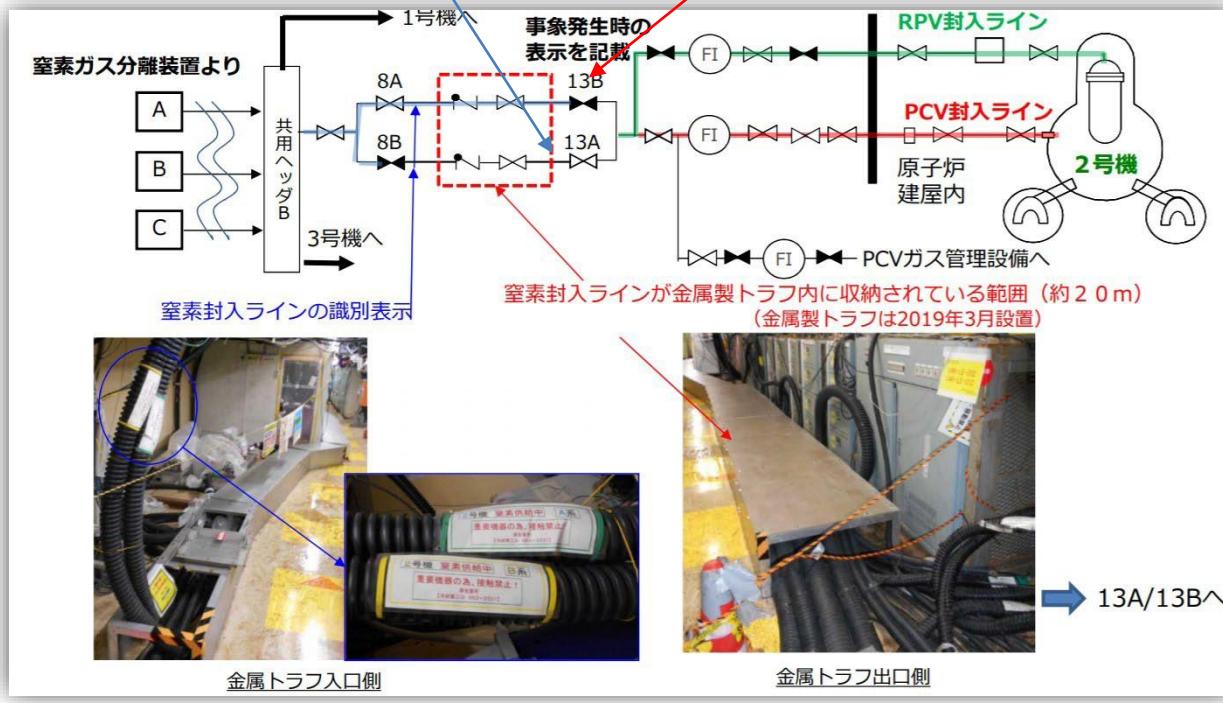
下図の下のラインの「13A」と表示された弁(本来は13B)を閉めようとしたが、上のラインの「13B」と表示されていた弁を閉めてしまったため、原子炉格納容器(PCV)内への窒素封入が停止してしまいました。

弁銘板の取付間違いの原因について、東京電力は、

取り付け時期が震災当初であり、ラインや弁の敷設状況が識別するには、高線量環境化で確認する時間が取れ難く、
ラインが輻輳している状況であったため、間違って取り付けた

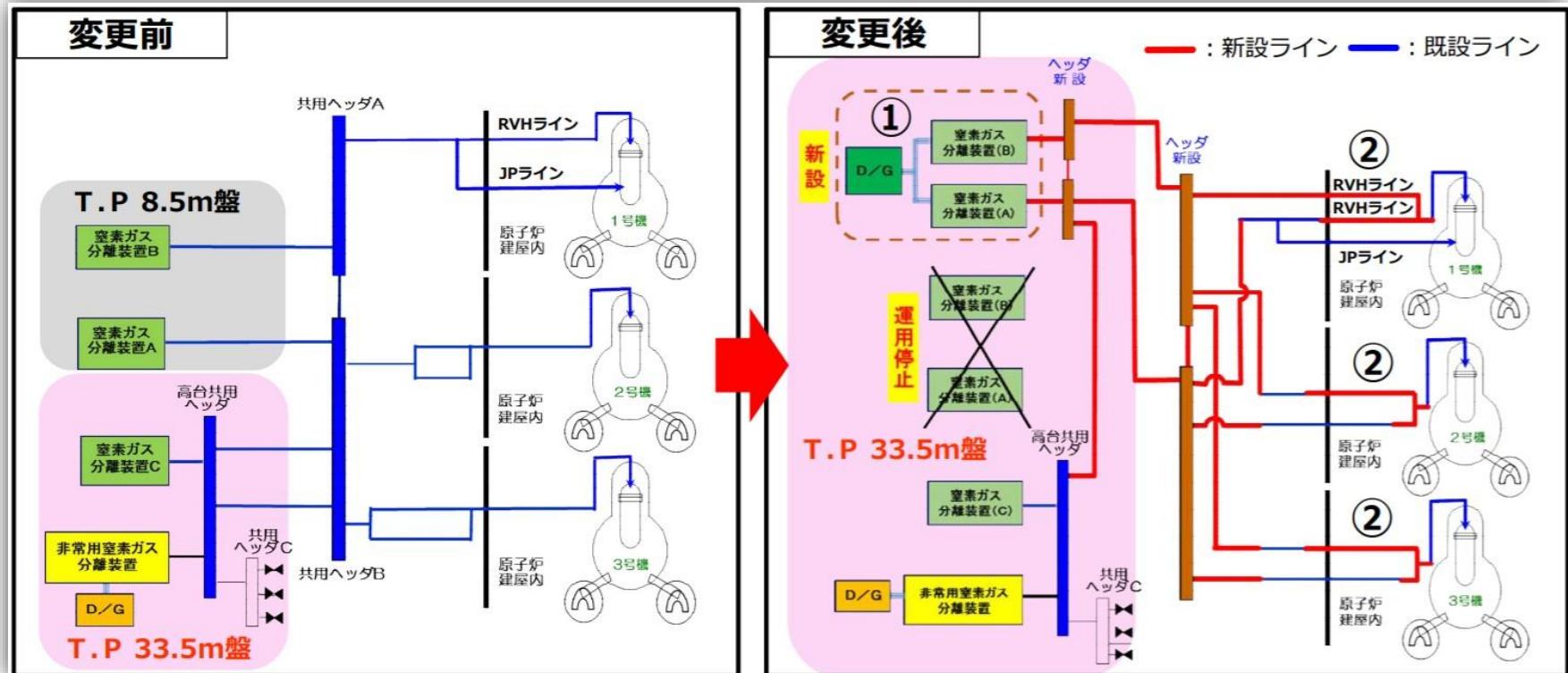
と推測しています。

(次ページに続く)



その後、当該弁13A/Bの弁銘板の間違いは修正されました。

東京電力は、2020年2月現在、原子炉圧力容器(RPV)窒素封入ラインは二重化され、既に実施されているT.P 33.5 m盤での窒素ガス分離装置A及びBの取替並びに専用ディーゼル発電機の新設、免震重要棟からの遠隔起動化と併せ、「現在、窒素封入設備は信頼性向上工事が完了し、安定運転を継続中」としています。



概要に戻る

(6) 窒素封入設備の通気試験に伴う、1号機の窒素封入量変更

東京電力は、2019年12月20日に予定し延期されていた、窒素封入設備の通気試験に伴う、1号機の窒素封入量変更については、以下のとおり実施したと発表しました。各ラインの概要は下図をご参照ください。

[1号機窒素封入量変更実績]

(試験開始 1月30日午前10時12分)

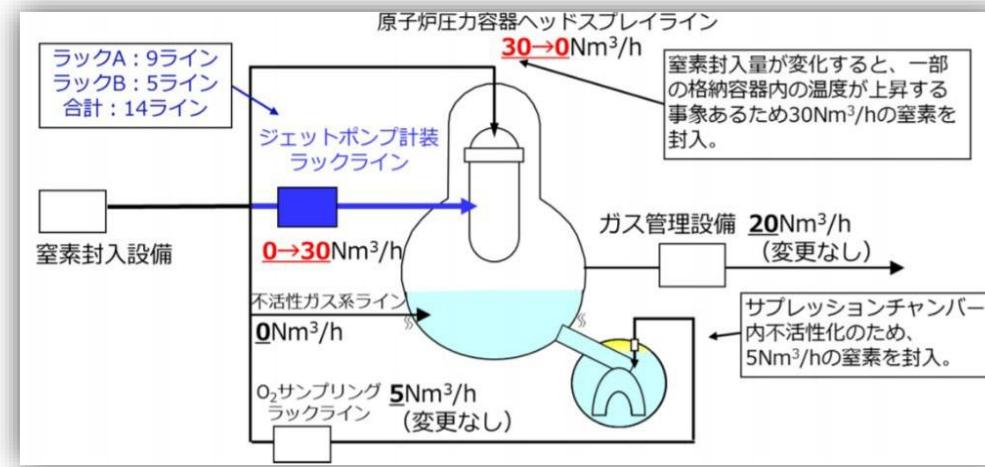
原子炉圧力容器ヘッダスプレイライン: $15 \text{ Nm}^3/\text{h} \rightarrow 30 \sim 15 \text{ Nm}^3/\text{h}$

ジェットポンプ計装ラックライン : $15 \text{ Nm}^3/\text{h} \rightarrow 0 \sim 15 \text{ Nm}^3/\text{h}$

(試験終了 1月30日午後1時50分)

原子炉圧力容器ヘッダスプレイライン: $30 \sim 15 \text{ Nm}^3/\text{h} \rightarrow 15 \text{ Nm}^3/\text{h}$

ジェットポンプ計装ラックライン : $0 \sim 15 \text{ Nm}^3/\text{h} \rightarrow 15 \text{ Nm}^3/\text{h}$



出典： 2020年1月30日 東京電力ホームページ「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」
http://www.tepco.co.jp/press/report/2020/1527975_8987.html

2017年5月25日 東京電力資料「循環注水冷却スケジュール」
http://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/roadmap_progress/pdf/2017/d170525_10-j.pdf

概要に戻る

(7) a 窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について

東京電力によると、窒素ガス分離装置B [参照](#) に関し、下記のようなLCO(実施計画に定められた運転上の制限)逸脱が生じたとのことです。(下線は筆者)

4月24日、窒素ガス分離装置の運転をB/CからA/Cへ切替を実施したところ、停止した窒素ガス分離装置Bについて、免震棟集中監視室の監視画面において③出口流量の指示値が減少しないことを確認した。その後の調査において、現場操作盤で警報(4月21日2:14発報)が発生していることを当直員が確認。また、その他の関連パラメータを確認したところ、4月21日以降窒素ガス分離装置Bの①窒素濃度及び③出口流量の指示値に通常の変動がなく一定となっていることを確認した。

当直長は、上記のことから、実施計画で要求される事項(「封入する窒素の濃度が99 %以上であることを毎日1回確認する」)を行うことができていなかったとし、4月24日13:40に「運転上の制限逸脱」を判断した。

なお、窒素ガス分離装置Bの窒素供給の停止を現場の③出口流量の指示値(0 Nm³/h)で確認、またA/C運転時のパラメータ(窒素濃度、出口流量等)に異常がないことを確認し、当直長は「運転上の制限逸脱からの復帰」を同時刻13:40に判断した。

4月21日以降、PCV(筆者注:原子炉格納容器)内の水素濃度等の監視パラメータに異常は確認されていない。

窒素ガス分離装置Bの状態について、東京電力は、窒素ガス分離装置B本体のパッケージ内部に黒色の粉が広範囲に飛散し堆積しており、この黒色の粉は、装置内の活性炭槽または吸着槽に充填していた活性炭が細粒化されサイレンサから排気されたもので(装置内の他の部分に漏えいの跡がない)、これが、パッケージ内部に設置しているコントローラに流入し、コントローラが故障したことで、「電源異常」の発報に至った可能性があるとしています。

そして今後の対応として、下記の事項を挙げています。

運転継続中の窒素ガス分離装置A／Cについて、以下のとおり監視強化を実施(4月24日より実施中)

(1) 現場運転状況確認

- ・現場巡回点検を1回以上／日にて実施
- ・運転状態、現場盤での警報発生の有無および、装置本体内部の異常の有無を確認

(2) 免震棟集中監視室パラメータ確認

- ・運転状況のパラメータのトレンドグラフを監視装置に常時表示し確認を実施
 - ・運転状況の傾向変化についても確認
- (表示させるトレンドグラフは、指示値の変動が確認できるように表示スパンを拡大化)

確認対象パラメータは、窒素封入圧力、窒素封入流量、窒素ガス発生装置出口流量および窒素/酸素濃度

設備

窒素ガス分離装置B

構外に搬出し、損傷原因の調査及び点検を行う予定。なお、復旧については、設備の状態を確認したうえで検討。

窒素ガス分離装置A

B号機と同一製品であり、同様な事象が発生する可能性も否定出来ないことから、応急対策を検討中(サイレンサの排気口の屋外化等)。また、運転中のA号機に異常は確認されていないが、C号機のみでも1～3号機の窒素封入量の十分な確保が可能であり、安定的に窒素供給できることから待機号機とする。

※C号機が停止した場合、速やかにA号機を起動する。PCV内の水素濃度の制限に到達するまで時間的余裕があり、PCVへの窒素封入機能に影響はない。

(次ページに続く)

出典： 2020年4月30日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第77回） 資料
「窒素ガス分離装置（B）指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/04/3-5-2.pdf>

概要に戻る

監視警報

現場警報が免震棟集中監視室に発報されなかつたことについては、免震棟集中監視室でも検知できるように見直しを検討中。

この運転上の制限逸脱事象で気になることは、4月21日に窒素ガス分離装置B現場操作盤で警報が発生しており、また4月21日以降、窒素ガス分離装置Bの①窒素濃度及び③出口流量の指示値に通常の変動がなく一定となっていたにもかかわらず、窒素ガス分離装置(B)またはそのコントローラの異常が認知されたのが4月24日だということです。

東京電力は、今後の対応において、警報の認知については「現場巡回点検を1回以上／日にして実施」とし、パラメータの異常の認知については、免震棟集中監視室において「運転状況のパラメータのトレンドグラフを監視装置に常時表示し確認を実施」としているわけですが、逆に言うと、これまで警報の発生やパラメータの状態が常時モニターされているわけではなかったということになります。

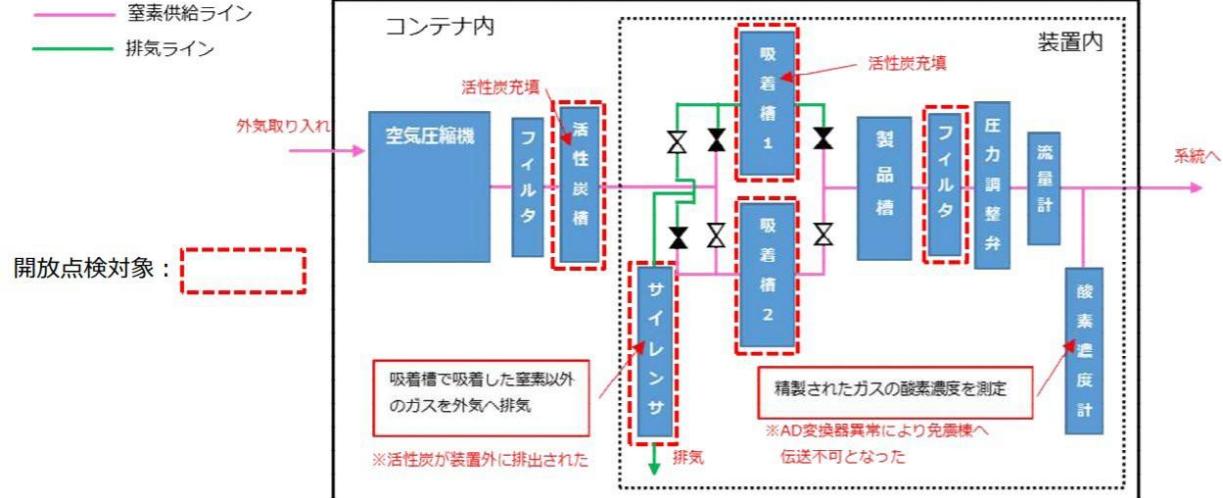
窒素ガス分離装置のT.P.33.5 m盤の高台へ移転、および分離装置A 及びBの取替えは2019年のことであり、このときに上記のような対応がとれなかつたものかと思われます。

(次ページに続く)

b 窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について(続報)

(窒素分離封入ライン)

※吸着槽1と2の切替運動(吸着⇒再生)により連続的に窒素供給を行う。



(次ページに続く)

(パラメータ伝送ライン)

当該警報が免震棟集中監視室に発報されない理由
窒素ガス分離装置の運転停止に関する警報について、免震棟集中監視室に伝送する設計としていた為、当該警報は免震棟集中監視室に伝送されなかった。



AC100V電源 :
DC24V電源 :
DC5V電源 :
信号出力(正) :
信号出力(誤) :

概要に戻る

出典 : 2020年5月28日 廃炉・汚染水対策チーム会議／事務局会議（第78回） 資料
「窒素ガス分離装置（B）指示不良に関する不具合の原因と対策について」

（窒素ガス分離装置（B）指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について（続報））」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/05/3-5-3.pdf>

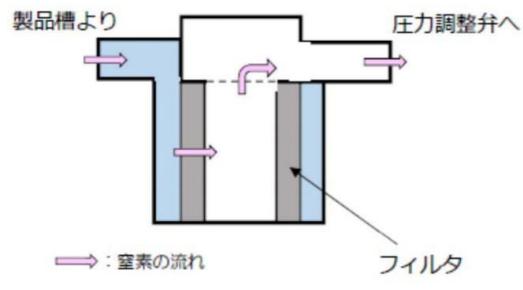
東京電力の発表による、4月21日～4月24日に窒素ガス分離装置(B)に関連して起きた現象は以下の通りです。

- 1、4月21日以降、窒素ガス分離装置(B) の①窒素濃度及び③出口流量の指示値に通常の変動がなく一定となっていた。
- 2、AD変換器の不具合発生と同時に「FX3U-4AD電源異常」警報が(4月21日2:14発報)が発生していた。
- 3、AD変換器のDC24V電源ランプが消灯していた。
- 4、窒素ガス分離装置(B)本体のパッケージ内部に黒色の粉が飛散し堆積していた。
- 5、装置内の流路を構成する配管・機器の継手部に漏えいの痕跡がなかった。
- 6、AD変換器内のヒューズが開放していた。
- 7、AD変換器上面のスリット部に黒色の粉が堆積されていた。
- 8、吸着槽1の活性炭が減少・細粒化していた。
- 9、出口フィルタの外側に活性炭が付着、内側には付着していなかった。

(次ページに続く)



出典：2020年5月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第78回） 資料
「窒素ガス分離装置（B）指示不良に関する不具合の原因と対策について
(窒素ガス分離装置（B）指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について（続報）)」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/05/3-5-3.pdf>



概要に戻る

そして以上の現象から、事象の原因を以下のように推定しています。

- ① 当該装置の吸着槽1内に充填されていた活性炭が細粒化し、吸着槽の下流側にある装置内のサイレンサから排出されて、当該装置内に活性炭が飛散した。
- ② 飛散した活性炭が当該装置内のAD変換器のスリットから内部に混入したことにより、回路が短絡したことでヒューズが開放し、回路への電源供給が絶たれたため、AD変換の機能が喪失した。AD変換器の不具合により、計器からの信号を変換・伝送できず、不具合発生時の信号がシーケンサに保持された状態となったため、免震棟集中監視室に伝送される指示値が一定になったと考えられる。
- ③ また、AD変換器の不具合による現場警報が免震棟に発報されない設計であったことから、当直員は機器の異常を検知することができなかった。

さらに、窒素分離封入ラインへの影響を以下のように推定しています。

- (1)確認された活性炭はフィルタにより捕集され、フィルタより下流には流入していないことから、窒素封入系統への影響はなかったと考えられる。
- (2)再現性試験において、装置内酸素濃度計の指示値「0.0%」(窒素濃度100.0%)が確認されたことから、不具合が確認された4月21日から24日の運転期間において、原子炉格納容器へ封入する窒素濃度は99%以上を満足していた状態であり、原子炉格納容器内の不活性雰囲気の維持機能は確保されていたと考えられる。

つまり、4月21日から24日までの間、窒素ガス分離装置(B)が機能を維持していたかどうかは、リアルタイムのパラメータがAD変換器の故障により実態を示さなくなってしまったパラメータを含んでいるため、事後の再現性試験による機能確認によって、「原子炉格納容器内の不活性雰囲気の維持機能は確保されていたと考えられる」と、間接的な推定しかできないようです。

[統報2に戻る](#)

出典：2020年5月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第78回） 資料

「窒素ガス分離装置（B）指示不良に関する不具合の原因と対策について
（窒素ガス分離装置（B）指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について（統報））」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/05/3-5-3.pdf>

[概要に戻る](#)

c 窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について (続報2)

2020年7月、東京電力は、これまでレポートしてきた不具合を生じた窒素ガス分離装置(B) 参照 について、下記の点検と対策を実施したことから、窒素ガス分離装置(B)の運転を7月13日再開したと発表しました。 (次ページに画像掲載)

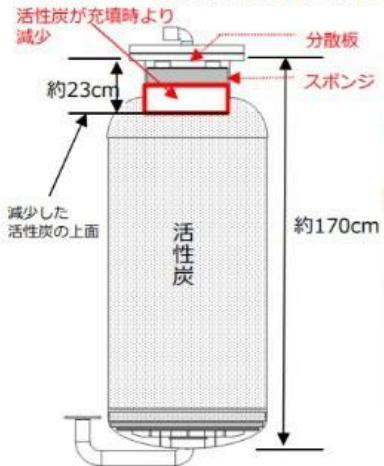
原因	対策	状況
吸着槽の活性炭流出	吸着槽1内に充填されていた活性炭が細粒化し、装置内のサイレンサから排出されて、当該装置内に活性炭が飛散した。	活性炭の細粒化が起きないよう吸着槽の緊密化を行う。 ⇒活性炭の充填高さが変わらなくなるまで、活性炭の充填高さの確認と補充を繰り返し実施する。
活性炭の混入による制御装置の不具合	飛散した活性炭が当該装置内の制御装置内部に混入したことにより、制御装置の機能が喪失した（回路短絡による電源供給喪失）。 ↓ 制御装置の不具合により、計器からの信号を変換・伝送できず、不具合発生時の信号が保持された状態となり、免震棟監視室に伝送される指示値が一定になった。	活性炭細粒化の可能性を完全には否定できないことから、サイレンサの排気を窒素ガス分離装置の外部に排出できるよう改造を行う。 (A号機についてもB号機と同一製品であることから同様な対策を実施する)
現場警報が免震棟に発報されなかつた	制御装置の不具合による現場警報が免震棟に発報されない設計であったことから、当直員は機器の異常を検知することができなかった。 (窒素ガス分離装置の警報のうち、運転停止に関わるものについて、免震棟集中監視室に伝送する設計としていた)	今回の事象を踏まえ窒素ガス分離装置の現場警報について、免震棟監視室に発報されるよう改造を行う。

• 不具合のあった制御装置について交換を実施。
 • 不具合が確認された制御装置以外について、異常は確認されていないが飛散した活性炭の影響が懸念されることから、点検や部品の交換等を実施済。

出典：2020年7月30日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第80回） 資料「窒素ガス分離装置（B）の運転再開について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/07/3-5-3.pdf>

概要に戻る

吸着槽 1 の活性炭の充填状況



試運転と追加充填を繰り返し、活性炭の充填状態の緊密化を実施



サイレンサの設置状況



窒素ガス分離装置

装置外部

サイレンサ



防護処置後



3

出典：2020年7月30日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第80回） 資料「窒素ガス分離装置（B）の運転再開について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/07/3-5-3.pdf>

概要に戻る

(8) a 2号機原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の実施について

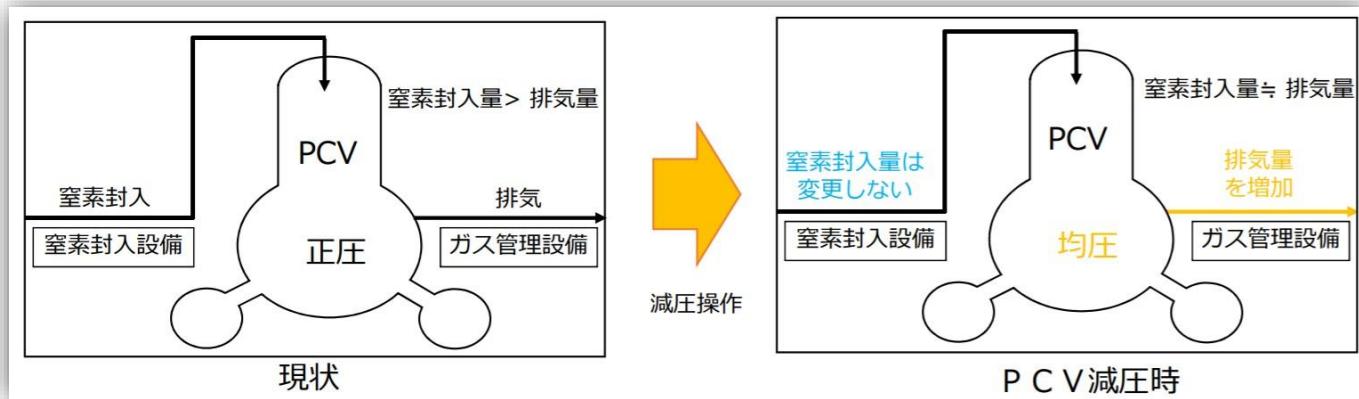
東京電力は2020年7月2日、2021年に予定している2号機での核燃料デブリの試験的取り出し(PCV内部調査)に向け、PCV外への放射性ダストの漏出抑制を目的として、PCVを減圧することを検討していることを発表しました。

東京電力は、イチエフの1～3号機原子炉において、PCV内の減圧により外部への放射性物質の放出リスクを低減させ、またPCV内部調査時におけるPCV内外の遮断(バウンダリ)開放作業等の作業性を向上させるために、2018年7月からの減圧試験を経て、12月1日より、PCVの設定圧力を大気圧+2 kPa程度を中心に、0 kPa～5.5 kPaを運用範囲として運用してきました。参照

ちなみに2020年7月1日の原子炉格納容器圧力は、1号機0.16 kPa g、2号機2.55 kPa g、3号機0.41 kPa gとなっています。

今回は、2020年7月6日～10日に、現状値から大気との均圧まで減圧することを目標として、既設ガス管理設備のフィルタを介した排気量を増加させることで、減圧機能の確認をするということです。

東京電力は、2012年以降、PCV圧力低下と共に一定期間水素濃度の上昇・下降がみられたこと、低気圧通過等によりPCVが負圧となった場合の酸素濃度の上昇評価、2018年度にPCV圧力の調整を約4.25 kPaから約2 kPaに変更した際は、水素濃度等の監視パラメータに有意な変動は確認されていないことなどに留意しつつ減圧計画を進めるようです。



出典：2020年7月2日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第79回） 資料「2号機 原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/06/3-3-4.pdf>

2020年7月2日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第79回） 資料「福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/06/1-1.pdf>

概要に戻る

b 2号機原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の結果について

2020年7月30日、東京電力は、2号機原子炉格納容器の減圧機能確認(前ページ参照)について、7/6～7/8に機能確認を実施し、7/9に復旧。減圧機能確認中、下表の監視パラメータに異常がないことを確認したと発表しました。

監視 パラメータ	監視頻度		監視目的	機能確認試験継続の判断基準
	通常時	監視 確認時		
窒素封入量	6時間	毎時	・ガス管理設備の運転状態変化に伴う、系統・機器の異常がないことを確認	・通常の変動範囲 ($\pm 1\text{Nm}^3/\text{h}$ 程度)であること (封入量の異常検知)
排気流量			・PCV圧力の過度な変動等が生じないことを確認	・通常の変動範囲 ($\pm 2\text{Nm}^3/\text{h}$ 程度)であること (排気流量の異常検知)
PCV圧力			・PCV圧力の過度な変動等が生じないことを確認	・ $\pm 5.5\text{kPa}$ であること
水素濃度※			・PCVの不活性状態維持 (可燃限界未満に抑えること)	・警報設定値 (0.6%)
酸素濃度			・PCVの不活性状態維持 (可燃限界未満に抑えること)	・3.5%以下であること
ダスト濃度			・PCV圧力の変化に伴う排気に有意な変動が生じないことを確認。	・警報設定値 ($2.0 \times 10^{-3}\text{Bq/cm}^3$)
大気圧	毎時		・PCV圧力変動の参考として監視。	・なし

※運転上の制限に関わる監視項目として、水素濃度(PCV内 2.5%未満、ガス管理設備出口を1%未満で管理)があり、減圧によるPCV内部状況の変化は小さく、影響は限定的と想定。

(9) 2号機新設原子炉圧力容器(RPV)窒素封入ライン通気確認について

東京電力は、2号機原子炉圧力容器窒素封入点は、単一構成となっているため、窒素封入ラインの信頼性向上としてRPV窒素封入ラインの追加設置を計画しています。

この計画に向けて、2020年8月31日～9月4日にかけて、窒素封入の通気性・保守性等を考慮した追加設置ラインの選定のため、新規封入点の候補となるライン(4ライン)の通気確認を行います。

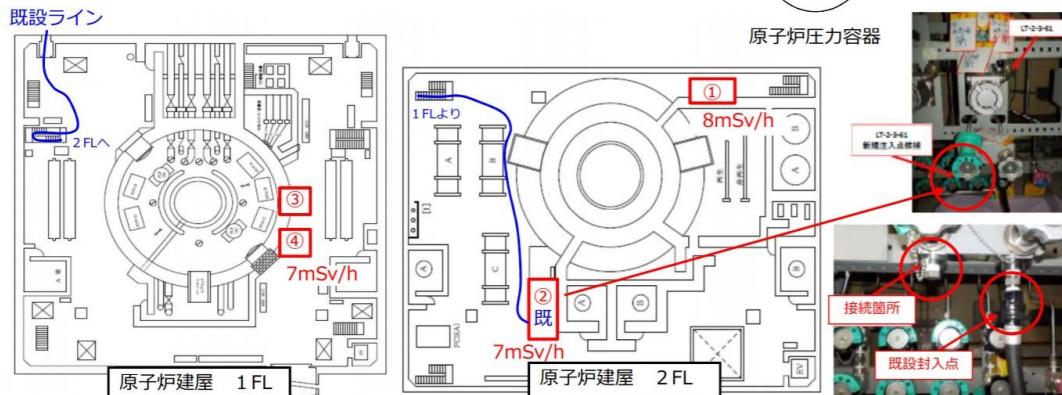
なお、通気確認は既設のRPV窒素封入量及び原子炉格納容器(PCV)ガス管理設備排気流量は変化させずに実施するそうです。

2. 調査対象（新規封入候補点配置図）

TEPCO

新規封入点RPVからPCVへの窒素の拡散性や作業性等を考慮して、右図の4箇所のノズルにつながる計装ラックを選定。これらについて、通気確認を行う。

- ① 原子炉計装ラック（原子炉水位計等）【N11B】
 - ② 原子炉計装ラック（原子炉水位計等）【N11A】
 - ③ 主蒸気計装ラック【N3D】
 - ④ ジェットポンプ計装ラック【N8B】
- ※既設 原子炉計装ラック（原子炉水位計等）



出典：2020年8月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第81回） 資料
「2号機新設RPV窒素封入ライン通気確認について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/08/3-5-3.pdf>

概要に戻る

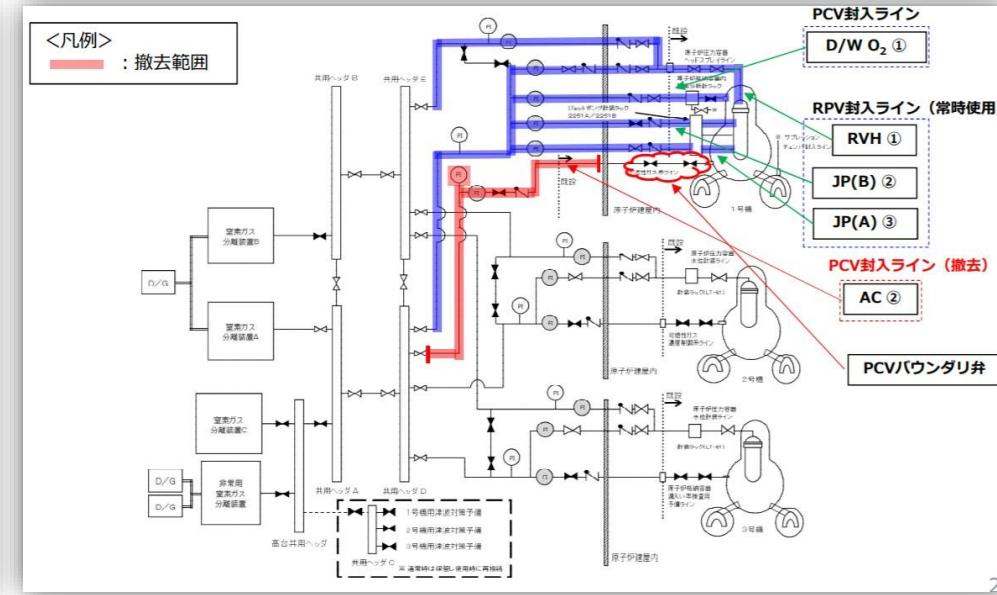
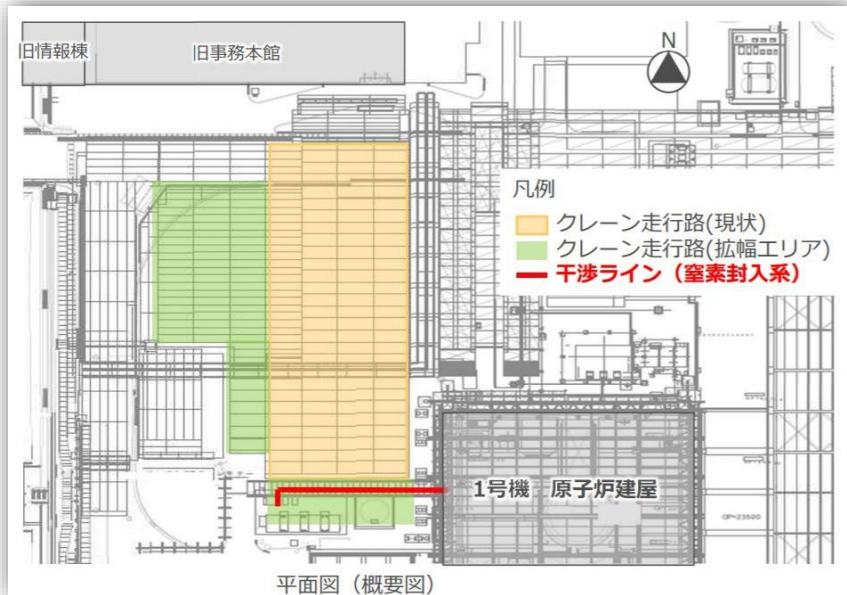
(10) 1号機原子炉格納容器窒素封入ライン(不活性ガス系)撤去について

1号機原子炉建屋は、現行ロードマップでは2027年に開始される予定の使用済み核燃料プールからの使用済み核燃料の取り出しについて、2019年12月、ダスト飛散対策の信頼性向上の観点から2023年中に大型建屋カバーを再設置する工法に変更しています。

東京電力は、大型カバー設置に向けて、使用する大型クレーンの走行路の拡幅(ヤード整備)を計画し、この拡幅の妨げになる1号機原子炉格納容器窒素封入ライン(不活性ガス系)を撤去する計画を発表しました(下左図参照)。今回撤去するのは、予備封入ラインの一つである不活性ガス系封入ライン(AC系)ですが、原子炉格納容器への窒素封入機能は、他のラインにより維持されます(下右図参照)。

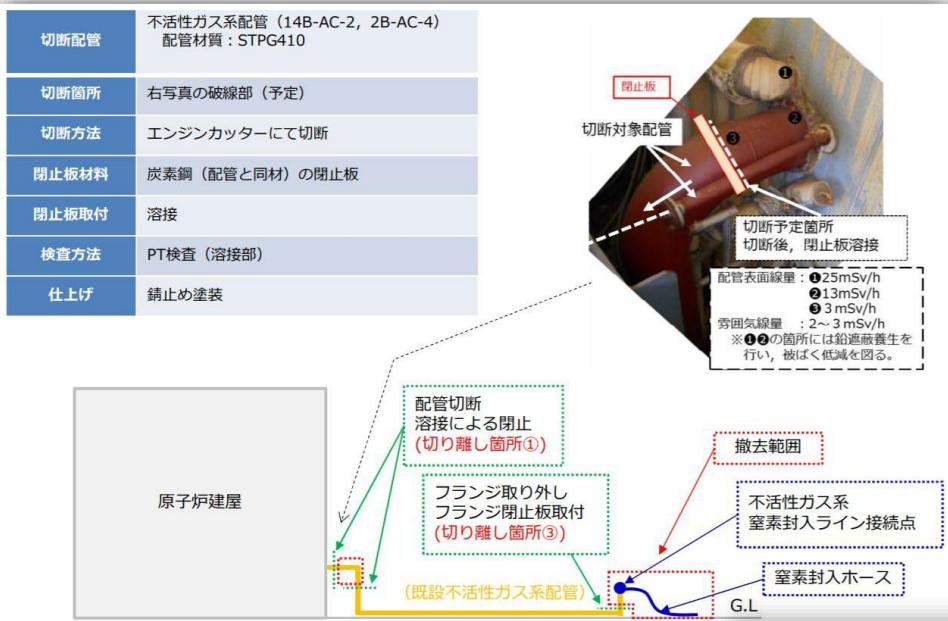
配管切断および閉止作業は準備も含め、2020年11月17日～27日に行われる計画です。

(次ページに続く)



出典：2020年11月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第84回）資料
 「福島第一原子力発電所1号機 原子炉格納容器窒素封入ライン（不活性ガス系）撤去について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/11/3-5-2.pdf>

概要に戻る



リスク	対応
弁のバウンダリ機能喪失 <ul style="list-style-type: none"> PCVからの逆流 (PCV圧力の低下) 水素の滞留 	配管内圧の確認 <ul style="list-style-type: none"> 撤去対象ラインの空きフランジに仮設圧力計を取り付け、配管内の圧力を確認した。N2封入時の圧力 (11.3kPa) が確認されたことから弁のバウンダリ機能は正常。PCVからの逆流はなく、配管内に水素の滞留はないと推定。 ※配管内圧確認時のPCV圧力：約0.10kPa 念のため、配管内圧開放後、配管切断前に小口径の穴を開けて水素濃度を測定してから切断作業を開始する。
ダストの拡散	配管内包気体の汚染確認 <ul style="list-style-type: none"> 配管内に残圧があることから、切り離し前に空きフランジにフィルタを取り付けた仮設ラインを設け、フィルタを通して圧抜きを実施する。また、フィルタの線量を測定し、汚染の有無を確認する。（合わせて水素濃度・PCV圧力の挙動も確認する）
	配管切断時ダスト拡散対策 <ul style="list-style-type: none"> 仮設ハウス及び局所排風機・フィルタを設置し、環境へのダスト拡散防止対策を実施する。

出典：2020年11月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第84回）資料
「福島第一原子力発電所1号機 原子炉格納容器窒素封入ライン（不活性ガス系）撤去について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/11/3-5-2.pdf>

概要に戻る

(11) 原子力格納容器ガス管理設備スケジュール

(更新)

機器名	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定												備考
		10月	11月	12月	2026年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
原子炉内ガス監視装置	<p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 【1号】ガラスリミングチャレンジの実施終了 ・期間: 2025/10/19～11/1（現時） (予定) <ul style="list-style-type: none"> 【1号】新規ガラスリミング実施予定日: 2025/11/12(土曜日) 		【1号】原子炉内ガス監視装置の定期点検 ・期間: 2025/10/25～11/1（現時）	【1号】フレッシュシールドへの定期点検 ・期間: 2025/11/1～11/10（現時）	定期点検 ・期間: 2025/11/1～11/10（現時）	【1号】射入試験・系統インスペクション ・期間: 2025/11/17～11/18（現時）								予定: 2025/11/17付で実行実施
POVM監視装置	<p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 【1号】POVM監視システム本体モニタ停止 ・期間: 2025/11/6 【1号】POVM監視システムモニタサンプリング ・期間: 2025/11/6～11/13 【2号】POVM監視システムモニタ停止 ・期間: 2025/11/13～11/14 【3号】POVM監視システムモニタ停止 ・期間: 2025/11/13～11/14 (予定) <ul style="list-style-type: none"> 【1号】POVM監視システムモニタ停止 ・期間: 2026/1/10 【1号】POVM監視システムモニタサンプリング ・期間: 2026/1/10～1/14 【1号】POVM監視システムモニタ停止 ・期間: 2026/1/14～1/15 		【1号】水素モニタ停止 ・期間: 2025/11/6～11/7	【1号】電力モニタ・水素モニタ停止 【2号】電力モニタ停止 【3号】電力モニタ停止 ・期間: 2025/11/7～11/8	【1号】電力モニタ停止 【2号】電力モニタ停止 【3号】電力モニタ停止 ・期間: 2025/11/8～11/9	【1号】水素モニタ停止 ・期間: 2025/11/13～11/14		【1号】水素モニタ停止 ・期間: 2026/1/10～1/11						

出典：2025年11月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第144回）資料「循環注水冷却スケジュール」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2025/11/11/3-5-1.pdf>

概要に戻る

8 東京電力が発表してきた原子炉の状態を表すデータの信頼性について(1)

3号機の温度計ケーブルに溶断が見つかっています。

2017年11月の「核燃料デブリの取り出し準備」レポート88・89ページでレポートしたとおり、3号機格納容器内部調査により、これまで3号機原子炉圧力容器底部の温度を測っていたとされていた温度計12本（このうち3本は「実施計画」において運転上の制限からの逸脱を監視するために用いられていた）のケーブルが溶断していたことが明らかになり、11月30日、東京電力はこれらの温度計を故障と判断し、原子力規制委員会にもその旨報告しました。

しかしこれらの温度計は11月まで故障とはされておらず、原子力規制委員会に11月に提出した温度計の信頼性評価の報告書においても、「監視に使用可」と評価されていました（下記出典3の9ページ、TE-2-3-69L1からL3の3本）。

また、東京電力のホームページ上の「プラント関連パラメータ（水位・圧力・温度など）」においても11月29日分までは、これらの温度計で測定したとされる温度が原子炉圧力容器底部の温度として公表されました。

出典： 1F-Watcher 「月例レポート 2017年11月燃料デブリの取り出し準備」
<https://1fwatcher.files.wordpress.com/2017/12/201711-05-debris4.pdf>

2017年11月30日東京電力資料

「福島第一原子力発電所3号機原子炉格納容器（PCV）内部調査における一部の原子炉圧力容器（RPV）温度計ケーブル欠損について」
http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2017/images2/handouts_171130_03-j.pdf

2017年12月1日東京電力 原子力規制委員会提出資料

「福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について（平成29年12月提出」
<http://www.tepco.co.jp/press/release/2017/pdf2/171201j0201.pdf>

2017年11月1日東京電力 原子力規制委員会提出資料

「福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について（平成29年11月提出」
<http://www.tepco.co.jp/press/release/2017/pdf2/171101j0201.pdf>

東京電力ホームページ「プラント関連パラメータ（水位・圧力・温度など）」
<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/pla/index-j.html>

概要に戻る

東京電力が発表してきた原子炉の状態を表すデータの信頼性について(2)

このことについて、12月18日の東京電力原子力定例記者会見において、木元原子力立地本部長代理は、目視できない原子炉内の温度計の健全性を確認する方法は、現在のところ、温度計に直流電気を流しその抵抗値を測定する(故障していれば抵抗値は無限大になる)方法しかないと、今回故障と判断した12本の温度計について12月13日に改めて測定したところでも、抵抗値は前回測定した値と同等の値を示していた。現在はこれらの温度計が示すデータが何を表しているかについてそれ以上の知見はないと語っています(出典の動画の26分過ぎから36分過ぎまで)。

原子炉の状態そのものについては、木元氏が語る通り、他の温度計・ガス管理システム等、他のパラメータから、冷温停止状態にあることは間違いないところではあると思われます。

しかし、これまで毎月、信頼性を確認したとし、公表してきたデータが、東京電力自身が今回故障していたと判断した温度計で測定したデータであったことは、東京電力が公表してきたデータの信頼性を損なうものです。

温度計のケーブルの溶断という事実と、それにもかかわらずデータが採れてしまっていることの機序を明らかにするとともに、温度計の信頼性を確認する方法を再検討し、データの信頼性を回復することが東京電力に求められます。

出典： 2017年12月18日原子力定例記者会見

https://live.nicovideo.jp/watch/lv309492085?ref=ser&zroute=search&track=nicolive_closed_keyword&date=&keyword=%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%9B%BB%E5%8A%9B+%E8%A8%98%E8%80%85%E4%BC%9A%E8%A6%8B&filter=+closed%20

概要に戻る

9 原子炉建屋から新たに放出された放射性物質量の評価についての考察

東京電力は、2018年10月25日、第59回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議において提出した下記出典資料
「廃炉・汚染水対策の概要」

の

4ページ「2. 原子炉建屋からの放射性物質の放出」

において、

1～4号機原子炉建屋から新たに放出される放射性物質による、敷地境界における空気中放射性物質濃度は、
Cs-134 約 1.4×10^{-11} ベクレル/cm³ 及び Cs-137 約 1.1×10^{-10} ベクレル/cm³と評価。放出された放射性物質による敷地境界上の被ばく線量は 0.0011 mSv/年未満と評価。(筆者注: 評価値は【放出量 = 放射性物質濃度 × 排気風量】を基本とする評価式に各種データ、パラメータを代入して計算した推定値)

と発表しました。

9月の敷地境界における空気中放射性物質濃度と敷地境界上の被ばく線量の評価値について、8月の評価値からの増加を見てみましょう。

(8月) → (9月)

Cs-134(単位ベクレル/cm³) $5.4 \times 10^{-12} \rightarrow 1.4 \times 10^{-11}$

Cs-137(単位ベクレル/cm³) $3.1 \times 10^{-11} \rightarrow 1.1 \times 10^{-10}$

被ばく線量 0.00045 mSv/年未満 → 0.0011 mSv/年未満

概要に戻る

そして、のことについて、

- ・2018年9月の評価上の放出量は、放出管理の目標値(筆者注:1 mSv/y)を十分下回ったが、前月と比較すると増加。
- ・これは2号機原子炉建屋オペフロ残置物撤去作業に伴い、オペフロ内の空気中放射性物質濃度が上昇したことで、**評価上の放出量が増加したもの**

と解説し、さらに

・(筆者注:評価のための式は)過小評価となることを避けるため、建屋内の空気中の放射性物質濃度ならびに排気風量に保守的な条件を仮定して評価していることから、実際の放出量は評価値より小さくなる。

・また、当該作業中の2号機原子炉建屋開口部近傍(西側構台)のダストモニタならびにモニタリングポストには有意な変動はなく、周辺への影響はない。

・今後、放出量評価を実際の値に近づけるため、建屋からの排気風量評価値を低減する対策として、10月中に原子炉建屋の開口部の一つである二重扉をシート養生し、開口部面積を低減する。

また、対策実施済の西側前室、ブローアウトパネルの隙間の開口部面積についても見直した上で評価を行う。

と説明を加えています。

なお、この記述は、同回の会議だけに提出された資料

「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2018年9月分(放出量評価の補足)」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/11/3-6-4.pdf>
をまとめたものようです。

ここでは、前ページでの東京電力の説明のうち、

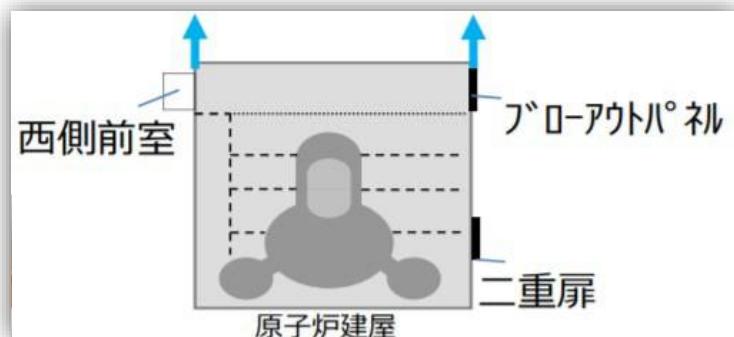
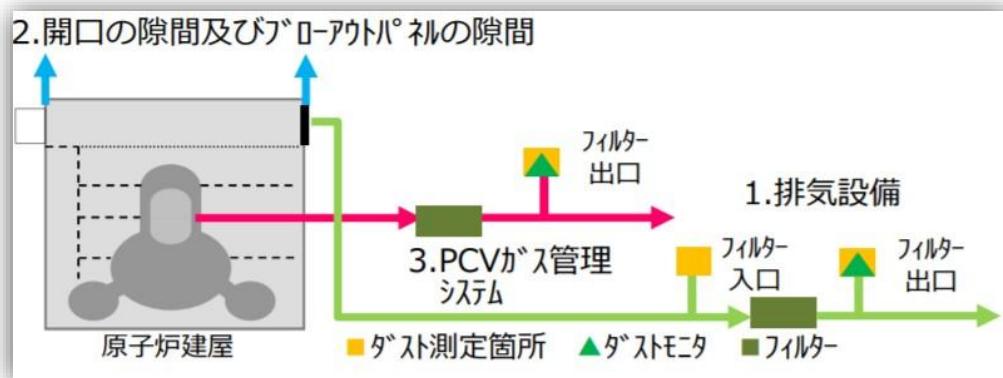
・(補注:評価のための式は)過小評価となることを避けるため、建屋内の空気中の放射性物質濃度ならびに排気風量に保守的な条件を仮定して評価していることから、実際の放出量は評価値より小さくなる。

・今後、放出量評価を実際の値に近づけるため、建屋からの排気風量評価値を低減する対策として、10月中に原子炉建屋の開口部の一つである二重扉をシート養生し、開口部面積を低減する。

また、対策実施済の西側前室、ブローアウトパネルの隙間の開口部面積についても見直した上で評価を行う。

という部分の、開口部面積を低減することによって評価放出量が減少するかどうかということについて、東京電力が発表した8~10月の2号機オペレーティングフロア作業時の放射性ダスト濃度と原子炉建屋の開口の隙間及びブローアウトパネルの隙間(下図参照⇒2019年1月17日に福島第一廃炉カンパニーの社員の方に確認したところ、下図のブルーの上向きの矢印は、左側が西側前室の開口の隙間からの放出を、右側が元のブローアウトパネル部からのフィルターを備えた排気設備への放出を示しているそうです)の評価放出量のデータを検討します。

まずこれらの数値をプロットした次ページのグラフをご覧ください。



原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2018年8月）

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/10/3-6-3.pdf>

原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2018年9月）

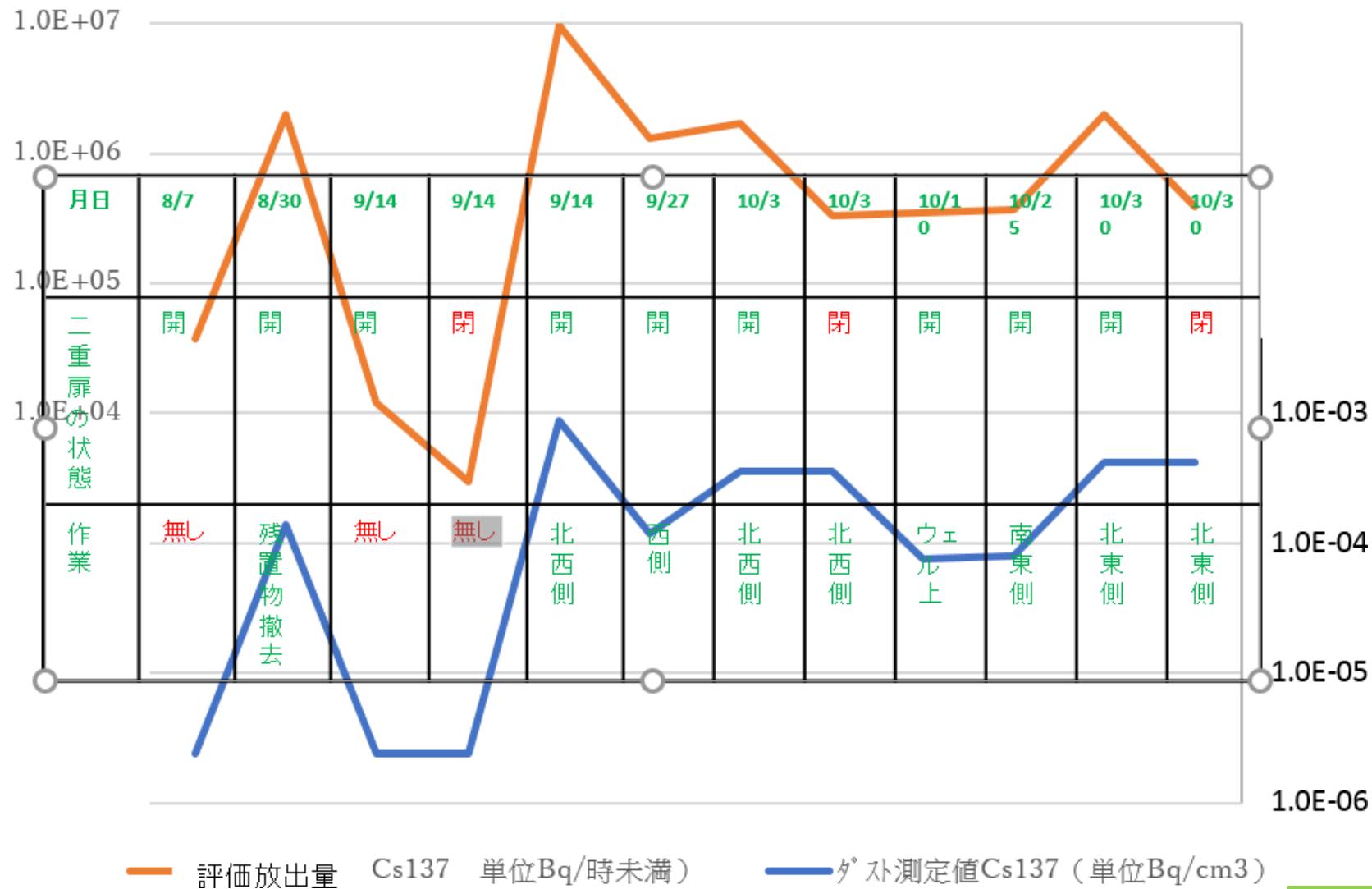
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/11/3-6-3.pdf>

1~4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2018年10月評価分（詳細データ）

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/12/3-6-3-2.pdf>

概要に戻る

ダスト測定値、パラメーターおよび評価放出量との関係



概要に戻る

グラフの青い折れ線は測定されたダスト濃度、オレンジ色の折れ線は評価放出量です。

重ね合わせた3段12列の表は上から、ダスト濃度が測定された日時、開口部である二重扉(前々ページの下右図をご覧ください)の開閉状態、オペレーティングフロア上での作業の有無です。

この問題では、

左から3列目(9/14、二重扉は開いている、作業はなかった)と4列目(9/14、**二重扉は閉じている**、作業はなかった)、7列目(10/3、二重扉は開いている、北西側作業)と8列目(10/3、**二重扉は閉じている**、北西側作業)、11列目(10/30、二重扉は開いている、北東側作業)と12列目(10/30、**二重扉は閉じている**、北東側作業)をご覧ください。

いずれも、測定されたダスト濃度は変わらないにもかかわらず、二重扉を閉めることで評価放出量は減少しています。前々ページに示した東京電力の説明、開口部面積を低減することによって評価放出量が減少するということは確かにそうです。

なお、2018年10月のレポート以来考察してきた、2号機オペレーティングフロア上での残置物撤去作業にともなう敷地境界における空気中放射性物質濃度と敷地境界上の被ばく線量の評価値の上昇についての、東京電力の「**評価上の放出量が増加した**」という表現の妥当性については、「使用済み核燃料プール対策レポート」で考察しています。

10 東京電力が発表したイチエフ内のインシデント・事故情報

(更新)

- 2025年11月01日 [建屋内RO設備における漏えい検知器作動](#)
- 2025年11月01日 [建屋内RO設備における漏えい検知器作動について\(続報\)](#)
- 2025年11月27日 [\(不適合の公表GⅡ以上\)燃料配達業務における軽油漏えい\(発見日11月21日\)](#)
- 2025年11月27日 [\(不適合の公表GⅡ以上\)協力企業棟でのコンセント部からの発煙\(発見日11月21日\)](#)

11 ① イチエフに関する報道 【廃炉作業】 (更新)

今月の中区分:2号機で試験的に取り出された核燃料デブリの分析/ ALPS処理水タンクの解体/未分類

< 2号機で試験的に取り出された核燃料デブリの分析 >

2025.11.07 福島民報 [デブリ初回収から1年 廃炉へ技術開発が鍵 採取1グラム未満、作業着手時期遅れ...](#)

[東京電力福島第1原発2号機](#)

(次ページからイチエフ事故の後始末 避難者・検証)

11 ② イチエフに関する報道 【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月中区分:避難者/検証・伝承・記録/ALPS処理済み汚染水の海洋放出とその社会的影響/旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事/未分類

<避難者>

-
- 2025.11.01 中國新聞 [東日本大震災で被災の子ども支援 福山でカレンダー原画展始まる](#)
 - 2025.11.12 北海道新聞 [福島原発事故、避難家族の記録 小樽で16日映画上映会](#)
 - 2025.11.21 福島民友新聞 [避難市町村15歳以下の健康診査、26年度で終了へ 福島県と福島医大](#)
-

<検証・伝承・記録>

-
- 2025.11.03 佐賀新聞 [震災の記憶、風化どう防ぐ 致遠館中で復興庁が出前授業 生徒約120人が福島の復興テーマに議論](#)
 - 2025.11.21 中國新聞 [福島の高校生、伝える「今」広島市中区で報告会](#)
 - 2025.11.26 山陰中央新報 [震災風化させぬ方策を議論 米子松蔭高で出前授業](#)
 - 2025.11.28 福島民報 [【復興検証 震災・原発事故15年】第1部 産業復興❶担い手問題 雇用要件高い壁に 被災地の現状に合わず](#)
-

(次ページにALPS処理済み汚染水の海洋放出とその社会的影響)

11 ② イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末 続き】 (更新)

今月中区分:避難者/検証・伝承・記録/ALPS処理済み汚染水の海洋放出とその社会的影響/旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事/未分類

< ALPS処理済み汚染水の海洋放出とその社会的影響 >

- 2025.11.07 共同通信 [日本産水産物の対中輸出再開 ホタテ出荷、青森ナマコも](#)
- 2025.11.19 共同通信 [中国、日本産水産物の輸入停止 高市首相の台湾発言に対抗か](#)
- 2025.11.20 南日本新聞 [中国の日本産水産物輸入手続き停止で波紋——鹿児島の農林畜産業関係者に戸惑いと落胆
「政治情勢に左右されたくない」](#)
- 2025.11.20 共同通信 [長崎県、韓国にマグロ売り込み 販路拡大目指し、解体ショーも](#)
- 2025.11.21 宮崎日日新聞 [水産物中国輸入停止 外交カード「またか」宮崎県内関係者 冷静受け止め](#)
- 2025.11.21 共同通信 [中国輸出、172社に影響も 水産関連、依存度は低減](#)
- 2025.11.21 共同通信 [中国輸出、172社に影響も 水産関連、依存度は低減](#)
- 2025.11.21 共同通信 [台湾、日本食品の規制撤廃 輸入時の証明書不要に](#)
-

(次ページから旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事)

11 ② イチエフに関する報道 【イチエフ事故の後始末 続き】 (更新)

今月中区分:避難者/検証・伝承・記録/ALPS処理済み汚染水の海洋放出とその社会的影響/旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事/未分類

<旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事>

(大熊町)

- 2025.11.01 福島民友新聞 [「キウイすくい」356人でギネス記録 大熊で歓声](#)
2025.11.02 福島民報 [フルーツを同時にスプーンですくう記録 356人成功、ギネス認定 福島県大熊町](#)
2025.11.14 共同通信 [環境相「復興加速に全力尽くす」福島大熊・双葉の町長と面会](#)
2025.11.15 福島民友新聞 [除染土壤の処分工程「より具体的に」大熊、双葉町長が石原宏高環境相に危機感示す](#)
2025.11.26 福島民友新聞 [帰還居住区域、年度内に追加申請へ 大熊町、希望する住民宅地](#)
2025.11.30 福島民報 [福島県大熊町の魅力、歩いて満喫 「フットパス」町内コース完成 誘客の呼び水に お披露目会で](#)

参加者交流

(双葉町)

- 2025.11.02 福島民報 [つのだ☆ひろさん×日フィル 12月6日コンサートで共演 「きぼうのとり」の歌披露 福島県の浅野撫糸双葉事業所](#)
2025.11.05 福島民友新聞 [宅地の立ち入り緩和 帰還居住区域・双葉の3行政区](#)
2025.11.05 福島民報 [【震災・原発事故14年】福島県双葉町・特定帰還居住区域の一部 初の住宅立ち入り緩和避難解除へ大きな前進](#)
2025.11.17 河北新報 [復興は七転び八起き 福島・双葉「だるまランド双葉」オープンへ](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ② イチエフに関する報道 【イチエフ事故の後始末 続き】 (更新)

今月中区分:避難者/検証・伝承・記録/ALPS処理済み汚染水の海洋放出とその社会的影響/旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事/未分類

<旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事 続き>

(双葉町 続き)

2025.11.05 福島民報 [双葉ダルマ復興の顔に「白河総本舗」福島県双葉町に施設整備へ 製造や販売、担い手育成](#)

(富岡町)

2025.11.10 福島民友新聞 [秋の伝統行事「富岡えびす講市」 広がる町民の交流の輪](#)

2025.11.02 福島民報 [富岡訪問、急きよ延期に 町と友好交流都市の中国・海塩県](#)

(浪江町)

2025.11.01 福島民報 [複合災害の記憶と教訓つないでいこう 福島県浪江町で復興ノウハウ講演会 語り部が紙芝居、披露](#)

2025.11.02 福島民報 [昭和の「花嫁行列」を再現 22日の十日市で披露 町民が準備進める 福島県浪江町](#)

2025.11.14 福島民報 [浪江で高級魚を陸上養殖、農水産物の複合施設整備へ 来秋操業開始目指](#)

2025.11.14 福島民報 [十日市祭で再び店頭に 自転車・玩具店三原さん夫妻 「風物詩盛り上げたい」 福島県浪江町](#)

2025.11.23 福島民友新聞 [浪江の十日市祭、新町通りに戻る 露店に活気、「せり市」も](#)

2025.11.23 福島民報 [15年ぶり 露店盛況 23日まで福島県浪江町「十日市」](#)

企画や出店、会場に笑顔 福島県浪江町で15年ぶり「十日市」 初の「せり市」にぎわう 水素まつり
も同時開催

概要に戻る

(次ページに南相馬市)

11 ② イチエフに関する報道 【イチエフ事故の後始末 続き】 (更新)

今月中区分:避難者/検証・伝承・記録/ALPS処理済み汚染水の海洋放出とその社会的影響/旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事/未分類

<旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事 続き>

(南相馬市)

- 2025.11.02 福島民報 [【震災・原発事故14年】8人全員で「卒業式」を 日下龍二郎さん\(24\) 福島県南相馬市小高区](#)
2025.11.11 福島民友新聞 [復興願い小高駅飾る、人知れず地道に活動 千葉の佐川さん、伊成さんに南相馬市が感謝状](#)
2025.11.11 福島民報 [SNS発信で地域の魅力発信 大阪出身の朝野建大さんが福島県南相馬市の起業型地域おこし協力隊に着任](#)
2025.11.11 福島民報 [幻想的な「小高のあかり」 冬のイルミネーション点灯始まる 福島県南相馬市、来年1月12日まで](#)

(飯舘村)

(川俣町)

(葛尾村)

(田村市)

(川内村)

- 2025.11.01 福島民報 [「うまわーる」開所 福島県川内村に村複合まちなか拠点が開所 貸しオフィスなど整備](#)
2025.11.01 福島民報 [【復興検証 震災・原発事故15年】第1部 産業復興❶ 止まった槌音 夢と消えた企業進出 希望から陰の象徴に](#)
2025.11.25 福島民報 [【復興検証 震災・原発事故15年】第1部 産業復興❷ 地域格差 消えゆく支援に焦り 避難解除時期で差](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ② イチエフに関する報道 【イチエフ事故の後始末 続き】 (更新)

今月中区分:避難者/検証・伝承・記録/ALPS処理済み汚染水の海洋放出とその社会的影響/旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事/未分類

<旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事 続き>

(川内村 続き)

2025.11.30 共同通信 [福島・川内村の自然、「クラフトジン」に凝縮 香りで世界へ、移住者が蒸留所オープン](#)

(楢葉町)

2025.11.13 共同通信 [東京デフ、14日に競技開始 福島・Jヴィレッジでサッカー](#)

(浜通り・相双地方)

2025.11.03 福島民報 [震災と原発事故からの再生、繁栄願う一筋の光 福島県相双地方10市町村で来年3月まで「光のモニュメント」](#)

2025.11.04 福島民報 [被災地の現状に理解 首都圏の中高生が福島県いわき市・双葉郡、訪問 浪江町の「請戸小」見学](#)

2025.11.11 福島民友新聞 [広野町長選告示、現職と新人一騎打ち 11月23日投開票](#)

2025.11.20 福島民報 [福島県の広野産バナナをビールに 都内で神田外語大生が仕込み式](#)

2025.11.24 福島民友新聞 [広野町長に新人・小松和真氏 321票差で現職破り初当選](#)

2025.11.26 共同通信 [福島・相馬市長引退へ 震災時からの首長2人に](#)

2025.11.29 福島民報 [経験豊かな看護職、活躍推進へ 福島県南相馬市でプラチナナース研修会を初開催](#)

2025.11.30 福島民報 [自転車で復興の風体感 相双地方の景色や食楽しむ 福島県の富岡、双葉、浪江各町走るイベント](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ② イチエフに関する報道 【イチエフ事故の後始末 了】 (更新)

今月中区分:避難者/検証・伝承・記録/ALPS処理済み汚染水の海洋放出とその社会的影響/旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事/未分類

<旧・現避難指示区域・浜通り・相双地方の出来事 続き>

2025.11.30 福島民報 [台湾のインフルエンサー、観光と食堪能 福島県が招き浜通りツアー SNSで旅の様子を発信](#)

<未分類>

- 2025.11.01 共同通信 [原子力災害想定の訓練実施、福島 4県病院も初参加、連携を確認](#)
- 2025.11.05 共同通信 [宮城・南三陸町長が退任 自身も被災、14年復興尽力](#)
- 2025.11.07 福島民報 [台湾の高校生と国際交流 福島県郡山市のあさか開成高 茶道や会話で親睦深める](#)
- 2025.11.10 福島民友新聞 [会津身不知柿、台湾に初輸出 会津美里で発送式、ブランド化推進へ](#)
- 2025.11.11 福島民友新聞 [内堀雅雄福島県知事、4期目明言せず 任期残り1年](#)
- 2025.11.07 福島民報 [若き削蹄師、光る情熱 福島県内 国内トップ級の人材続々 古里の畜産・酪農支える](#)
- 2025.11.21 福島民報 [福島や三陸の水産物のおいしさをアピール 東京・新橋でフェア](#)
- 2025.11.21 共同通信 [韓国、水産物輸入規制を維持方針 日本8県巡り海洋水産相](#)
- 2025.11.21 共同通信 [高市首相、被災地を相次ぎ訪問へ 12月、福島・能登支援アピール](#)
- 2025.11.27 福島民友新聞 [輪島・能登の復興後押し、福島で観光特産展 12月5~7日、福島商工会議所主催](#)
- 2025.11.28 福島民報 [5日から輪島物産展 福島市のコラッセ 福島商議所が“恩返し”開催](#)

概要に戻る

(次ページから原子力発電、核施設をめぐる動き)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<原子力発電のバックエンド>

(使用済み核燃料の最終処分)

- 2025.11.10 中國新聞 [益田の核ごみ文献調査断念 佐賀県玄海町長「知事や市長が審議拒んだ」](#)
- 2025.11.11 新潟日報 [核のごみ最終処分場選定「国が適地示して」…柏崎市の桜井雅浩市長、全国原子力発電所所在市町村協議会で訴え](#)
- 2025.11.11 中國新聞 [益田の核ごみ文献調査断念 島根県知事、審議拒否は「事実誤認」](#)
- 2025.11.17 共同通信 [「核のごみ」調査、自治体増えず 開始5年、見えない最終処分](#)

(核燃料(ハーフ)サイクル)

- 2025.11.14 共同通信 [原燃、説明終了時期示さず 再処理工場の規制委審査で](#)
- 2025.11.17 福井新聞 [高浜原発にMOX燃料32体を搬入、2022年以来 フランスから輸送船到着、関西電力発表](#)
- 2025.11.19 南日本新聞 [回らない核燃料サイクルを受け入れ40年…青森県六ヶ所村の再処理工場いまだ稼働せず 完成延期27回繰り返す](#)

(地上保管)

- 2025.11.01 南日本新聞 [【川内原発に乾式貯蔵施設を新設】「使用済み核燃料の最終処分場化する」との地元不安に九電社長「青森へ搬出する。方針ぶれてない」](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) /原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<原子力発電のバックエンド 続き>

(地上保管 続き)

2025.11.01 南日本新聞 「使用済み核燃料の最終処分場になるのでは…」川内原発に乾式貯蔵施設を整備 地元の市民団体が不同意を鹿児島県に要請

2025.11.21 南日本新聞 【川内原発に乾式貯蔵施設」「ここを(使用済み核燃料の)最終処分地にすることはない」九電幹部が地元で説明 薩摩川内市議会特別委が参考人招致

"2025.11.25 南日本新聞 「核のごみ捨て場になる可能性高い」——市民団体「川内原発の乾式貯蔵を考える会」が計画撤回を訴えアンケート始める 2025/11/25 11:28川内原子力発電所 薩摩川内市 川内原発の乾式貯蔵を考える会 向原祥隆"

<原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置>

2025.11.06 中國新聞 鳥取県と2市、中電に要請 原発30キロ圏は立地並み財源を

2025.11.10 中國新聞 島根原発巡り新財源 鳥取県側に中国電力 核燃料税相当分

概要に戻る

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)>

- 2025.11.01 共同通信 [県民合意ない再稼働認めず 柏崎原発で立民新潟が声明](#)
- 2025.11.01 新潟日報 [\[柏崎刈羽原発再稼働問題\]立憲民主党新潟県連が声明 県民合意を得ないままの再稼働は認められない](#)
- 2025.11.01 新潟日報 [“【柏崎原発再稼働どう思いますか?】豪雪地じゃないが「避難は簡単にいかない」、東電の資金拠出「本当に出し続けてくれるの」<見附市>ネーブルみつけ、商店街で聞きました”](#)
- 2025.11.02 新潟日報 [柏崎刈羽原発の津波確率検証へ、東電が検討チーム設置 「1万~10万年に1回」は妥当? 反省踏まえ、リスクを評価](#)
- 2025.11.02 共同通信 [柏崎刈羽原発の津波確率検証へ 東電、有識者チーム設置](#)
- 2025.11.02 新潟日報 [柏崎刈羽原発5号機「緊急時対策所」、伝送装置の一部が停止 6、7号機で「運転上の制限」逸脱](#)
- 2025.11.03 北海道新聞 [福島の事故を忘れたのかー「泊原発を再稼働」に批判噴出 北海道主催、札幌で住民説明会](#)
- 2025.11.04 新潟日報 ["原発から離れていても...「人ごとでない」福島県境の阿賀町で聞く 避難計画、風評被害など課題挙げ原子力深考「調査シリーズ」"](#)
- 2025.11.04 新潟日報 [""原発の隣"の地域はどんな思い?入り交じる期待と不安...出雲崎町で聞く「原発の存在大きい」原子力深考「調査シリーズ」"](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

＜柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き＞

- 2025.11.04 新潟日報 [新潟商工会議所の廣田幹人新会頭が就任 原発再稼働「日本の課題」](#)
- 2025.11.05 新潟日報 ["【柏崎原発再稼働どう思いますか?】事故、避難「リスク大きい」、根強い東電への不信感くもあ特会員> L I N Eで聞きました"](#)
- 2025.11.05 共同通信 [新潟知事、再稼働に近く考え方示す 柏崎刈羽原発巡り](#)
- 2025.11.05 "新潟日報 ["【柏崎原発再稼働どう思いますか?】「再生可能エネルギー普及までのつなぎ」「廃炉ビジネス育てて」...電力消費地と“最も近い”町の声は?<湯沢町>苗場エリア、JR越後湯沢駅周辺などで聞きました](#)
- 2025.11.06 新潟日報 ["【柏崎原発再稼働どう思いますか?】「動かさないでおくのは」「同じ新潟県でも…」原発までの距離で関心に差<魚沼市>道の駅いりひろせ、商店街で聞いた"](#)
- 2025.11.06 新潟日報 [【柏崎刈羽原発】刈羽村除く8市町の住民、半数超が「再稼働条件整わず」...30キロ圏内市町村「県民意識調査」結果公表](#)
- 2025.11.07 新潟日報 [【"【柏崎原発再稼働どう思いますか?】送電線が縦断、事故時にはリゾートが重要な拠点に…「恩恵」受けるのは誰なのか<十日町市>瀬替えの郷せんだ、水沢地区などで聞いた"](#)
- 2025.11.08 新潟日報 [【独自】柏崎刈羽原発再稼働巡る県民意思、花角英世知事「県議会で確認」か 11月下旬にも是非の判断表明](#)
- 2025.11.09 新潟日報 ["【柏崎原発再稼働どう思いますか?】全国有数の豪雪地帯、避難を不安視する人も…東電の資金拠出方針には「直接的な恩恵ない」<津南町>長野との県境の町、商店街で聞いた"](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き>

- 2025.11.09 共同通信 [柏崎刈羽原発の避難訓練を視察 新潟知事「スムーズだった」](#)
- 2025.11.09 新潟日報 [柏崎刈羽原発で事故想定、住民約300人参加の避難訓練 要支援者への対応、混雑の緩和策は…避難の課題探る](#)
- 2025.11.10 新潟日報 [木原官房長官、柏崎刈羽原発再稼働は「安全性と地元理解が大前提」県民意識調査の結果受け](#)
- 2025.11.10 共同通信 [新潟県知事、14日に原発視察 柏崎刈羽の再稼働、月内判断か](#)
- 2025.11.10 新潟日報 [“花角英世知事、11月14日に柏崎刈羽原発視察 県が正式発表12日に地元首長と3者会談”](#)
- 2025.11.10 新潟日報 [“【柏崎刈羽原発再稼働問題】花角英世知事の「信を問う」発言を巡り市民団体が決議11月25日に「人間の鎖」で県庁包囲”](#)
- 2025.11.10 新潟日報 [\[原子力防災訓練\]初の要支援者広域避難、柏崎一村上に130キロ移動…体調急変への対応課題](#)
- 2025.11.11 新潟日報 [“【柏崎原発再稼働どう思いますか？】生活の中に原発がある村…「稼働したら経済回る」「県民投票で意思示したかった」<刈羽村>大型商業施設で買い物客に聞いた”](#)
- 2025.11.11 共同通信 [柏崎原発の再稼働、月内にも判断 新潟知事、是非検討大詰め](#)
- 2025.11.11 新潟日報 [【柏崎刈羽原発30キロ圏住民、再稼働「条件整わず」61%・追加調査の結果公表 全県と同様の傾向](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類類

＜柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き＞

2025.11.12 新潟日報 [【独自】電力消費地、東京都議会の自民党が来県し自民県議団と意見交換へ 柏崎刈羽原発再稼働をどう考えているのか？](#)

2025.11.12 新潟日報 [柏崎刈羽原発テロ対策の東電第三者委が会合、住民向け広報活動「改善の余地ある」](#)

2025.11.12 新潟日報 [【柏崎原発再稼働どう思いますか？】「原発にも天災、テロはあり得る」…中越地震で被災した住民が抱く不安とは](#)く小千谷市>本町商店街、防災公園で聞いた”

2025.11.12 共同通信 [新潟知事、福島第1視察へ 柏崎刈羽原発再稼働巡り](#)

2025.11.12 新潟日報 [【柏崎刈羽原発再稼働問題】花角英世知事、福島第1原発視察の意向「起きたことを整理したい」](#)

2025.11.12 新潟日報 [【柏崎刈羽原発再稼働問題】花角英世知事、地元首長と3者会談 地元の考え方「判断へ頭にとどめる」柏崎市長「早期判断を」刈羽村長「口挟まない」](#)

2025.11.13 新潟日報 [【独自】原発再稼働判断は「時期尚早」 長岡市の磯田市長、14日に花角知事に伝える意向](#)

2025.11.13 新潟日報 [柏崎刈羽原発の事故想定、柏崎市が「屋内退避」独自訓練 初の物資配布訓練も](#)

2025.11.13 共同通信 [柏崎刈羽原発の再稼働に反対6割 新潟の市民団体調査、県民投票を](#)

2025.11.14 新潟日報 [再稼働の判断時期、小千谷・見附・燕3市長は知事の考え方尊重 14日の知事会合控え取材に回答](#)

2025.11.14 新潟日報 [柏崎刈羽原発の伝送装置停止、電源装置の故障が原因か 東電が発表](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類類

＜柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き＞

- 2025.11.14 共同通信 [新潟知事、柏崎原発を視察 再稼働判断へ安全対策確認](#)
- 2025.11.14 新潟日報 [柏崎刈羽原発の再稼働「反対」県民投票「実施を」とともに6割、市民団体が独自の意識調査](#)
- 2025.11.14 新潟日報 [“【柏崎刈羽原発・県民意識調査】結果は“総意”となり得るのか？識者に聞く「読み解き方」東京電機大・寿楽浩太教授”](#)
- 2025.11.14 共同通信 [柏崎刈羽原発再稼働、最終検討へ 新潟県知事視察「肌で感じ判断」](#)
- 2025.11.15 新潟日報 [柏崎刈羽原発再稼働の是非判断へ最終局面…花角英世知事、7年ぶり原発視察／UPZの7市町長と意見交換](#)
- 2025.11.15 新潟日報 [“【柏崎原発再稼働どう思いますか？】「不安だけど電力供給にも困る」「子はここにずっと住まなくていいと思う」…子育て世代の2025.11.15 新潟日報 複雑な思いく出雲崎町>「子は宝」多世代交流館きらり、JR出雲崎駅で聞いた”](#)
- 2025.11.16 新潟日報 [“【柏崎原発再稼働どう思いますか？】能登半島地震で津波被害の地、「対策をしても、絶対の安全はない」<上越市>道の駅よしかわ杜氏の郷、直江津地区で聞いた”](#)
- 2025.11.17 新潟日報 [“【柏崎原発再稼働どう思いますか？】立地自治体の住民は…「動かさなければ未来ない」「生活に直接関わる」<柏崎市>避難訓練の参加者に聞いた”](#)
- 2025.11.17 新潟日報 [“【経産省資源エネルギー・村瀬長官インタビュー「リーダーの判断待つ」 原発再稼働、県民意識調査は「評価控える」”](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

＜柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き＞

2025.11.18 新潟日報 [“【独自】再稼働巡る県民意思、新潟市の中原市長「県議会で確認を」 19日にも花角知事に要望自民県議団、経団連会長は相次いで原発視察へ”](#)

2025.11.18 共同通信 [“【新潟知事、福島第1を視察 柏崎刈羽原発再稼働巡り”](#)

2025.11.18 新潟日報 [柏崎刈羽原発事故時の避難、使用済み核燃料の扱い…議論交わす 「地域の会」情報共有会議を詳報](#)

2025.11.18 新潟日報 [“【柏崎原発再稼働どう思いますか?】「人間のやることに絶対はない」「再稼働にゆれ動いている」…妙高山の麓で暮らす人々の考えは<妙高市>妙高高原地区、道の駅あらいで聞いた”](#)

2025.11.18 新潟日報 [原発再稼働巡る知事要望中止を、新潟市議会3会派が市長に要求 「県民の意思確認は県議会で」要望見通し受け](#)

2025.11.18 新潟日報 [花角英世知事、福島第1原発を初視察 柏崎刈羽原発再稼働是非の判断前に状況確認](#)

2025.11.19 新潟日報 [【独自】柏崎刈羽原発再稼働、花角知事が容認か 21日にも公表見通し、県議会で議決の可能性](#)

2025.11.19 新潟日報 [【柏崎刈羽原発・県民意識調査】長岡市が独自分析、再稼働に否定的な傾向やや強め 東電へ不信感根強く](#)

2025.11.19 新潟日報 [柏崎刈羽原発再稼働、新潟県関係の国会議員7割反対 与野党で違い浮き彫り\[新潟日報社アンケート\]](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

＜柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き＞

- 2025.11.19 共同通信 [【独自】柏崎原発の再稼働、容認する方向 新潟の花角知事、21日にも公表](#)
- 2025.11.19 新潟日報 [“【柏崎原発再稼働どう思いますか?】大火から復興、県最西端の街…「汚染が怖い」「本当に安全か見届けないと」く糸魚川市道の駅「親不知ピアパーク」、JR糸魚川駅前で聞いた”](#)
- 2025.11.19 共同通信 [柏崎刈羽原発、再稼働容認へ 新潟知事21日にも表明](#)
- 2025.11.19 新潟日報 [福島第1原発視察の花角英世知事「事故の影響実感」 柏崎刈羽原発再稼働の判断時期は「近く結論」](#)
- 2025.11.19 新潟日報 [【柏崎刈羽原発再稼働問題】柏崎市の桜井市長「6号機再稼働に理解」 経産相と面会、容認する考え方表明](#)
- 2025.11.20 新潟日報 [“柏崎刈羽原発再稼働、県議53人の考えは? \[新潟日報社アンケート\]「県民投票」「県会の同意」…与野党で意見割れる”](#)
- 2025.11.20 新潟日報 [“柏崎刈羽原発でまたテロ対策不備、秘密文書を不適切コピー・原子力規制委発表 組織的な問題ではないと東電【記事を更新しました】”](#)
- 2025.11.20 共同通信 [東電柏崎原発、またテロ対策不備 東北電東通では不正に記録](#)
- 2025.11.20 共同通信 [再稼働同意手続き、年内完了へ 柏崎原発巡り、新潟知事意向](#)
- 2025.11.20 新潟日報 [柏崎刈羽原発再稼働問題】都議会自民党、小池百合子都知事の視察働きかけへ 自民新潟県連と意見交換](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き>

2025.11.20 新潟日報 [柏崎刈羽原発再稼働を容認へ…花角英世知事がきょうにも表明 県議会の議論経て国に回答伝達の見通し](#)

2025.11.20 新潟日報 [“柏崎刈羽原発再稼働、新潟県内全30市町村長は肯定的?否定的?【新潟日報社アンケート】「県民意識調査」と認識のずれも”](#)

2025.11.20 新潟日報 [【柏崎刈羽原発テロ対策不備】再稼働の“最終局面”で不祥事露見…東電の組織文化を疑問視「なぜそこでつまづくのか」](#)

2025.11.21 共同通信 [【柏崎刈羽原発再稼働容認へ 新潟知事、午後に表明](#)

2025.11.21 共同通信 [柏崎刈羽、年度内に運転再開か 新潟知事が原発容認を表明](#)

2025.11.21 新潟日報 [【再稼働問題テキスト速報】柏崎刈羽原発の今後は?新潟県の花角知事は会見で何を語った?
【報道陣への配布資料公開】](#)

2025.11.21 新潟日報 [東京電力柏崎刈羽原発の再稼働容認に当たり、花角英世知事が21日の記者会見で発表した文書の全文は次の通り](#)

2025.11.21 新潟日報 [解説】県議会に諮る手法に疑問、花角英世知事は県民に直接説明を【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)

2025.11.21 共同通信 [被災者「福島の事故忘れたのか」 柏崎刈羽原発、再稼働容認に憤り](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き>

- 2025.11.21 新潟日報 [県内各党「慎重な対応を評価」「信を問うなら県民に」…次期知事選で争点化との見方強く【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)
- 2025.11.21 共同通信 [知事「丁寧に多くの声聞いた」厳しい声も](#)
- 2025.11.21 中日新聞 [「事故を起こした東電がまた将来の被害者を生もうと」中部地方に避難の被災者ら](#)
- 2025.11.21 新潟日報 [「首都圏に電力供給、なぜ新潟が」「県議会で判断、あるべき姿」…県民の思いは【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)
- 2025.11.22 新潟日報 [知事選で「信を問う」なぜ回避?決断の裏側に迫る…水面下では自民と調整【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)
- 2025.11.22 福島民報 [二の舞にならないで 柏崎刈羽再稼働へ 福島の経験風化懸念 県民、安全性に厳しい目](#)
- 2025.11.22 新潟日報 [県民投票求めた僧侶「最悪の形になった」結論に失望感「知事選という選択肢もあったはず」【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)
- 2025.11.22 新潟日報 [花角知事の判断、県内経済界の受け止めは?地域活性へ期待感…安全対策に注文も【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)
- 2025.11.22 新潟日報 [立憲民主・西村智奈美氏、直接県民に信を問うべきと主張【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)
- 2025.11.22 新潟日報 [自民党の小林鷹之政調会長、柏崎刈羽原発の再稼働「安定供給を考えれば極めて重要」](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

＜柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き＞

2025.11.22 新潟日報 [3選出馬の見方強く、「逃げることはしない」花角知事に県民の審判は…【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)

2025.11.22 新潟日報 [大雪と地震で交通マヒの記憶…机上の避難計画に不安と課題は積もるばかり 柏崎刈羽原発再稼働容認に地元は](#)

2025.11.24 新潟日報 [柏崎市議会、東京電力柏崎刈羽原発誘致に関する議事録をウェブ公開 議論経過を幅広く発信する狙い](#)

2025.11.24 共同通信 [公明、地元了解なら再稼働容認 柏崎原発、代表表明](#)

2025.11.24 新潟日報 [公明党齊藤鉄夫代表が柏崎刈羽原発を視察、安全対策を評価 花角英世知事の要望「しっかり対応」](#)

2025.11.24 新潟日報 [東京電力の小早川智明社長、信頼性回復へ「真摯に受け止める」 花角英世知事の柏崎刈羽原発再稼働判断受け](#)

2025.11.25 新潟日報 [柏崎刈羽原発から6方向へ避難道路整備、県が補正予算案に23億円 12月県議会提出へ
<社説>柏崎原発再稼働／不安と不信は解消したか](#)

2025.11.25 共同通信 [柏崎原発再稼働、議会で信任へ 新潟自民、知事の容認判断支持](#)

2025.11.25 新潟日報 [過半数占める自民県議団が花角知事の判断を「信任」へ…野党系は不信任案検討も結論出ず](#)

[【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 続き>

20

- 25.11.25 新潟日報 [花角知事の判断に抗議、1000人超が“人間の鎖”で県庁・県議会を囲んで声上げる【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)
- 2025.11.25 新潟日報 [“再稼働すれば2012年以来…規制事務所長「ソフト、ハードしっかり監視する」【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】²⁰²](#)
- 2025.11.26 新潟日報 [“柏崎刈羽原発の再稼働容認、撤回求め元上越市議男性が仮処分申し立てへ「議論尽くされていない」](#)
- 2025.11.26 共同通信 [再稼働交付金3千万円補正 柏崎刈羽、新潟知事が発表](#)
- 2025.11.26 新潟日報 [“花角知事が国に求めた7項目「真摯に対応」と木原官房長官【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】燕市長、上越市長の受け止めは”](#)
- 2025.11.26 新潟日報 [新潟商工会議所の廣田幹人会頭、花角知事の判断尊重【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)
- 2025.11.26 新潟日報 [柏崎刈羽原発の安全対策広報などの補正予算案は単独で県議会に提案 花角知事・再稼働問題「議論しやすいように」](#)
- 2025.11.26 新潟日報 [【柏崎刈羽原発テロ対策不備】「安全上の課題はない」原子力規制委の山中伸介委員長が見解](#)
- 2025.11.26 新潟日報 [経団連会長・12月1日の柏崎刈羽原発視察後に花角知事と面会 再稼働容認表明「歓迎」、電力消費地として謝意の見通し](#)

(次ページに続く)

概要に戻る

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地) 了>

- 2025.11.27 高知新聞 [【柏崎刈羽原発】見切り発車の再稼働容認](#)
- 2025.11.27 新潟日報 [村上、新発田、五泉の3市長「花角知事の判断を尊重」【柏崎刈羽原発の再稼働容認表明】](#)
- 2025.11.27 新潟日報 [“中原新潟市長、花角知事に“異例”の単独要望…再稼働のみ争点の選挙懸念「分断招く」【柏崎刈羽原発の再稼働容認】市議から批判の声も”](#)
- 2025.11.27 新潟日報 [“久保田郁夫・糸魚川市長、柏崎刈羽原発再稼働の知事判断を尊重 知事選望む声も「無視できない」](#)
- 2025.11.27 新潟日報 [柏崎刈羽原発再稼働「同意しないで」元原発技術者らが知事に要望書 「現状安全確保できない」](#)
- 2025.11.27 共同通信 [来年1月にも再稼働可能に 柏崎刈羽原発巡り東電所長](#)
- 2025.11.27 新潟日報 [柏崎刈羽原発、伝送装置が復旧 機器を交換、原因引き続き調査](#)
- 2025.11.27 新潟日報 [花角知事「県議会の信任で局面動く」 柏崎刈羽原発再稼働容認、職務懸けて決着図る意向](#)
- 2025.11.27 新潟日報 [【緊急アンケート結果発表】柏崎刈羽原発の再稼働容認、花角英世知事の判断に不支持多く、県民投票望む声が多数](#)
- 2025.11.28 新潟日報 [再稼働「容認」知事判断を県市長会が「尊重」、長岡市長は疑問視 柏崎刈羽原発巡り](#)
- 2025.11.29 新潟日報 [柏崎刈羽原発6号機「テロ対策施設」工事計画、東京電力が認可申請 3分割で提出方針、今回2回目](#)

概要に戻る

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類類

<泊原発>

2025.11.04 北海道新聞 [北電が泊再稼働へ説明会30回、理解は深まった? 安定供給、料金値下げ訴え 参加者から安全への懸念も<長谷川記者が読み解く>](#)

2025.11.04 共同通信 [議会が泊原発再稼働に同意 北海道共和町](#)

2025.11.06 北海道新聞 [泊村長ら20、21日に参考人招致 北海道議会連合審査会 泊3号機再稼働巡り](#)

2025.11.09 北海道新聞 [函館で泊原発3号機再稼働巡り説明会 参加者から反対の声相次ぐ](#)

2025.11.04 共同通信 [4町村議会が再稼働同意へ 泊原発周辺出そろう](#)

2025.11.13 北海道新聞 [泊原発再稼働の陳情採択 岩内町議会特別委 臨時議会で正式採択へ](#)

2025.11.14 共同通信 [泊原発の早期再稼働に同意 北海道神恵内村議会](#)

2025.11.14 北海道新聞 [神恵内村議会も泊再稼働に同意 陳情採択3例目](#)

2025.11.15 北海道新聞 [泊再稼働に否定的意見 旭川で北海道などが住民説明会](#)

2025.11.16 北海道新聞 [泊原発再稼働に不安の声 網走で北海道などが住民説明会](#)

2025.11.17 共同通信 [北海道泊村、再稼働に同意 原発周辺4町村で初](#)

2025.11.17 北海道新聞 [泊村村長、原発3号機再稼働に同意表明 地元自治体で初「村民、概ね理解」](#)

2025.11.19 北海道新聞 [泊村長に市民団体が抗議文 泊再稼働同意表明で 周辺3町村には不同意要請](#)

2025.11.20 共同通信 [泊原発の再稼働巡り国と質疑 北海道議会委、外国人避難問う](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類類

<泊原発 続き>

- 2025.11.20 北海道新聞 [泊原発事故時、バス避難できなければ「実動組織を動員」と国側 北海道議会・連合審査会の参考人質疑](#)
- 2025.11.21 北海道新聞 [泊原発再稼働で「経済波及効果」 道議会で村長 北電、安全対策や値下げ説明](#)
- 2025.11.21 北海道新聞 [泊原発再稼働、後志16市町村へ意見照会 北海道、判断材料に](#)
- 2025.11.21 北海道新聞 [泊原発再稼働に懸念の声 道など、釧路で住民説明会](#)
- 2025.11.24 北海道新聞 [泊原発再稼働 帯広で住民説明会 疑問や批判相次ぐ](#)
- 2025.11.25 北海道新聞 [泊原発3号機再稼働、容認方針表明へ 鈴木知事、28日の道議会で調整](#)
- 2025.11.25 北海道新聞 [北海道議会26日開会 泊原発再稼働、IR整備が焦点](#)
- 2025.11.25 共同通信 [泊原発再稼働に道知事が一定理解 議会で答弁へ、同意が焦点](#)
- 2025.11.26 北海道新聞 [泊原発3号機再稼働 神恵内村長が同意表明「安全性は保たれていると判断」共和町長も同意表明見通し](#)
- 2025.11.26 北海道新聞 [泊原発3号機再稼働、知事容認へ 北海道、議会で28日に表明方針](#)
- 2025.11.26 共同通信 [【速報】北海道共和町長が泊原発再稼働に同意](#)
- 2025.11.26 北海道新聞 [野党3会派、知事に「慎重な判断」要請 泊再稼働巡り 定例北海道議会開会](#)
- 2025.11.26 北海道新聞 [原発再稼働、「容認」と「同意」は何が違う？<ニュース虫めがね>](#)
- 2025.11.27 北海道新聞 [泊原発再稼働 北海道知事の拙速な意思表明反対 市民団体が要請書提出](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) /原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<泊原発 了>

- 2025.11.27 北海道新聞 [泊再稼働「論点を整理」札幌市長会見 地下鉄延伸は慎重姿勢](#)
- 2025.11.28 北海道新聞 [泊再稼働、鈴木知事容認 道議会で表明 同意判断12月10日にも](#)
- 2025.11.28 北海道新聞 [岩内町長、泊原発再稼働に同意表明](#)
- 2025.11.28 北海道新聞 [電気値下げ期待、事故リスク懸念 鈴木知事が泊原発「再稼働容認」表明、十勝の賛否割れる](#)
- 2025.11.28 北海道新聞 [泊再稼働を知事容認 北電の料金値下げにハードル 実現へ企業努力も欠かせず](#)
- 2025.11.28 北海道新聞 [知事の泊再稼働容認 「道民の声」すぐったか 審査合格から4カ月で判断](#)
- 2025.11.28 北海道新聞 [知事の泊原発再稼働容認 差し止め訴訟の原告弁護団「拙速で不適切」](#)
- 2025.11.30 北海道新聞 [泊原発「再稼働に反対を」帯広で市民団体が署名活動](#)

(次ページから各地の原発・核施設)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) /原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類類

<各地の原発・核施設>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(幌延深地層研究センター) 北海道幌延町/管理運営者:日本原子力研究開発機構(JAEA)/地下350m以上の深さへの放射性廃棄物の地層処分に関する研究を行う施設/設立:2001年

(泊原発) 北海道泊村/北海道電力/主契約者:三菱重工/加圧水型軽水炉(PWR)定格出力/1号機:定格出力57.9万kW運転開始1989年(停止中)/2号機:定格出力57.9万kW運転開始1991年(停止中)/3号機:定格出力91.2万kW運転開始2009年プルサーマルル炉(停止中)

※中項目「泊原発再稼働問題」参照

(大間原発1号機) 青森県大間町/電源開発株式会社(J-POWER)/主契約者:日立GEニュークリアエナジー・東芝/改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)/定格出力138.3万kW/2008年着工/MOX燃料炉(建設中)

(東北電力東通原発) 青森県東通村/東北電力/主契約者:日立GEニュークリアエナジー・東芝/1号機:沸騰水型軽水炉(BWR)定格出力110万kW運転開始2005年(停止中)/2号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力138.5万kW(計画)

2025.11.08 東奥日報 [東通原発 津波最大12.4メートル想定／東北電、評価見直し](#)

2025.11.13 東奥日報 [原発30キロ圏住民の自主避難、交通規制を緩和](#)

2025.11.20 共同通信 [【速報】東北電東通原発で試験や点検記録に不正](#)

2025.11.20 東奥日報 [監視装置性能試験で不正／東北電力東通原発](#)

2025.11.21 東奥日報 [7年間不正見抜けず 規制委「組織改善を」／東北電・東通原発](#)

2025.11.21 共同通信 [東通原発記録不正で陳謝 東北電社長、青森県に](#)

2025.11.21 東奥日報 [東通原発 再稼働「大きな影響ない」／東北電社長、試験不正を陳謝](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) /原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<各地の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(東京電力東通原発) 青森県東通村/青森県東通村/東京電力/主契約者:日立GEニュークリアエナジー・東芝/ 1号機:改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)定格出力138.5万kW運転開始2005年(建設中)/2号機:改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)定格出力138.5万kW(計画)

(六ヶ所再処理工場) 青森県六ヶ所村/所有者:日本原燃/核燃料の再処理工場/予定処理能力:ウラン800t/年/使用済燃料貯蔵容量:ウラン3000t(1993年着工、建設中)

2025.11.14 共同通信 [原燃、説明終了時期示さず 再処理工場の規制委審査で\(再掲\)](#)

(六ヶ所ウラン濃縮工場) 青森県六ヶ所村/所有者:日本原燃/ウラン238からの遠心分離法によるウラン235x濃縮/(1992年操業開始)

(リサイクル燃料備蓄センター) 青森県むつ市/所有者:リサイクル燃料貯蔵株式会社/使用済み核燃料の中間貯蔵施設/貯蔵量(最終):5000t/2010年着工(2024年受け入れ開始)

(女川原発) 宮城県女川町・石巻市/東京電力/主契約者:日立GEニュークリア・エナジー・三菱重工/ 1号機:BWR Mark-1定格出力52.4万kW運転開始1984年(廃止)/2号機:改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)定格出力82.5万kW (稼働中) /3号機:改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)定格出力82.5万kW運転開始(停止中)

2025.11.07 共同通信 [原発テロ対策施設、期限延長を 女川再稼働1年で東北電力部長 \(次ページに続く\)](#)

概要に戻る

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<各地の原発・核施設 続き>

*仕様等はwikipediaからの引用です

(柏崎刈羽原発) 新潟県柏崎市・刈羽村/東京電力/1号機:沸騰水型軽水炉(BWR)GE社設計Mark-2 定格出力110万kW 主契約者:東芝 運転開始1985年(停止中)/2号機:沸騰水型軽水炉(BWR)GE社設計Mark-2改 定格出力110万kW 主契約者:東芝 運転開始1990年(停止中) /3号機:沸騰水型軽水炉(BWR)GE社設計Mark-2改 定格出力110万kW 主契約者:東芝 運転開始1993年(停止中) /4号機:沸騰水型軽水炉(BWR)GE社設計Mark-2改 定格出力110万kW 主契約者:日立 1994年運転開始(停止中) /5号機:沸騰水型軽水炉(BWR)GE社設計Mark-2改 定格出力110万kW 主契約者:日立 運転開始1990年(停止中) /6号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR) 3社合同設計 定格出力135.6万kW 主契約者:東芝/日立/GE (運転開始1996年停止中) /7号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)] 3社合同設計 定格出力135.6万kW 主契約者:日立/東芝/GE運転開始1997年(停止中)

※中項目「泊原発再稼働問題」参照

(東海第2原発1号機) 茨城県東海村/日本原子力発電(日本原電)/主契約者:GE・日立製作所・清水建設/沸騰水型軽水炉(BWR)/定格出力110万kW/1978年運転開始(停止中)

2025.11.12 茨城新聞 [原発事故備え避難バス確保 茨城県、協会と協定 輸送要請、低線量条件に](#)

(東海再処理施設) 茨城県東海村/日本原子力研究開発機構/核燃料の再処理工場/原子燃料公社東海精錬所として1959年開所(2006年再処理業務終了)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) /原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<各地の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(浜岡原発) 静岡県御前崎市/中部電力/1号機:沸騰水型軽水炉(BWR-4)Mark-1 定格出力54万kW 主契約者: 運転開始1976年(2009年廃炉決定)/2号機:沸騰水型軽水炉(BWR-4)Mark-1 定格出力84万kW 主契約者: 運転開始1978年(2009年廃炉決定)/3号機:沸騰水型軽水炉(BWR-5改良標準型)Mark-1改 定格出力110万kW 主契約者: 運転開始1987年(停止中)/4号機:沸騰水型軽水炉(BWR-5改良標準型)Mark-1改 定格出力113.71万kW 主契約者: 1993年運転開始(停止中)/5号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR) 定格出力138万kW 運主契約者: 転開始2005年(停止中)/6号機:改良型沸騰水型軽水炉(ABWR) 定格出力140万kW級 主契約者: (計画)

2025.11.27 共同通信 [浜岡原発工事で不祥事20件 中部電、数十億円未精算](#)

2025.11.27 共同通信 [【速報】不祥事「心からおわび」と中部電社長](#)

(福井県)

2025.11.26 福井新聞 [辞意表明した杉本達治福井県知事、手堅い県政運営評価も道半ばで退場 北陸新幹線や原子力政策、アリーナなど重要課題残る](#)

2025.11.26 中日新聞 [福井県知事の辞職表明から一夜、知事選へ動き活発化 2026年1月25日投開票有力か](#)

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<各地の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(美浜原発) 福井県美浜町/関西電力/ **1号機運加圧水型軽水炉(PWR)定格出力34万kW運転開始1970年(廃止)**/2号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力50万kW運転開始1972年(廃止) /3号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力)定格出力82.6万kW運転開始1976年(稼働中)

2025.11.06	福井新聞	美浜原発の建て替え調査に着手 関西電力、福島第1事故後に新原発建設に向けた調査は初
2025.11.10	共同通信	関電、ボーリング調査に着手 福井・美浜原発新設へ、抗議も
2025.11.14	共同通信	関電、美浜原発の地質調査を公開 新設に向け
2025.11.14	中日新聞	【動画】福井県美浜原発の地質調査を初公開 原発新設へ、断層の有無や岩盤の強度調べる
2025.11.28	共同通信	美浜、高浜原発の差し止め認めず 原発危険性は「抽象的」と判断
2025.11.06	福井新聞 とは…	美浜、高浜原発差し止め認めず 名古屋高裁金沢支部が示す、原発の運転の可否決める担い手
2025.11.19	共同通信	美浜・高浜の仮処分、28日決定 原発運転差し止め訴訟

(高浜原発) 福井県高浜町/関西電力/ 1号機運加圧水型軽水炉(PWR)定格出力82.6万kW運転開始1974年(稼働中)/2号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力82.6万kW運転開始1975年(稼働中) /3号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力)定格出力87.0万kW運転開始1985年(稼働中)/4号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力) 87.0万kW運転開始1985年(稼働中)

概要に戻る

2025.11.04 福井新聞 [高浜原発2号機、60年まで運転可能に 原子力規制委が「長期施設管理計画」認可](#)

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) /原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<各地の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(高浜原発 続き)

- | | | |
|------------|-------------------------|---|
| 2025.11.14 | 共同通信 | 高浜原発2号機運転50年に 国内2基目、1号機に続き |
| 2025.11.15 | 福井新聞 | 高浜原発2号機が運転開始から50年…積み残された「バックエンド問題」 福井県高浜町 |
| 2025.11.17 | 福井新聞
(再掲) | 高浜原発にMOX燃料32体を搬入、2022年以来 フランスから輸送船到着、関西電力発表 |
| 2025.11.28 | 共同通信 | 美浜、高浜原発の差し止め認めず 原発危険性は「抽象的」と判断(再掲) |
| 2025.11.06 | 福井新聞
<u>とは…</u> (再掲) | 美浜、高浜原発差し止め認めず 名古屋高裁金沢支部が示す、原発の運転の可否決める担い手 |
| 2025.11.19 | 共同通信 | 美浜・高浜の仮処分、28日決定 原発運転差し止め訴訟 |

(大飯原発) 福井県おおい町/関西電力/ 1号機運転開始1979年(廃止)/2号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力117.5万kW運転開始1979年(廃止) /3号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力118万kW運転開始1991年(稼働中)/4号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力118万kW運転開始1993年(稼働中)

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】(更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) /原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<各地の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(敦賀原発) 福井県敦賀市/日本原子力発電(日本原電) / **1号沸騰型軽水炉(BWR)定格出力35.7万kW運転開始1970年(廃止)** /2号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力116万kW運転開始1987年(**停止中**) /3号機改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力定格出力153.8万kW(**計画**)

2025.11.19 共同通信 [敦賀2号機の追加地質調査を公開 原電、不合格受け9月開始](#)

2025.11.20 中日新聞 [「再稼働へ向けて慎重に」敦賀原発2号機の追加調査、現場を報道陣に初公開](#)

(もんじゅ) 福井県敦賀市/日本原子力研究開発機構/高速増殖炉(ナトリウム冷却高速炉)研究用原子炉/着工:1983年/運転開始:1991年/運転停止::2010年/廃止決定::2016年(廃炉作業中)

2025.11.15 共同通信 [原発メンテナンス会社が農業分野進出 もんじゅ廃炉後の地域見据え、福井・敦賀](#)

(ふげん) 福井県敦賀市/日本原子力研究開発機構/新型転換炉/着工:1970年/運転開始:1978年/運転終了::2003年(廃炉作業中)

(志賀原発) 石川県志賀町/北陸電力/ 主契約者:日立GE/1号機沸騰型軽水炉(BWR)定格出力54万kW[運転開始1993年(**停止中**)]/2号機BWR Mark-1改定格出力135.8万kW運転開始2006年(**停止中**)

2025.11.24 北國新聞 [石川で2年ぶり、住民参加の原子力防災訓練 240機関1700人参加](#)

2025.11.25 北國新聞 [原発事故避難、より迅速に 氷見で訓練、60機関670人参加](#)

概要に戻る

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管) / 原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<各地の原発・核施設>

(島根原発) 島根県松江市/中国電力/ **1号機(廃止)**/2号機沸騰型軽水炉(BWR)定格出力82.0万kW運転開始1989年(稼働中)
/3号機改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力137.3万kW(建設中)

- | | | |
|------------|------|--|
| 2025.11.01 | 中國新聞 | 松江市、原発事故に備え訓練 独自に要支援者の避難確認 |
| 2025.11.06 | 中國新聞 | 鳥取県と2市、中電に要請 原発30キロ圏は立地並み財源を (再掲) |
| 2025.11.06 | 中國新聞 | 島根原発30キロ圏内は屋内退避が基本 鳥取県、原子力災害時の計画修正 |
| 2025.11.10 | 中國新聞 | 中国電力、作業員1人不足で作業 島根原発燃料転倒で |
| 2025.11.10 | 中國新聞 | 島根原発巡り新財源 鳥取県側に中国電力 核燃料税相当分 (再掲) |
| 2025.11.29 | 中國新聞 | 島根原発の事故想定、広島や島根で防災訓練 |
| 2025.11.29 | 中國新聞 | 島根原発の事故想定訓練、記者2人がガルボ |

(上関原発) 山口県上関町/中国電力/ (計画)

- | | | |
|------------|------|---|
| 2025.11.15 | 中國新聞 | 山口県上関で反原発デー県民集会 160人参加 |
| 2025.11.27 | 中國新聞 | 山口の上関原発予定地埋め立て巡る訴訟、住民側の敗訴確定 |

(上関中間貯蔵施設) 山口県上関町/中国電力/ (計画)

(次ページに続く)

概要に戻る

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<各地の原発・核施設 続き>

※仕様等はwikipediaからの引用です

(伊方原発) 愛媛県伊方町/四国電力/ 1号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力56.6万kW運転開始1977年(廃止)/2号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力56.6万kW運転開始1982年(廃止)/3号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力89.0万kW運転開始1994年(稼働中)

2025.11.07	共同通信	伊方原発防災訓練28日から 国主催、複合災害を想定
2025.11.26	愛媛新聞	28日から国の原子力総合防災訓練 伊方中心に10年ぶり、2万人参加
2025.11.28	愛媛新聞	国の原子力総合防災訓練始まる 伊方などで150機関2万
2025.11.29	愛媛新聞	国の原子力防災訓練2日目 ヘリコプターや船による避難も実施

(玄海原発) 佐賀県玄海町/九州電力/ 1・2号機(廃止)/3号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力118.0万kW運転開始1994年(稼働中)/4号機加圧水型軽水炉(PWR)定格出力118.0万kW(稼働中)

2025.11.17	共同通信	玄海原発でテロ想定訓練 県警、陸自、海保3者連携
2025.11.18	西日本新聞	佐賀県警と陸上自衛隊が玄海原発周辺でテロ想定の共同訓練
2025.11.22	西日本新聞	[佐賀県]放射能設定誤り計測 県環境センターが訂正、6年以上 「玄海原発からの影響なし」
"2025.11.25	共同通信	【速報】玄海原発は異常なし

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

＜各地の原発・核施設 ア＞

※仕様等はwikipediaからの引用です

(川内原発) 鹿児島県川内市/九州電力 / 1号機運転開始1984年(稼働中)/2号機加圧水型軽水炉(PWR)運転開始1985年(稼働中) /3号機改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)定格出力159万kW(計画)

2025.11.01 南日本新聞 [【川内原発に乾式貯蔵施設を新設】「使用済み核燃料の最終処分場化する」との地元不安に九電社長「青森へ搬出する。方針ぶれてない」\(再掲\)](#)

2025.11.01 南日本新聞 [「使用済み核燃料の最終処分場になるのでは…」川内原発に乾式貯蔵施設を整備 地元の市民団体が不同意を鹿児島県に要請\(再掲\)](#)

2025.11.21 南日本新聞 [【川内原発に乾式貯蔵施設】「ここを\(使用済み核燃料の\)最終処分地にすることはない」九電幹部が地元で説明 薩摩川内市議会特別委が参考人招致\(再掲\)](#)

"2025.11.25 南日本新聞 [「核のごみ捨て場になる可能性高い」——市民団体「川内原発の乾式貯蔵を考える会」が計画撤回を訴えアンケート始める 2025/11/25 11:28川内原子力発電所 薩摩川内市 川内原発の乾式貯蔵を考える会 向原祥隆"\(再掲\)](#)

"2025.11.25 共同通信 [【速報】川内原発は異常なし](#)

"2025.11.28 共同通信 [【川内原発2号機が運転40年 全国7基目、延長期間に](#)

(次ページから未分類)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き 続き】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<未分類>

- 2025.11.01 共同通信 [救援カレンダー26年版を販売 チョルノービリの子どもを支援](#)
- 2025.11.05 共同通信 [放射性物質放出後も外出可 屋内退避中の通院や除雪、国判断た"](#)
- 2025.11.06 共同通信 [予見可能性の判断「誤り」 東電株主訴訟で上告理由書提出](#)
- 2025.11.07 共同通信 [対米投資文書「聞いていない」 原子炉建設候補の三菱重工社長](#)
- 2025.11.09 共同通信 [ロシア軍が原発変電所を標的か ウクライナへ集中攻撃](#)
- 2025.11.11 南日本新聞 [国が導入を目指す次世代型原発、小型モジュール炉の「短期間の開発は机上の空論」 元設計技術者が鹿児島市の講演で指摘](#)
- 2025.11.16 北海道新聞 [原発事故避難「3.11」から学ぶ 小樽で上映会とロールプレー](#)

(次ページに続く)

11 ③ イチエフに関する報道 【原子力発電、核施設をめぐる動き **了**】 (更新)

今月中区分:原子力発電のバックエンド(使用済み核燃料の最終処分・核燃料(ハーフ)サイクル・地上保管)/原発30キロ圏(UPZ)同意、財政措置/柏崎刈羽原発(電力消費地と原発立地)/泊原発/各地の原発・核施設/未分類

<未分類 **了**>

- 2025.11.19 共同通信 [手数料徴収ミス、新たに3件 原子力規制委、5年分確認](#)
- 2025.11.19 共同通信 [エジプト原発に原子炉設置 口国営企業、28年稼働目標](#)
- 2025.11.24 新潟日報 [東北電力巻原発計画跡地\(新潟市西蒲区\)はいま 路面崩落、漂流物散乱の浜…宙に浮く活用方法、原野化進む](#)
- 2025.11.24 共同通信 [水力発電187カ所で設備更新 脱炭素へ新型水車やAI](#)
- 2025.11.26 共同通信 [原発上空の飛行制限を検討 規制委、墜落備え対策強化](#)
- 2025.11.26 共同通信 [「原発5基、建て替え必要」電事連試算、実現性不透明](#)
- 2025.11.27 北海道新聞 [<小樽後志>選挙が守る民主主義 佐々木遼](#)